

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書

2018 年(平成 30 年) 1 月

藤沢市

目次

| | |
|------------------------------|----------|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 1. 調査実施の目的 | 3 |
| 2. 調査の種類 | 3 |
| 3. 調査方法と回収状況 | 3 |
| 4. 調査項目 | 3 |
| 5. 調査結果を見る上での注意事項 | 3 |
| 第2章 調査結果の詳細 | 5 |
| 1. あなた自身のことについて | 7 |
| (1) 性別 | 7 |
| (2) 年齢 | 7 |
| (3) 婚姻状況 | 7 |
| (4) 居住地区 | 8 |
| (5) 職業 | 9 |
| (6) 世帯全体の年間収入 | 9 |
| 2. 地域活動について | 10 |
| (1) 地域活動の周知状況 | 10 |
| (2) 地域活動への参加の頻度と参加理由 | 17 |
| (3) 地域活動を行う場として利用している施設 | 36 |
| (4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設 | 38 |
| (5) 地域活動に参加することに妨げとなること | 40 |
| 3. 市民活動について | 42 |
| (1) 市民活動への参加意向 | 42 |
| (2) 参加したい市民活動の分野 | 43 |
| (3) 市民活動に参加する理由 | 45 |
| (4) 市民活動に参加することに妨げとなること | 47 |
| (5) 市民活動団体に期待することの有無 | 49 |
| (6) 市民活動団体に期待することの内容 | 50 |
| (7) 市民活動団体に期待することがない理由 | 52 |
| (8) 市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと | 54 |
| (9) 市民活動について市に望むこと | 57 |
| 4. ボランティア活動について | 60 |
| (1) ボランティア活動への関心の有無 | 60 |
| (2) ボランティア活動の経験 | 62 |
| (3) ボランティア活動への参加の頻度 | 65 |

| | |
|--------------------------------|----|
| (4) 平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動 | 66 |
| (5) ボランティア活動に参加する理由 | 68 |
| (6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること | 70 |
| (7) 今後参加したいボランティア活動の分野 | 72 |
| (8) ボランティア活動について市に望むこと | 74 |
| 5. 寄付について | 76 |
| (1) 寄付経験の有無 | 76 |
| (2) 平成28年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数 | 79 |
| (3) 寄付を行った方法 | 81 |
| (4) 平成28年度に寄付をした団体 | 84 |
| (5) 平成28年度に寄付をした分野 | 87 |
| (6) 寄付をした理由 | 90 |
| (7) 寄付をするにあたり妨げとなること | 93 |
| (8) 寄付促進のために市に望むこと | 95 |
| 6. その他 | 97 |
| (1) 自由意見 | 97 |

第3章 調査票 99

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、市民活動推進計画における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討するための事前調査として、市民を対象とし、市民活動の現状及び日頃の暮らしの中で感じていることを調査することを目的とする。

2. 調査の種類

| 調査名 | 調査対象 |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 市民活動に関するアンケート調査 | 市内に住所のある満15歳から80歳までの市民 3,500名 |

3. 調査方法と回収状況

調査方法： 郵送によるアンケート調査

調査期間： 平成29年11月8日(水)～12月8日(金)

<回収状況>

| 調査名 | 発送数 | 回収数 | 回収率 |
|--------------------|--------|--------|-------|
| 1. 市民活動に関するアンケート調査 | 3,500件 | 1,480件 | 42.3% |

※調査期間終了後12月28日(金)までの回収分を含む、白票を除く

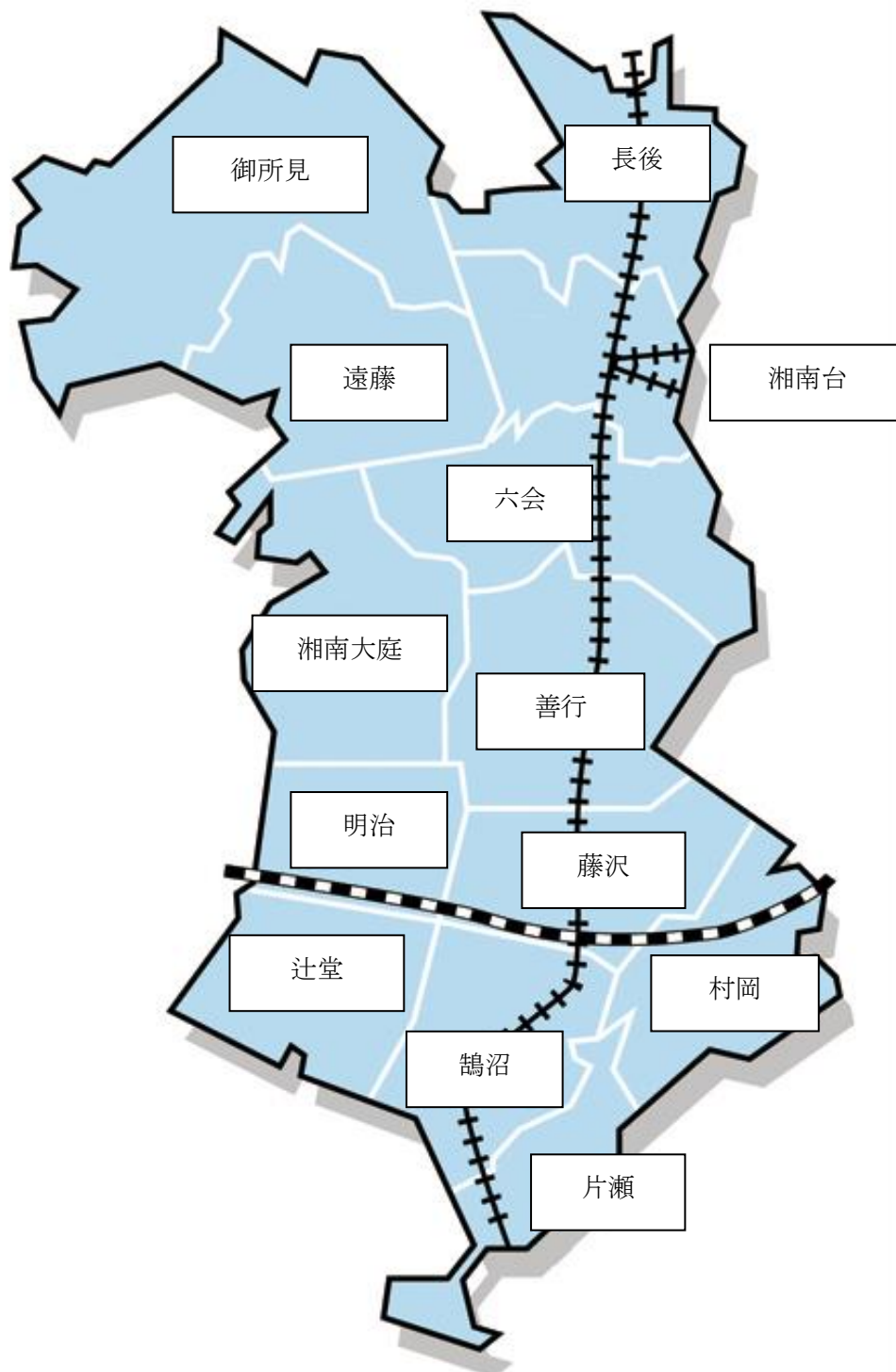
4. 調査項目

| 調査名 | 調査項目 |
|--------------------|---|
| 1. 市民活動に関するアンケート調査 | 1. あなた自身のことについて 2. 地域活動について 3. 市民活動について 4. ボランティア活動について 5. 寄付について 6. その他 |

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、少数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・報告書に記載されている13地区は次ページの通りである。

<藤沢行政13地区>

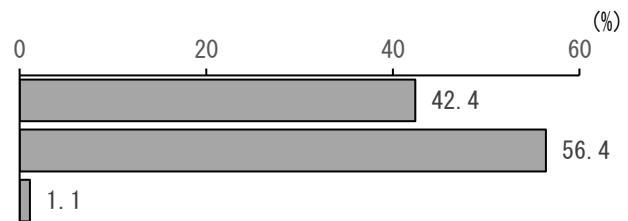


第2章 調査結果の詳細

1. あなた自身のことについて

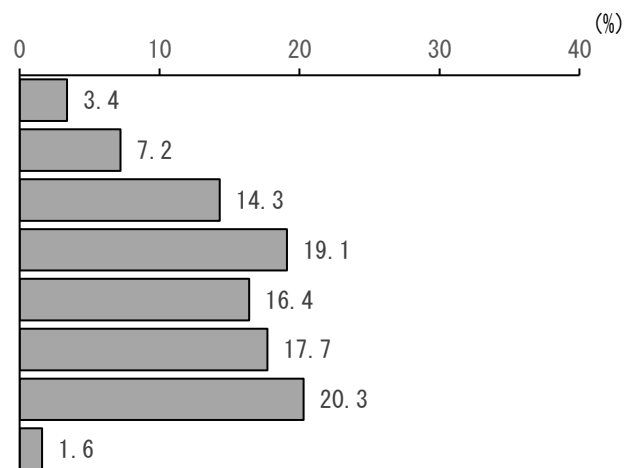
(1) 性別

| | 基数 | 構成比 |
|-----|-------|--------|
| 男 | 628 | 42.4% |
| 女 | 835 | 56.4% |
| 無回答 | 17 | 1.1% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |



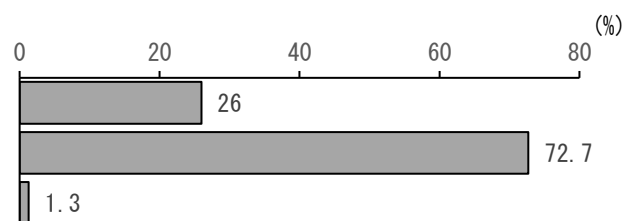
(2) 年齢

| | 基数 | 構成比 |
|-------|-------|--------|
| 10歳代 | 51 | 3.4% |
| 20歳代 | 107 | 7.2% |
| 30歳代 | 211 | 14.3% |
| 40歳代 | 282 | 19.1% |
| 50歳代 | 243 | 16.4% |
| 60歳代 | 262 | 17.7% |
| 70歳以上 | 300 | 20.3% |
| 無回答 | 24 | 1.6% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |



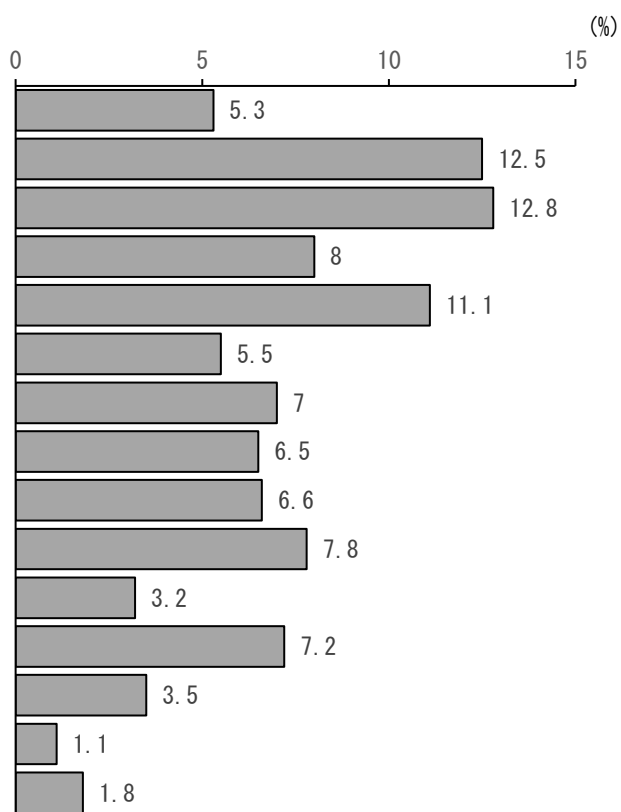
(3) 婚姻状況

| | 基数 | 構成比 |
|-----|-------|--------|
| 独身 | 385 | 26.0% |
| 既婚 | 1,076 | 72.7% |
| 無回答 | 19 | 1.3% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |



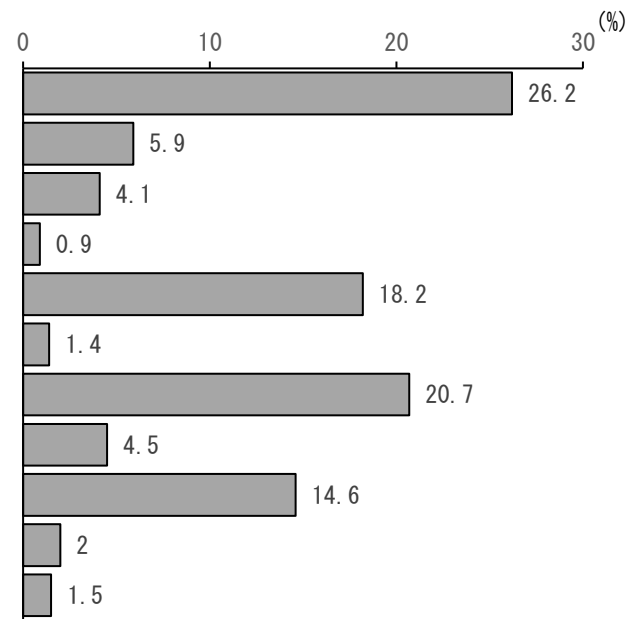
(4) 居住地区

| | 基数 | 構成比 |
|-------|-------|--------|
| 片瀬 | 78 | 5.3% |
| 鵜沼 | 185 | 12.5% |
| 辻堂 | 190 | 12.8% |
| 村岡 | 119 | 8.0% |
| 藤沢 | 165 | 11.1% |
| 明治 | 81 | 5.5% |
| 善行 | 104 | 7.0% |
| 湘南大庭 | 96 | 6.5% |
| 六会 | 97 | 6.6% |
| 湘南台 | 116 | 7.8% |
| 遠藤 | 48 | 3.2% |
| 長後 | 107 | 7.2% |
| 御所見 | 52 | 3.5% |
| わからない | 16 | 1.1% |
| 無回答 | 26 | 1.8% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |



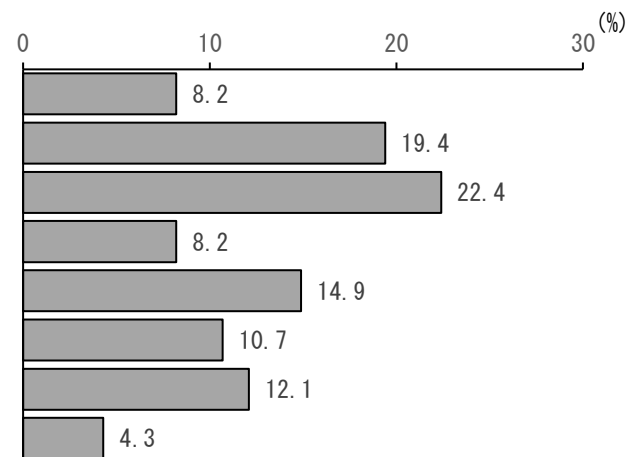
(5) 職業

| | 基数 | 構成比 |
|-----------------------------|-------|--------|
| 会社員 | 388 | 26.2% |
| 自営業・家族従業者 | 87 | 5.9% |
| 公務員 | 60 | 4.1% |
| 団体職員 | 13 | 0.9% |
| 派遣・契約社員、 パートタイム従業者、アルバイト | 270 | 18.2% |
| 会社役員・団体役員 | 21 | 1.4% |
| 主婦・主夫 | 307 | 20.7% |
| 学生 | 67 | 4.5% |
| 無職(主婦/主夫、学生を除く) | 216 | 14.6% |
| その他 | 29 | 2.0% |
| 無回答 | 22 | 1.5% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |



(6) 世帯全体の年間収入

| | 基数 | 構成比 |
|-------------------|-------|--------|
| 150万円未満 | 121 | 8.2% |
| 150万円以上～300万円未満 | 287 | 19.4% |
| 300万円以上～500万円未満 | 331 | 22.4% |
| 500万円以上～600万円未満 | 121 | 8.2% |
| 600万円以上～800万円未満 | 220 | 14.9% |
| 800万円以上～1,000万円未満 | 158 | 10.7% |
| 1,000万円以上 | 179 | 12.1% |
| 無回答 | 63 | 4.3% |
| 全 体 | 1,480 | 100.0% |

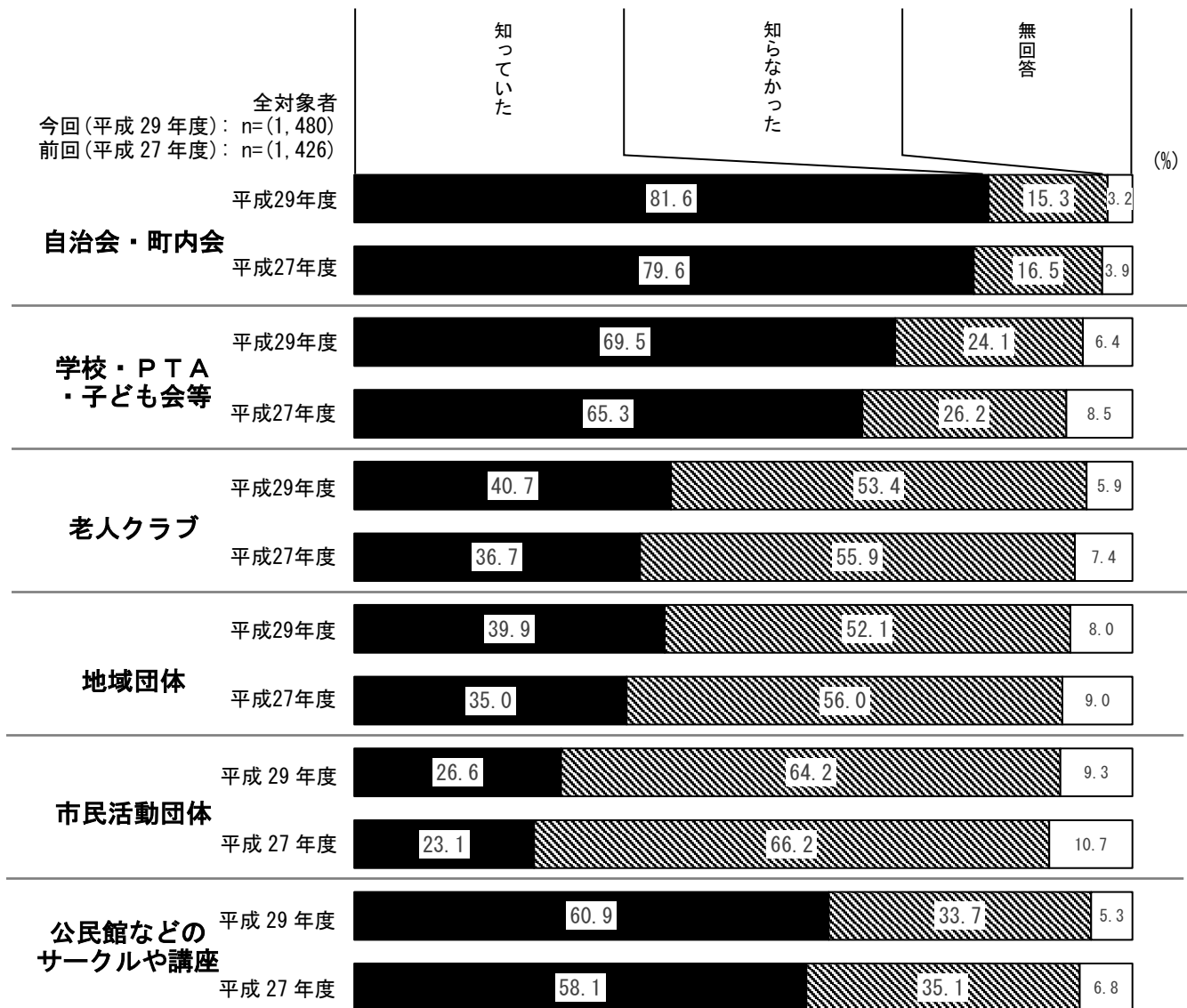


2. 地域活動について

(1) 地域活動の周知状況

問2-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに○)

【図表1：地域活動の周知状況】

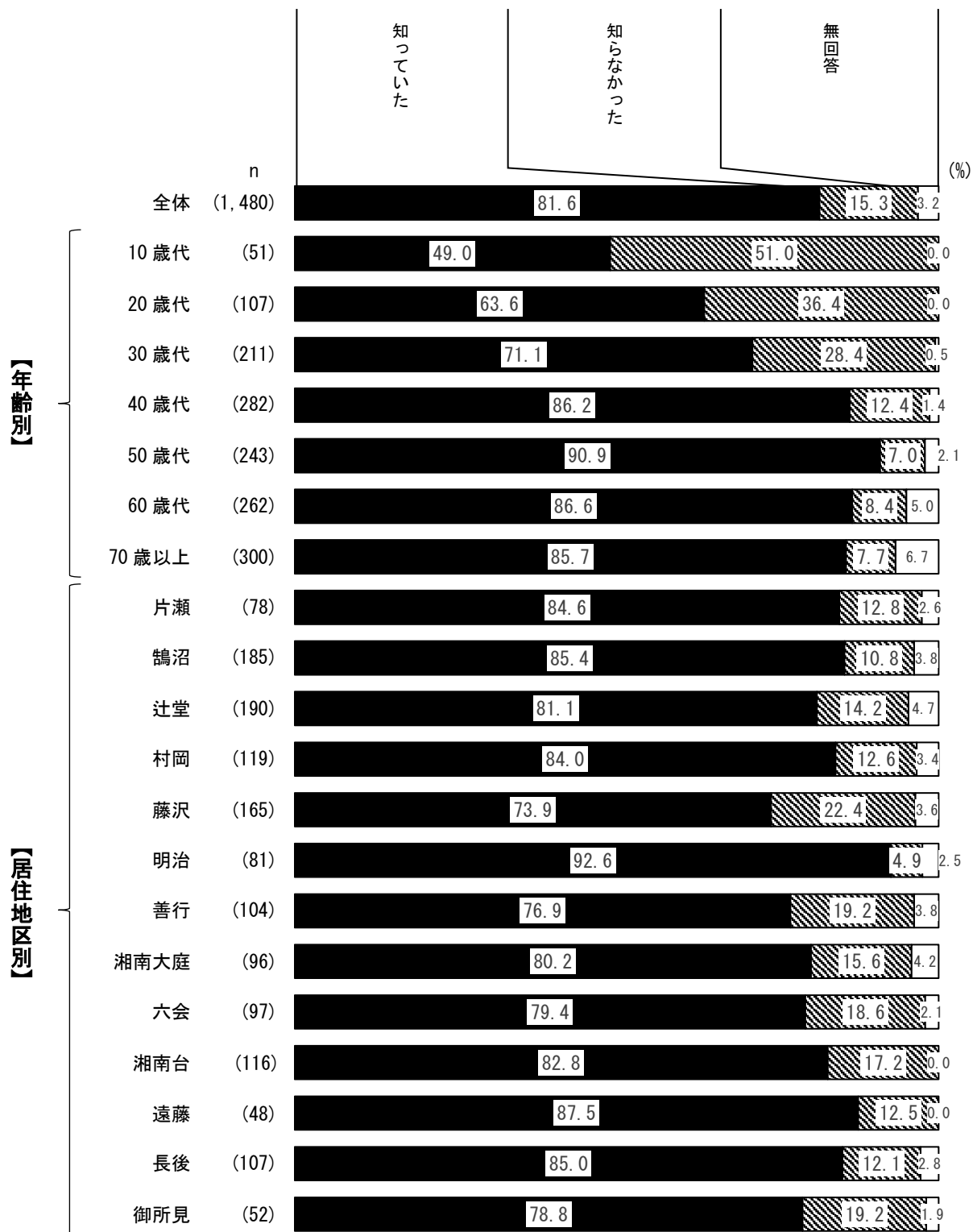


地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が81.6%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(69.5%)、「公民館などのサークルや講座」(60.9%)の順となっている。

一方、「市民活動団体」については64.2%が「知らなかった」とし、「老人クラブ」(53.4%)、「地域団体」(52.1%)も、「知らなかった」が5割を超えている。

なお、前回調査(平成27年度)と比較すると、いずれの地域活動についても「知っていた」割合が増えている。

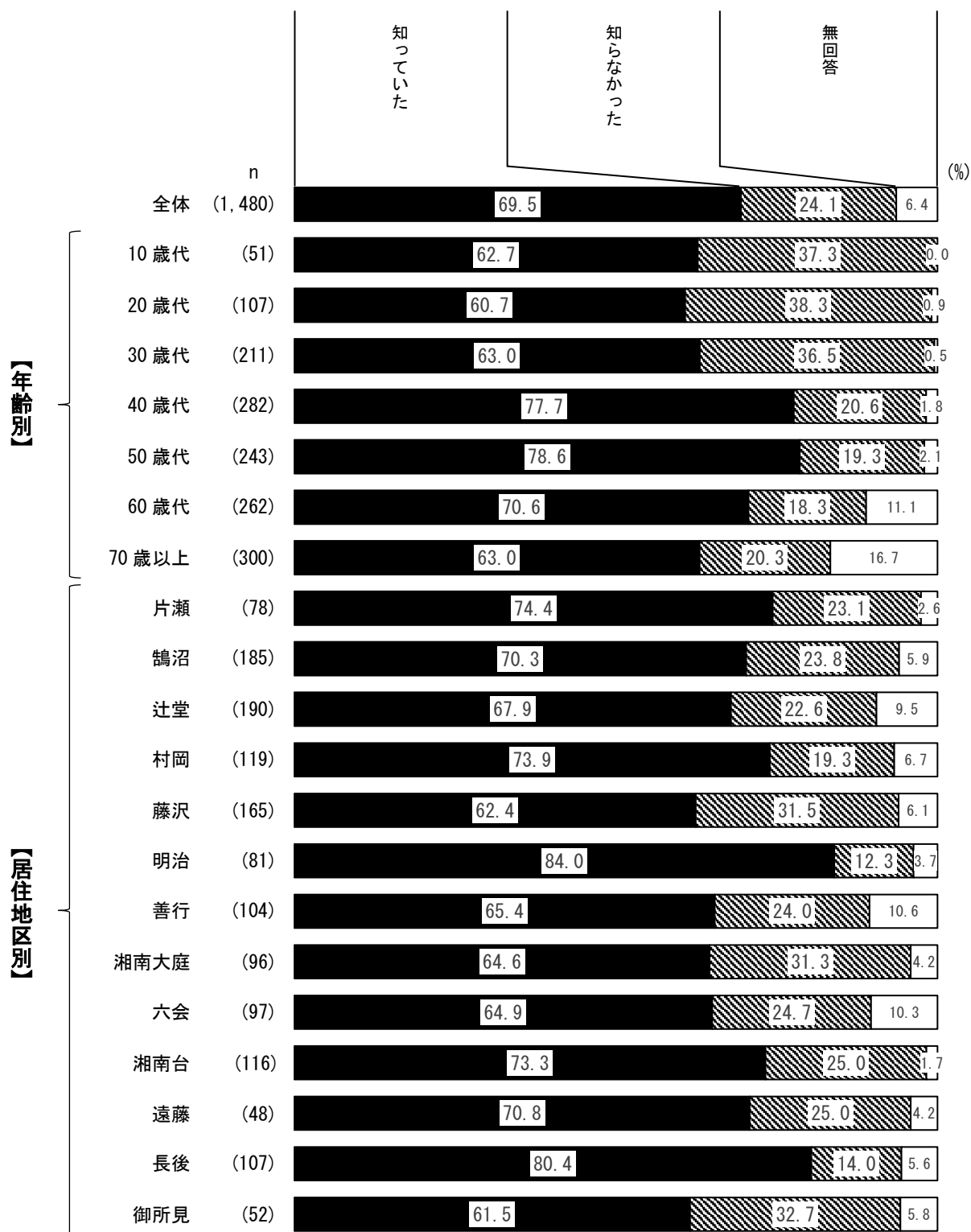
【図表2：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況①】自治会・町内会



「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、50歳代が90.9%と最も高くなっている。

居住地区別では、明治(92.6%)、遠藤(87.5%)、鶴沼(85.4%)、長後(85.0%)、片瀬(84.6%)などで「知っていた」割合が高くなっている。

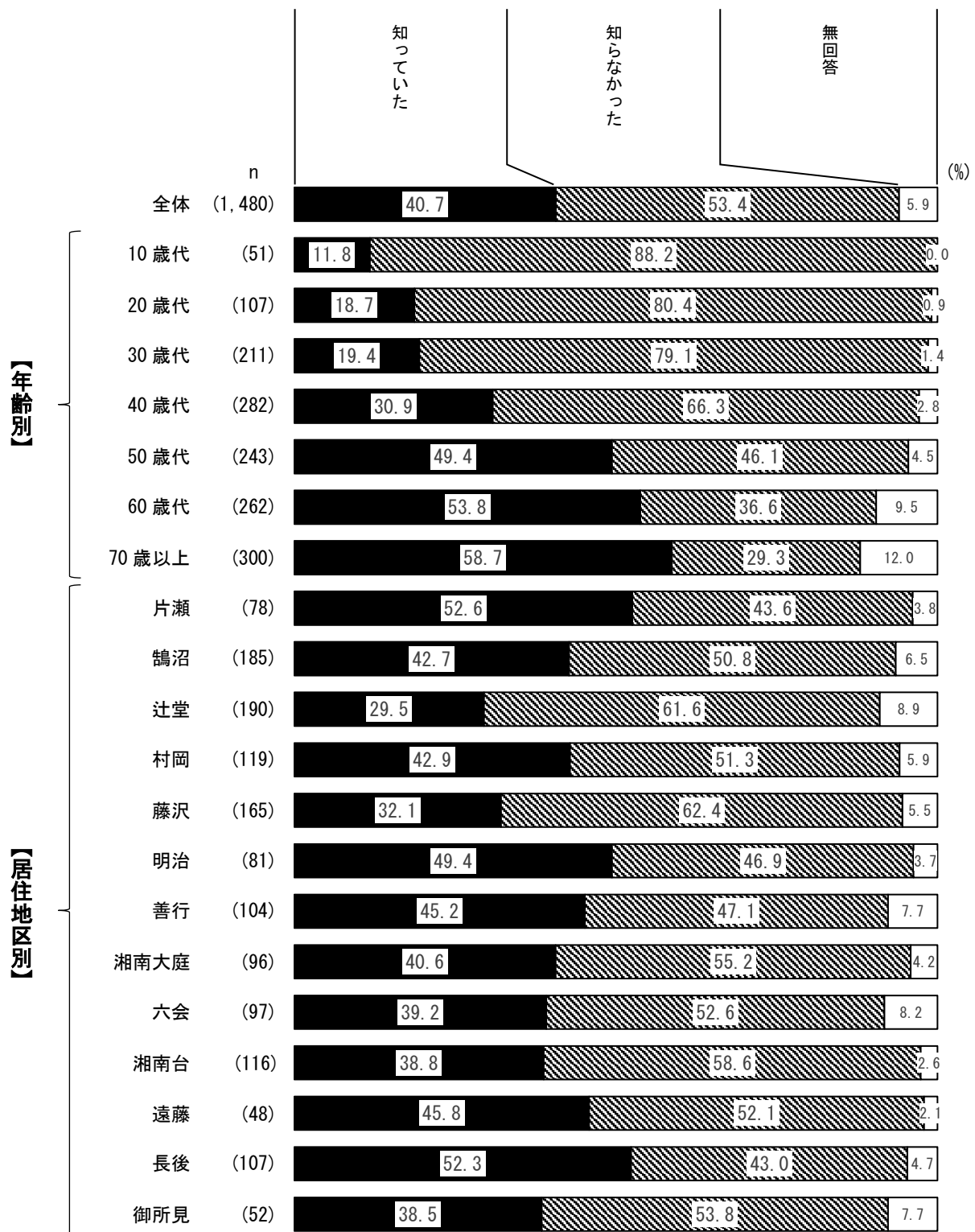
【図表3：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況②】 学校・PTA・子ども会等



「知っていた」の割合を年齢別にみると、40歳代（77.7%）と50歳代（78.6%）が8割近く、次いで60歳代が70.6%となっている。

居住地区別では、明治（84.0%）、長後（80.4%）で「知っていた」割合が8割以上となっている。

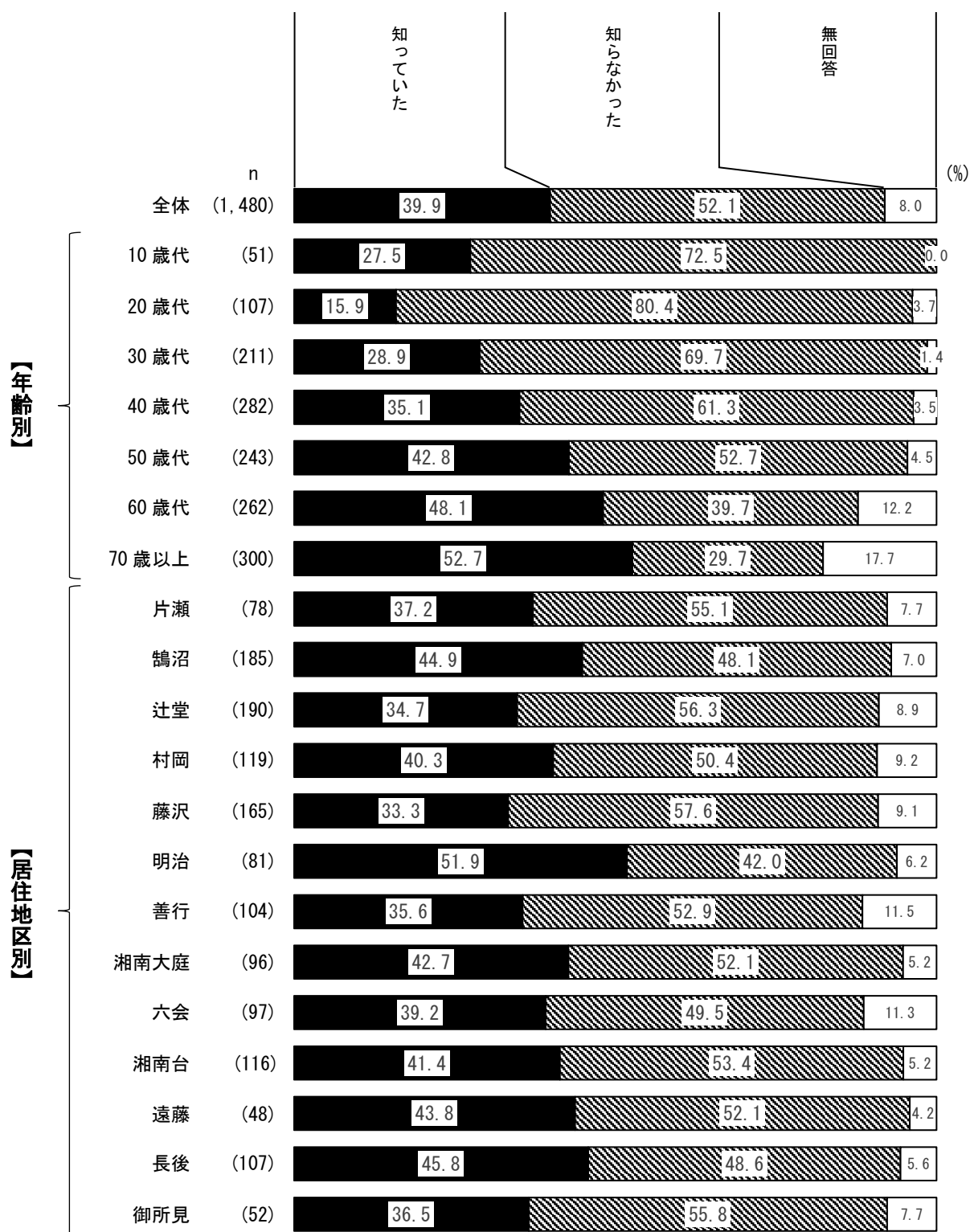
【図表4：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況③】老人クラブ



「知っていた」の割合は、年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上で58.7%、60歳代で53.8%となっている。

居住地区別では、片瀬（52.6%）、長後（52.3%）で「知っていた」割合が5割以上となっている。

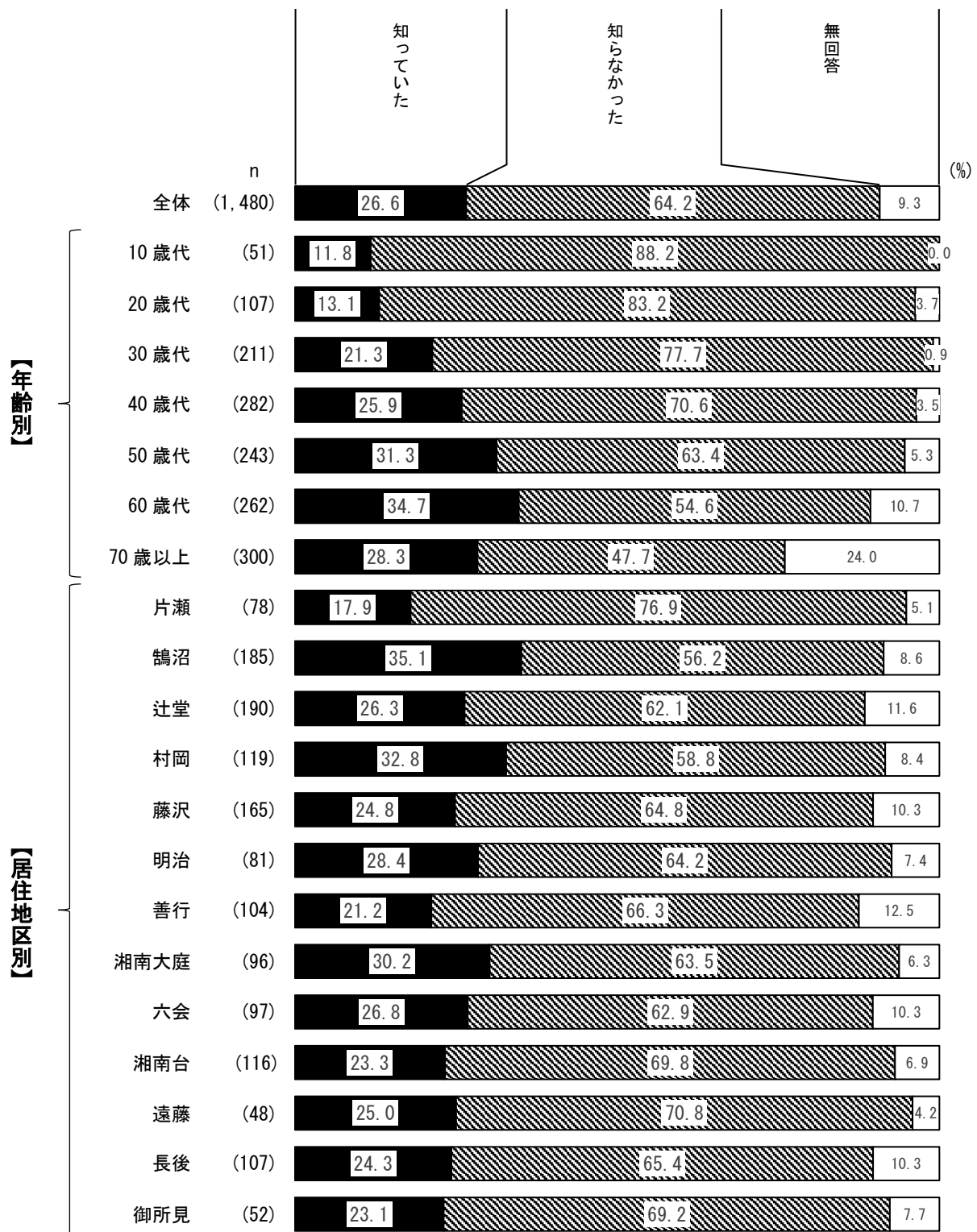
【図表5：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況④】**地域団体**



「知っていた」の割合を年齢別にみると、70歳以上（52.7%）が5割を超え、次いで、60歳代（48.1%）、50歳代（42.8%）の割合が高くなっている。

居住地区別では、明治（51.9%）のみ「知っていた」割合が5割を超え、次いで、長後（45.8%）、鶴沼（44.9%）、遠藤（43.8%）等で「知っていた」割合が高くなっている。

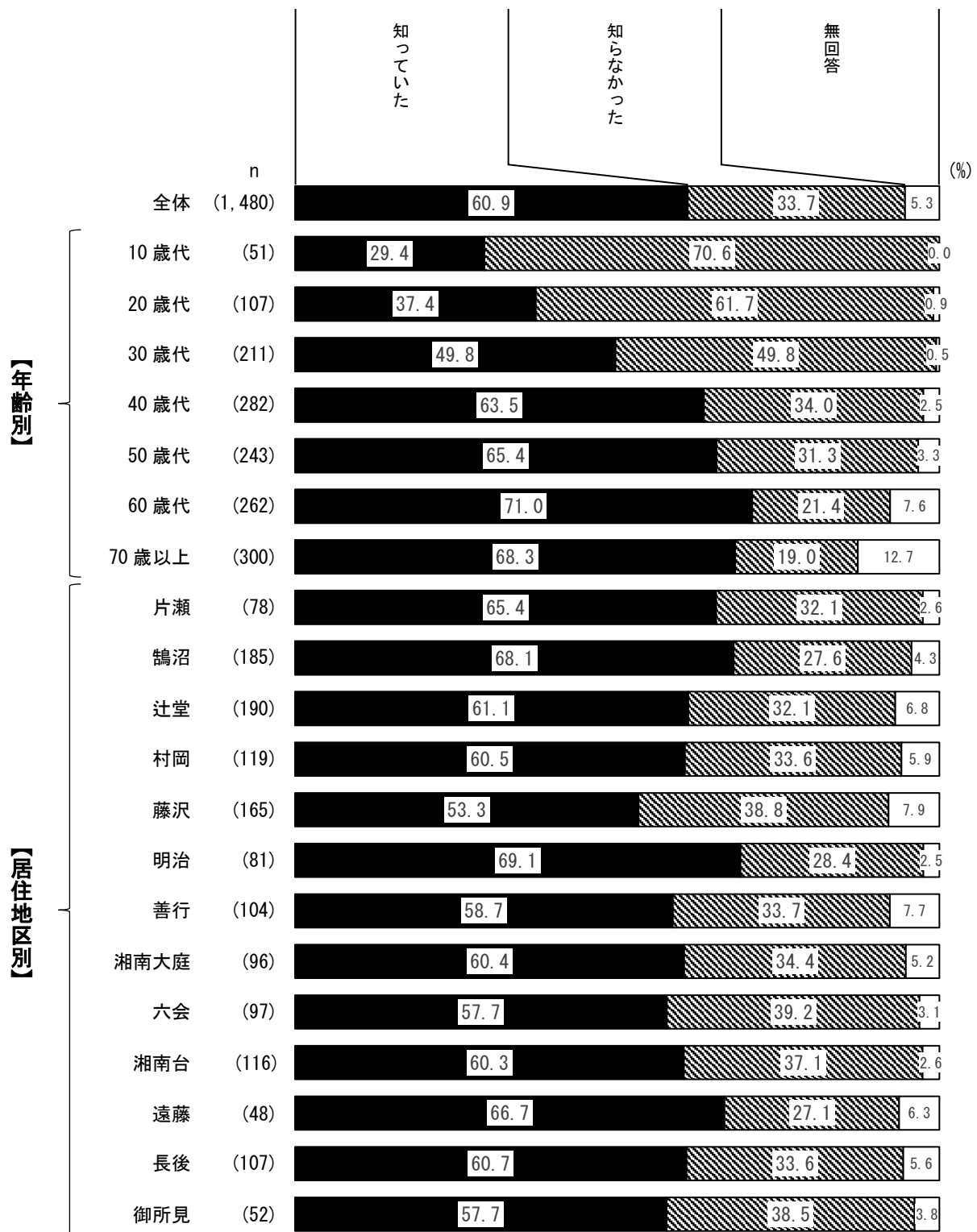
【図表6：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑤】市民活動団体（NPOを含む）



「知っていた」の割合を年齢別にみると、60歳代（34.7%）と50歳代（31.3%）で3割を超えている。

居住地区別では、鶴沼（35.1%）、村岡（32.8%）、湘南大庭（30.2%）で「知っていた」割合が3割以上と高くなっている。

【図表7：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑥】 公民館などのサークルや講座



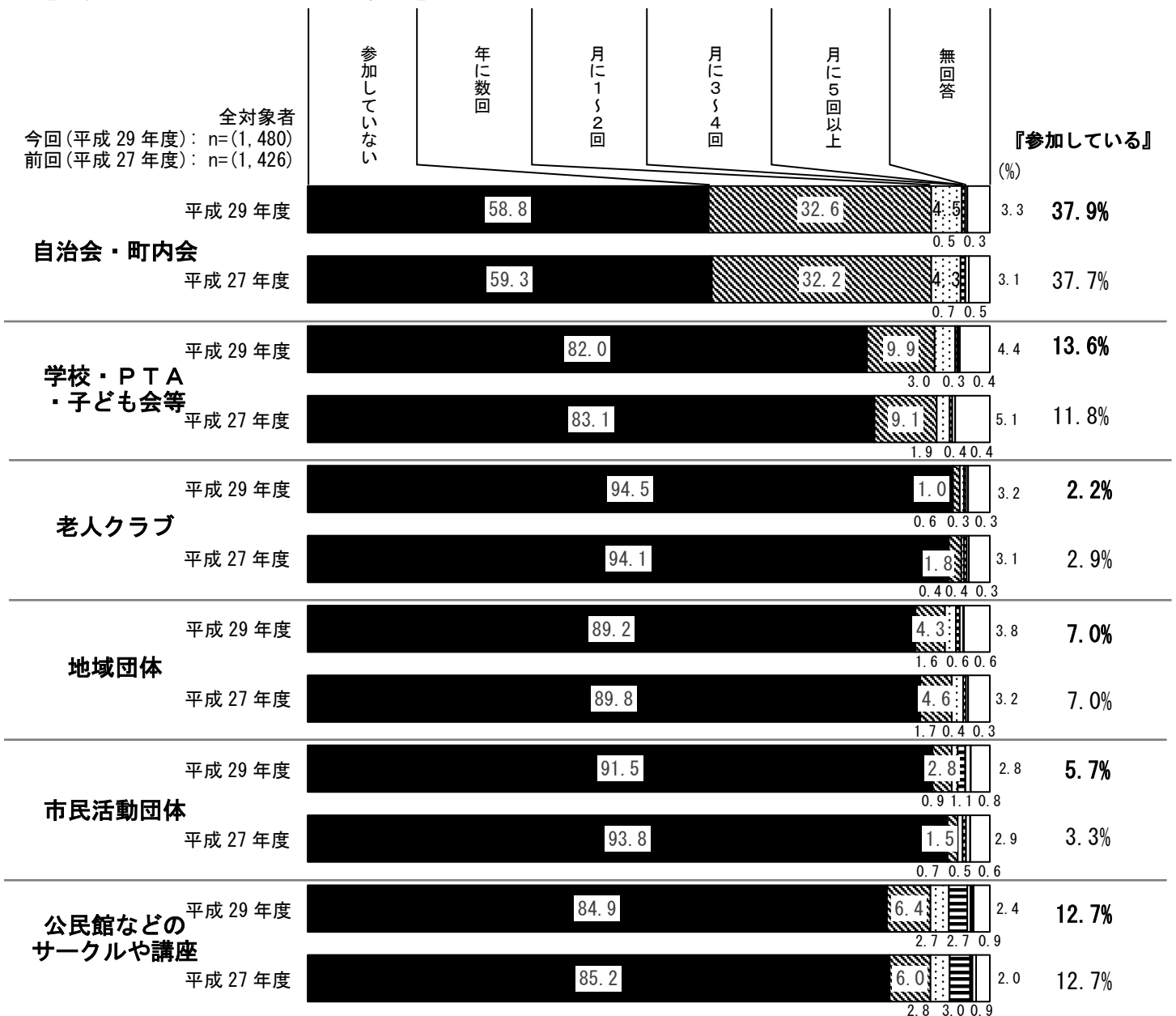
「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向となり、60歳代が71.0%と最も高くなっている。

居住地区別では、明治（69.1%）、鶴沼（68.1%）、遠藤（66.7%）、片瀬（65.4%）などで「知っていた」割合が高くなっている。

(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由

問2-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)
 また、参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

【図表8：地域活動への参加の頻度】



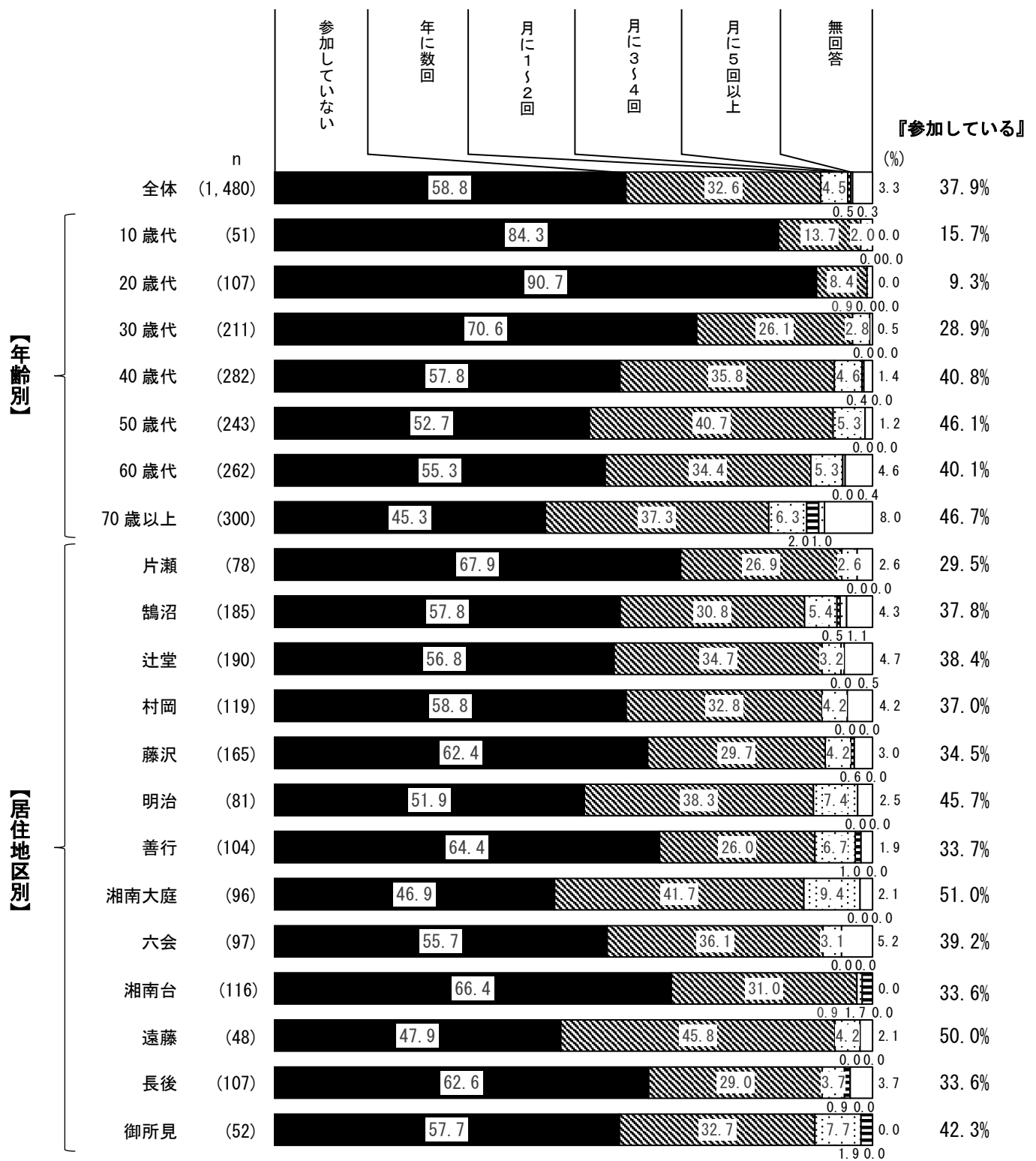
※『参加している』の数値は「年に数回」「月に1~2回」「月に3~4回」「月に5回以上」の合計値である。

地域活動への参加状況について、「月に5回以上」「月に3~4回」「月に1~2回」「年に数回」を合わせた『参加している』割合は「自治会・町内会」が37.9%で最も高いものの、「参加していない」は6割近くとなっている。

それ以外の活動について、「参加していない」割合が最も高いのは「老人クラブ」(94.5%)で、次いで「市民活動団体」(91.5%)、「地域団体」(89.2%)、「公民館などのサークルや講座」(84.9%)、「学校・PTA・子ども会等」(82.0%)の順となっている。

なお、前回調査(平成27年度)から大きな変化はみられない。

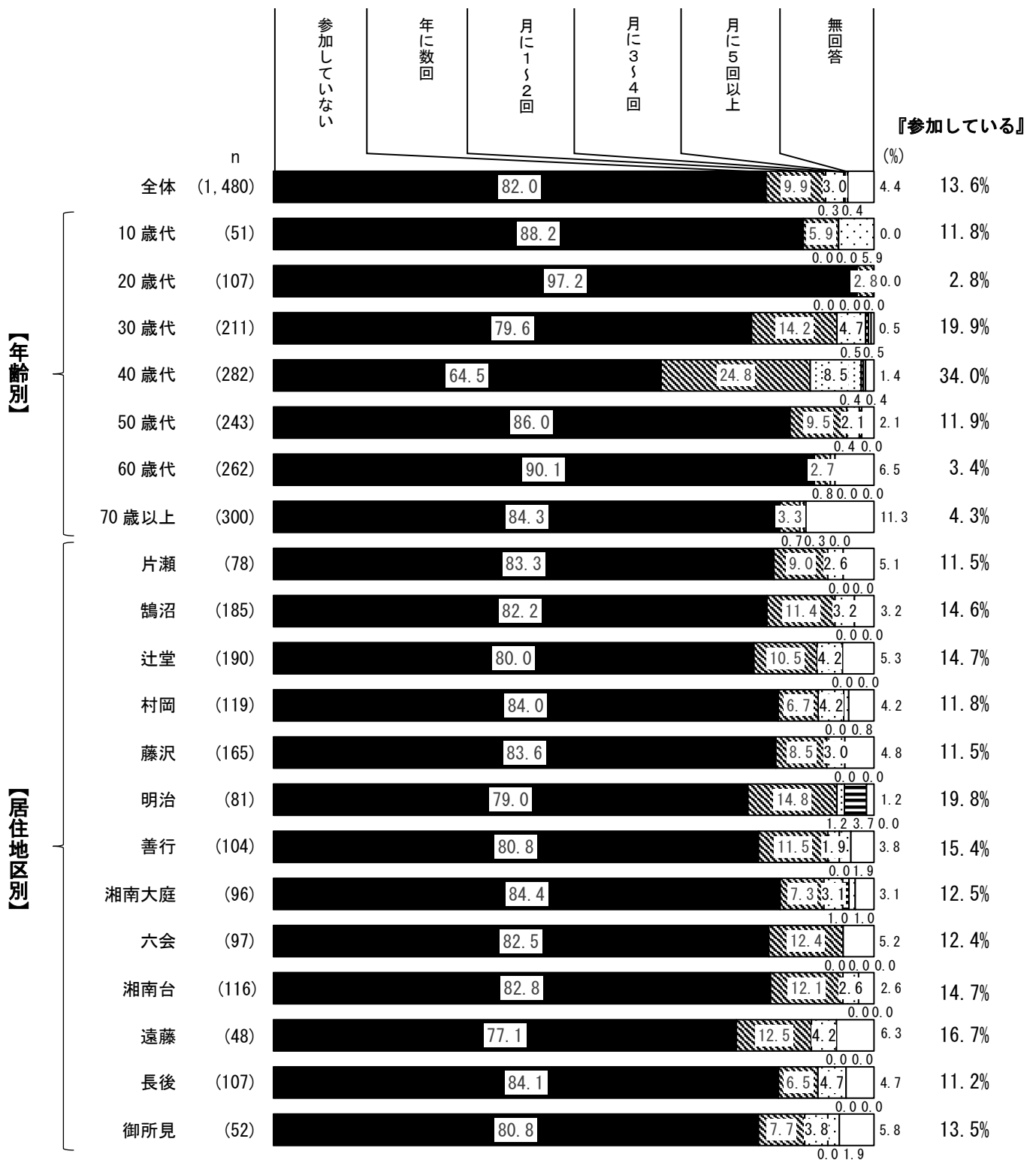
【図表9：年齢別・居住地区別／参加の頻度①】 自治会・町内会



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代以上（46.7%）や50歳代（46.1%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（90.7%）や10歳代（84.3%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、湘南大庭（51.0%）、遠藤（50.0%）などで高い一方、「参加していない」割合は、片瀬（67.9%）や湘南台（66.4%）などで高くなっている。

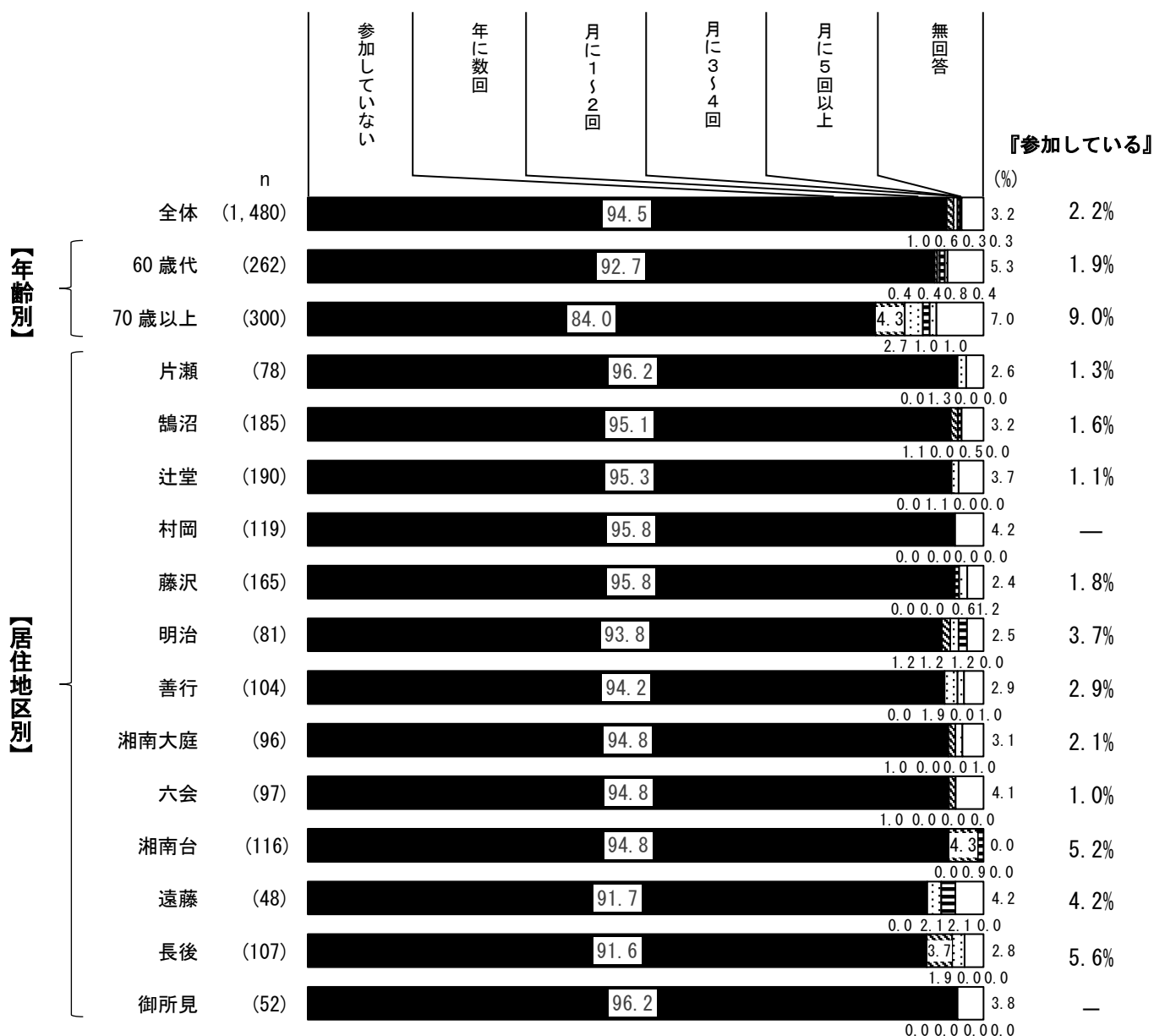
【図表10：年齢別・居住地区別／参加の頻度②】 **学校・PTA・子ども会等**



『参加している』割合を年齢別にみると、40歳代（34.0%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（97.2%）や60歳代（90.1%）で高くなっている。

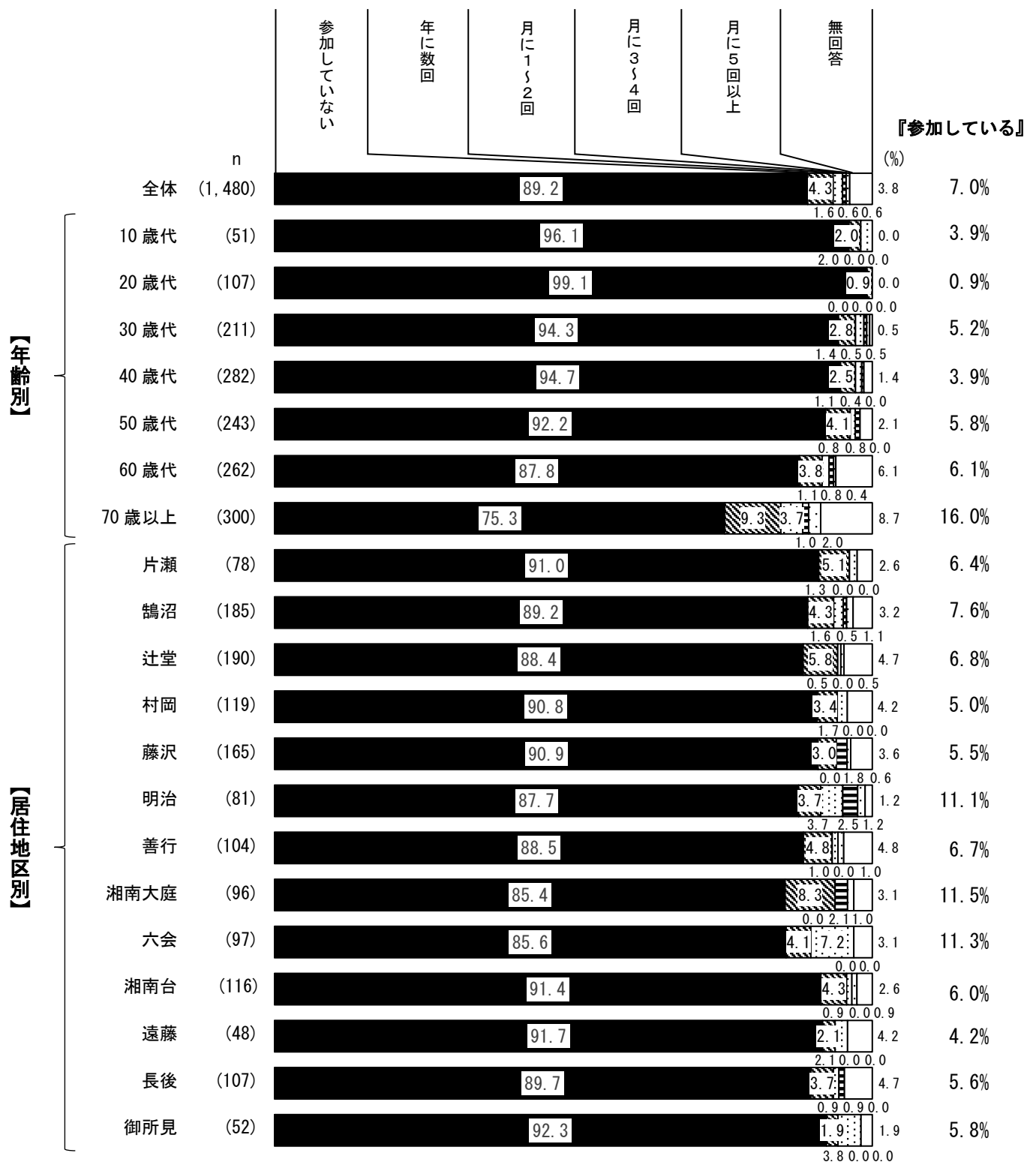
居住地区別に『参加している』割合をみると、明治（19.8%）、遠藤（16.7%）などで比較的高い。

【図表 1 1 : 年齢別・居住地区別／参加の頻度③】 老人クラブ



年齢別では、70歳代以上の『参加している』割合は9.0%、60歳代は1.9%となっている。
 居住地区別の『参加している』割合は、長後（5.6%）、湘南台（5.2%）などで比較的高い。

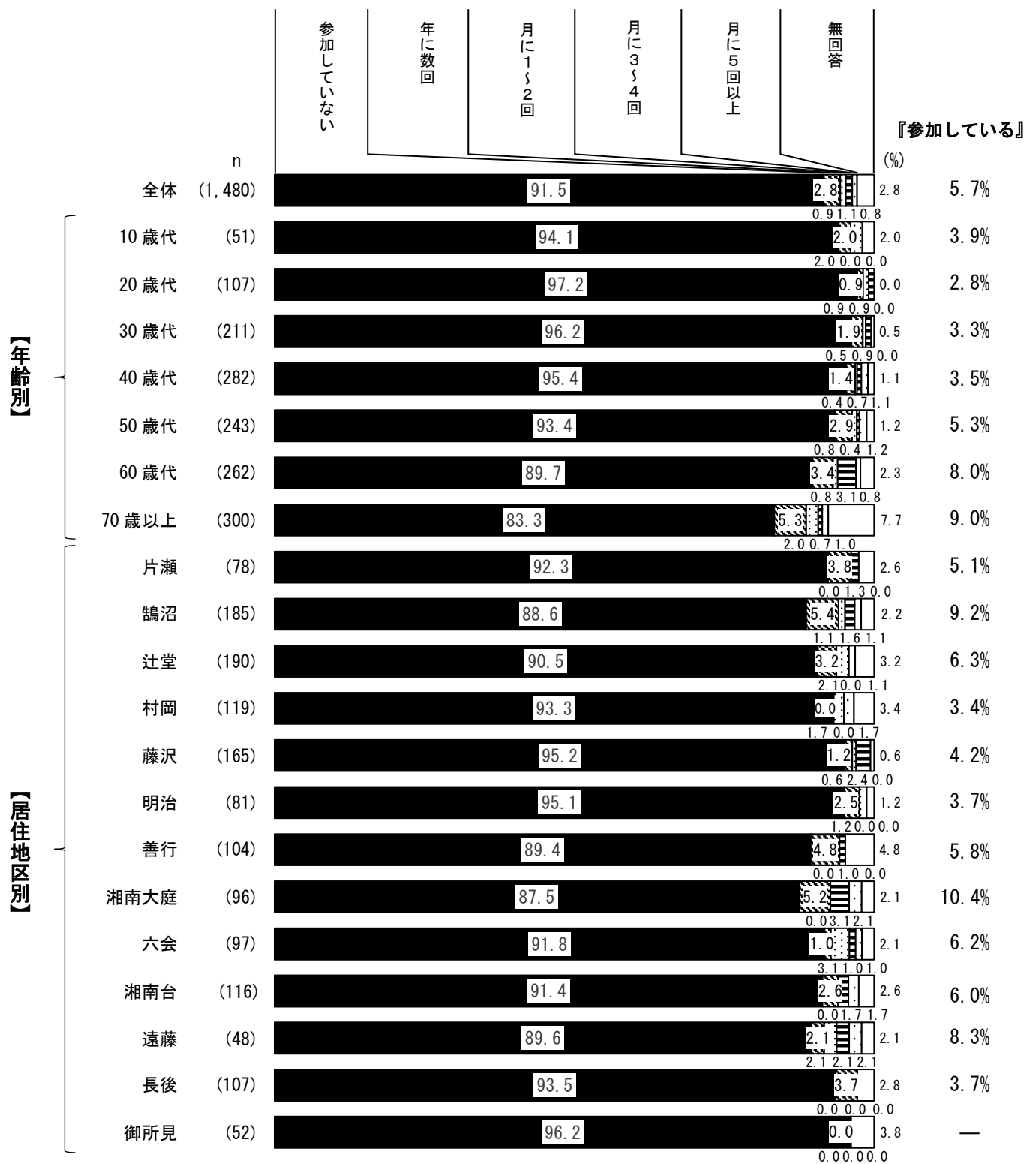
【図表 1 2 : 年齢別・居住地区別／参加の頻度④】 **地域団体**



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代以上が16.0%と高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代が99.1%と非常に高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、湘南大庭（11.5%）、六会（11.3%）、明治（11.1%）などで高い一方、「参加していない」割合は、御所見（92.3%）や遠藤（91.7%）などで高くなっている。

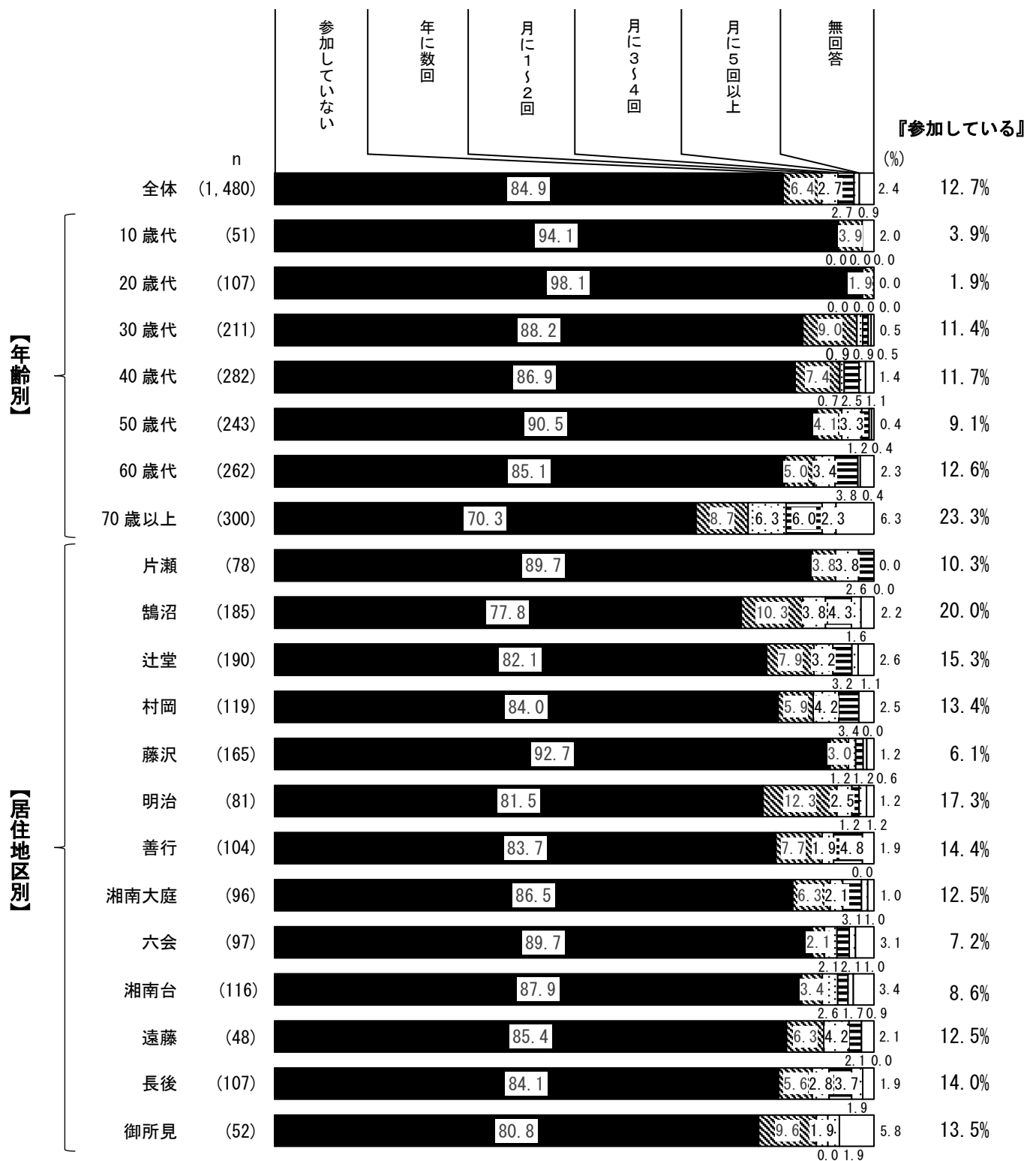
【図表13：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑤】市民活動団体（NPO含む）



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代以上（9.0%）や60歳代（8.0%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（97.2%）、30歳代（96.2%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、湘南大庭（10.4%）、鶴沼（9.2%）などで高くなっている。

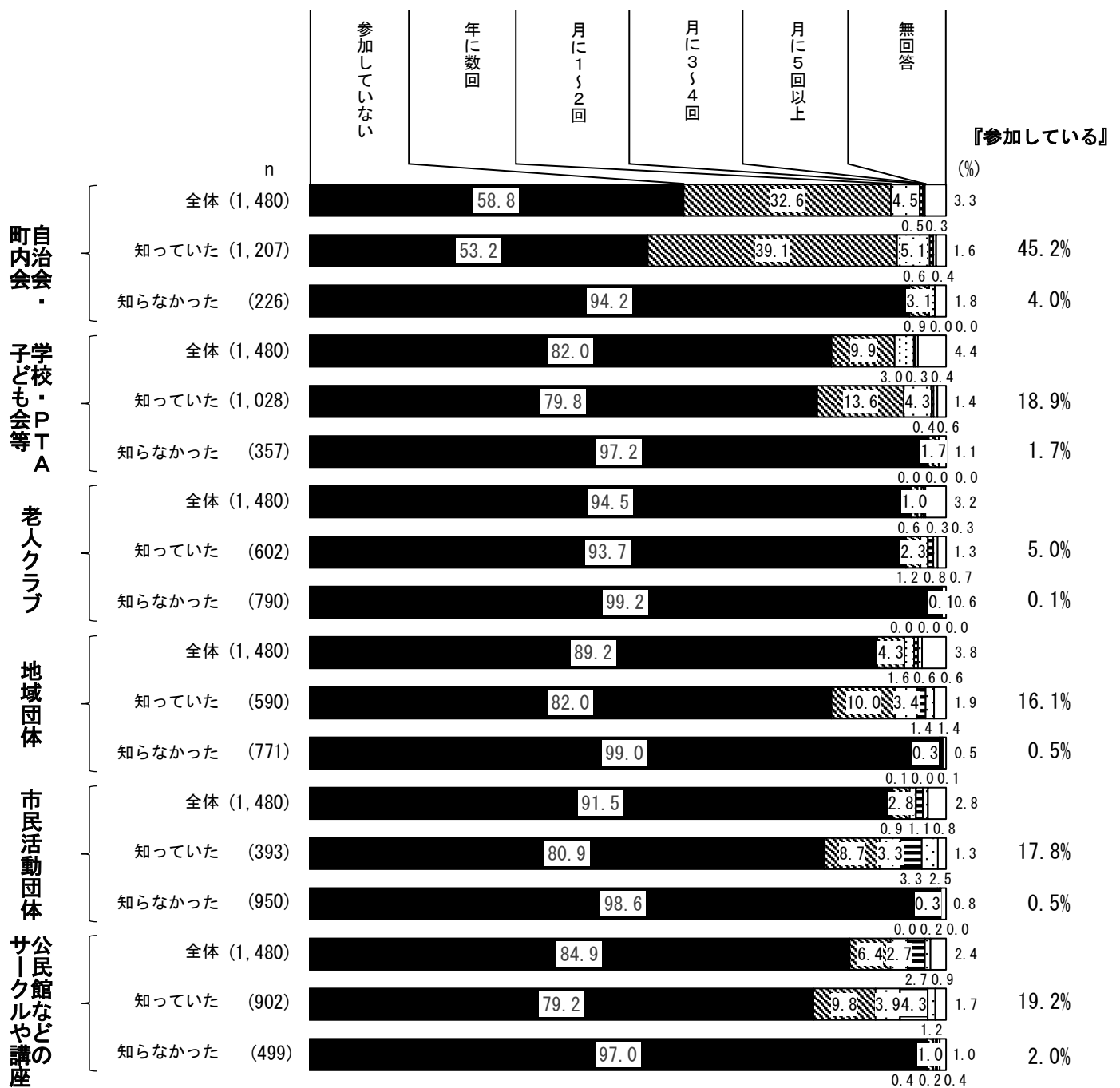
【図表14：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑥】 公民館などのサークルや講座



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代以上（23.3%）で割合が高くなっている一方、「参加していない」割合は、20歳代（98.1%）や10歳代（94.1%）で高くなっている。

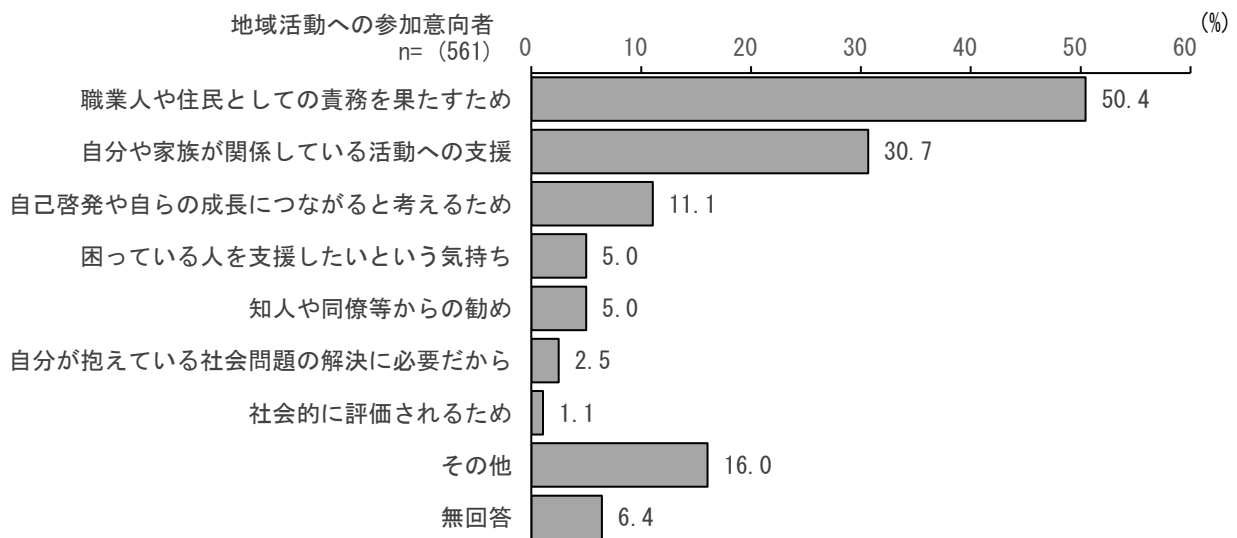
居住地区別に『参加している』割合をみると、鶴沼（20.0%）や明治（17.3%）などで高い一方、「参加していない」割合は、藤沢（92.7%）や片瀬（89.7%）、六会（89.7%）などで高くなっている。

【図表15：地域活動の認知状況別／参加の頻度】



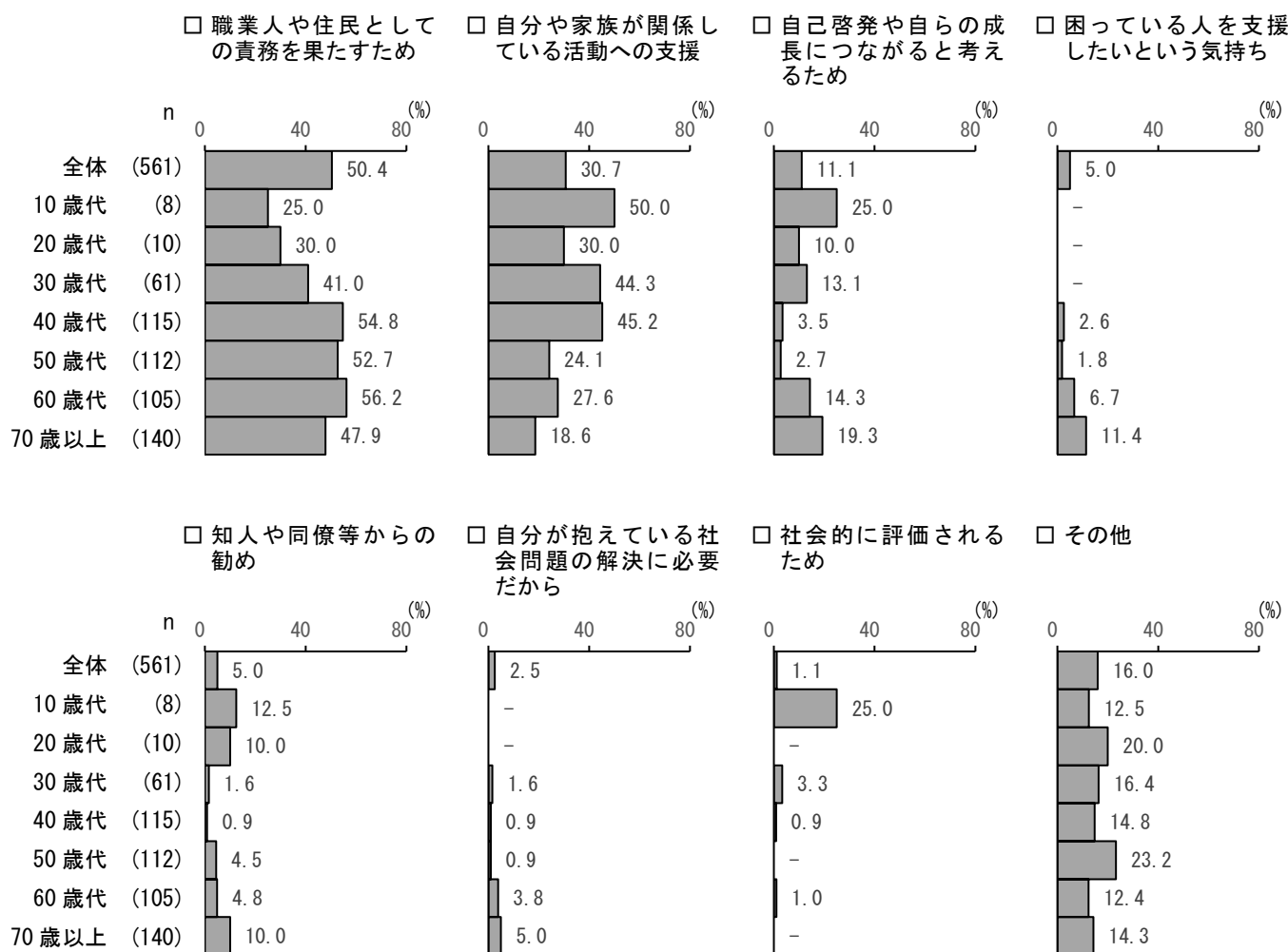
地域活動の認知状況別で見ると、「自治会・町内会」を「知っている」で『参加している』割合は45.2%、「学校・PTA/子ども会等」を「知っている」で『参加している』割合は18.9%、「老人クラブ」を「知っている」で『参加している』割合は5.0%、「地域団体」を「知っている」で『参加している』割合は16.2%、「市民活動団体（NPOを含む）」を「知っている」で『参加している』割合は17.8%、「公民館などのサークルや講座」を「知っている」で『参加している』割合は19.2%となっている。

【図表16：地域活動の参加の理由①】自治会・町内会



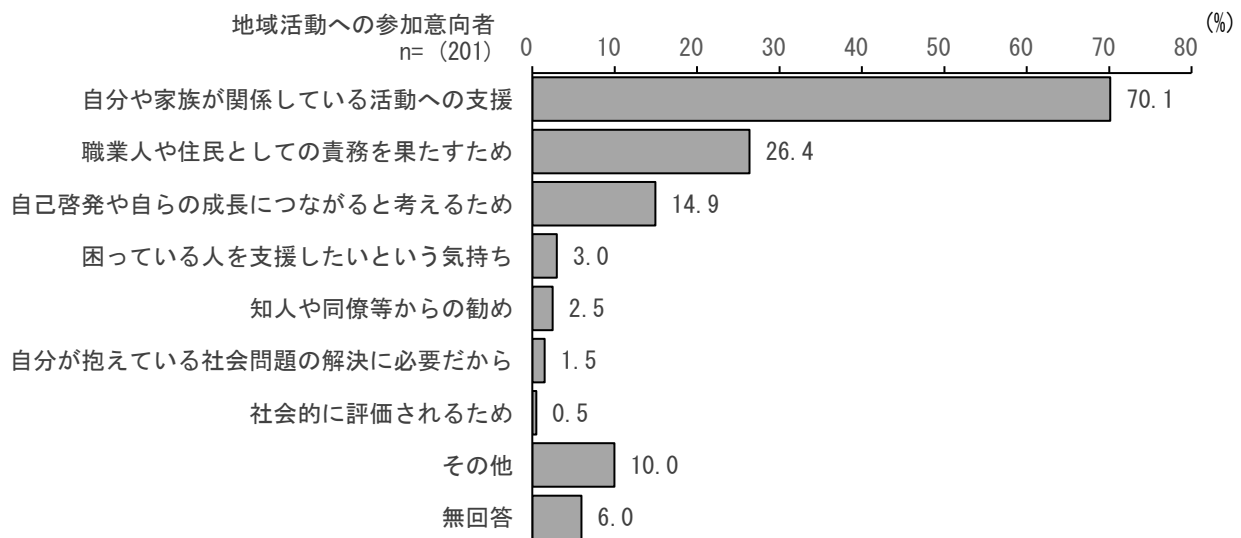
自治会・町内会への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が50.4%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」(30.7%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(11.1%)の順となっている。

【図表17：年齢別／参加の理由①】自治会・町内会 上位8項目



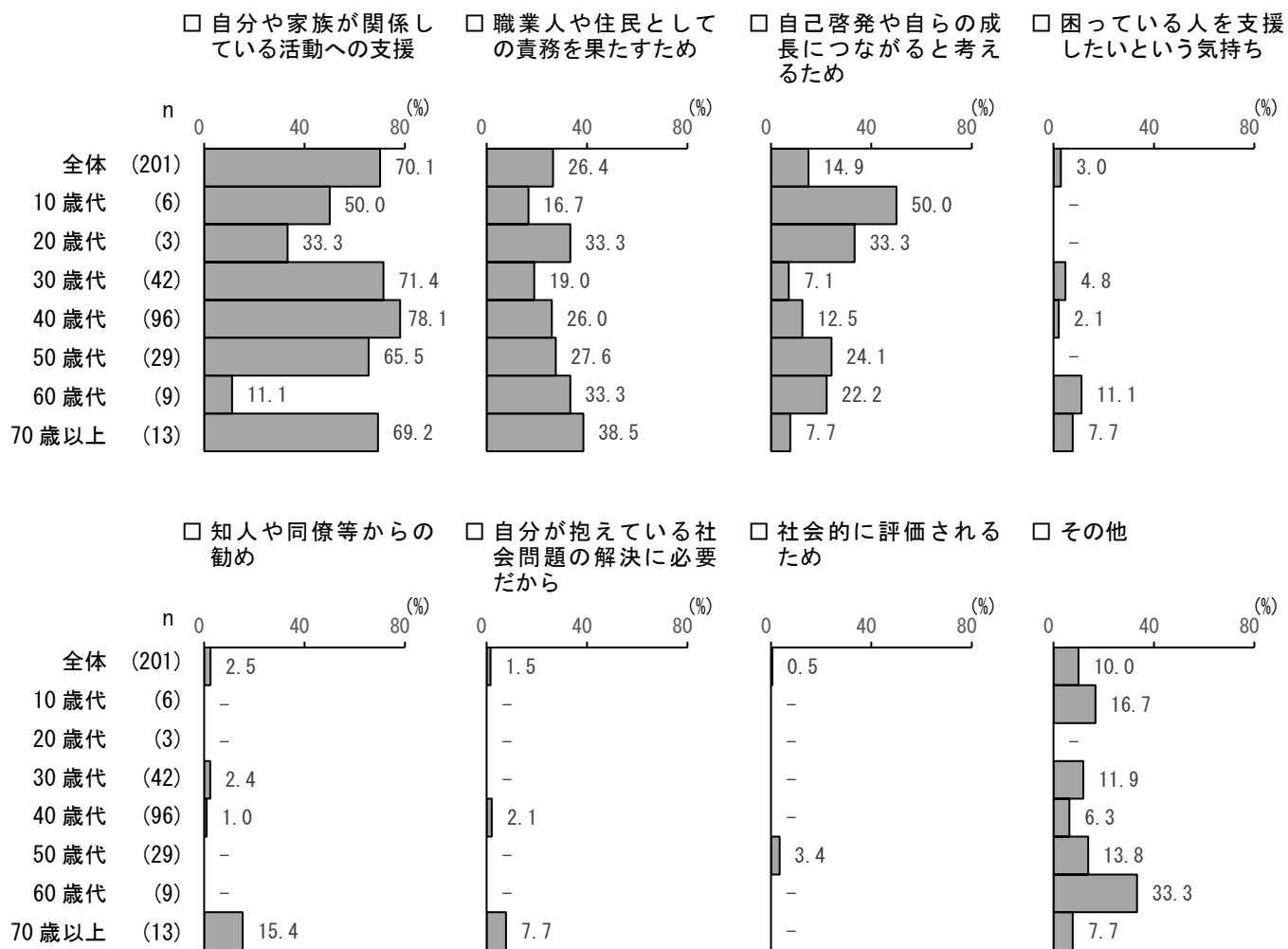
「職業人や住民としての責務を果たすため」を年齢別で見ると、60歳代が56.2%と最も高くなっている。「自分や家族が関係している活動への支援」は、40歳代（45.2%）や30歳代（44.3%）が他の年代に比べ割合が高くなっている。

【図表18：地域活動の参加の理由②】 学校・PTA/子ども会等



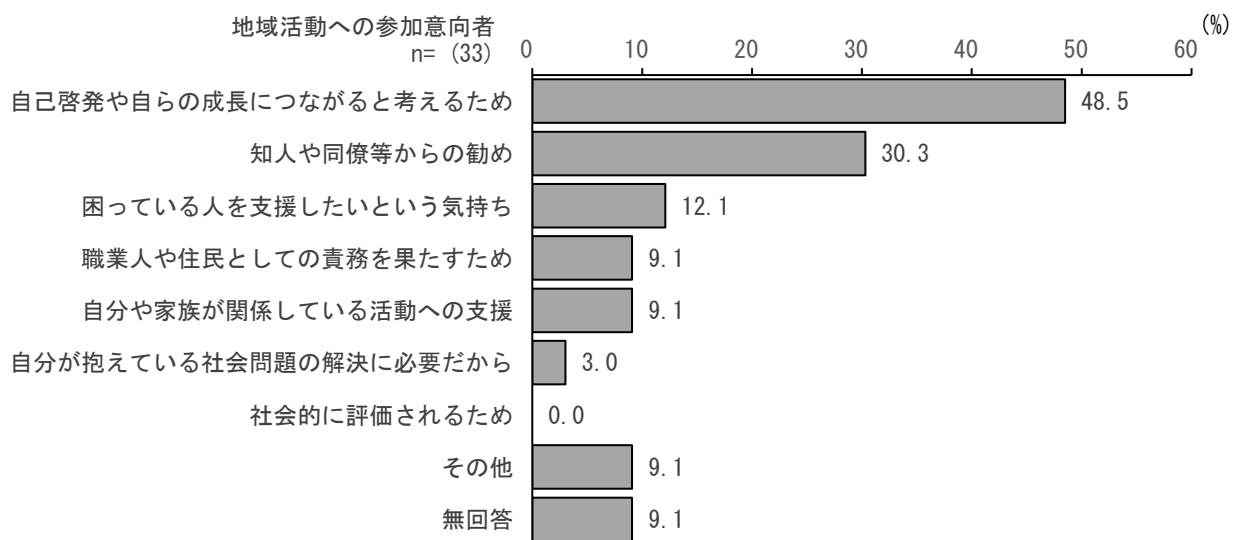
学校・PTA・子ども会への参加理由については、「自分や家族が関係している活動への支援」が70.1%と圧倒的に高く、次いで、「職業人や住民としての責務を果たすため」(26.4%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(14.9%)の順となっている。

【図表19：年齢別／参加の理由②】 **学校・PTA・子ども会等** 上位8項目



年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

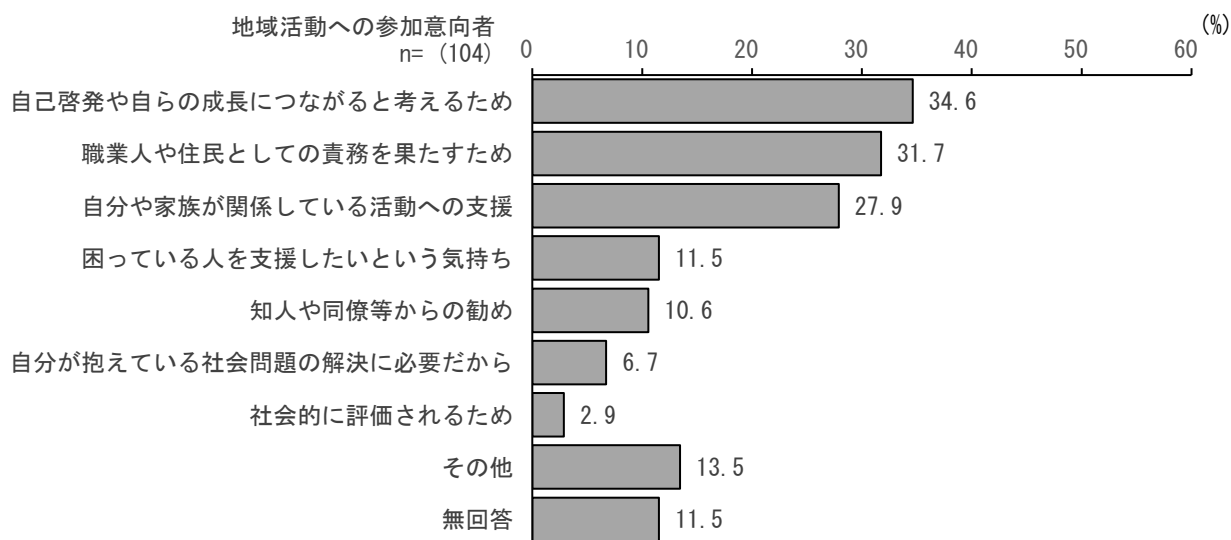
【図表20：地域活動の参加の理由③】老人クラブ



老人クラブへの参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が48.5%と最も高く、次いで「知人や同僚等からの勧め」(30.3%)となっている。

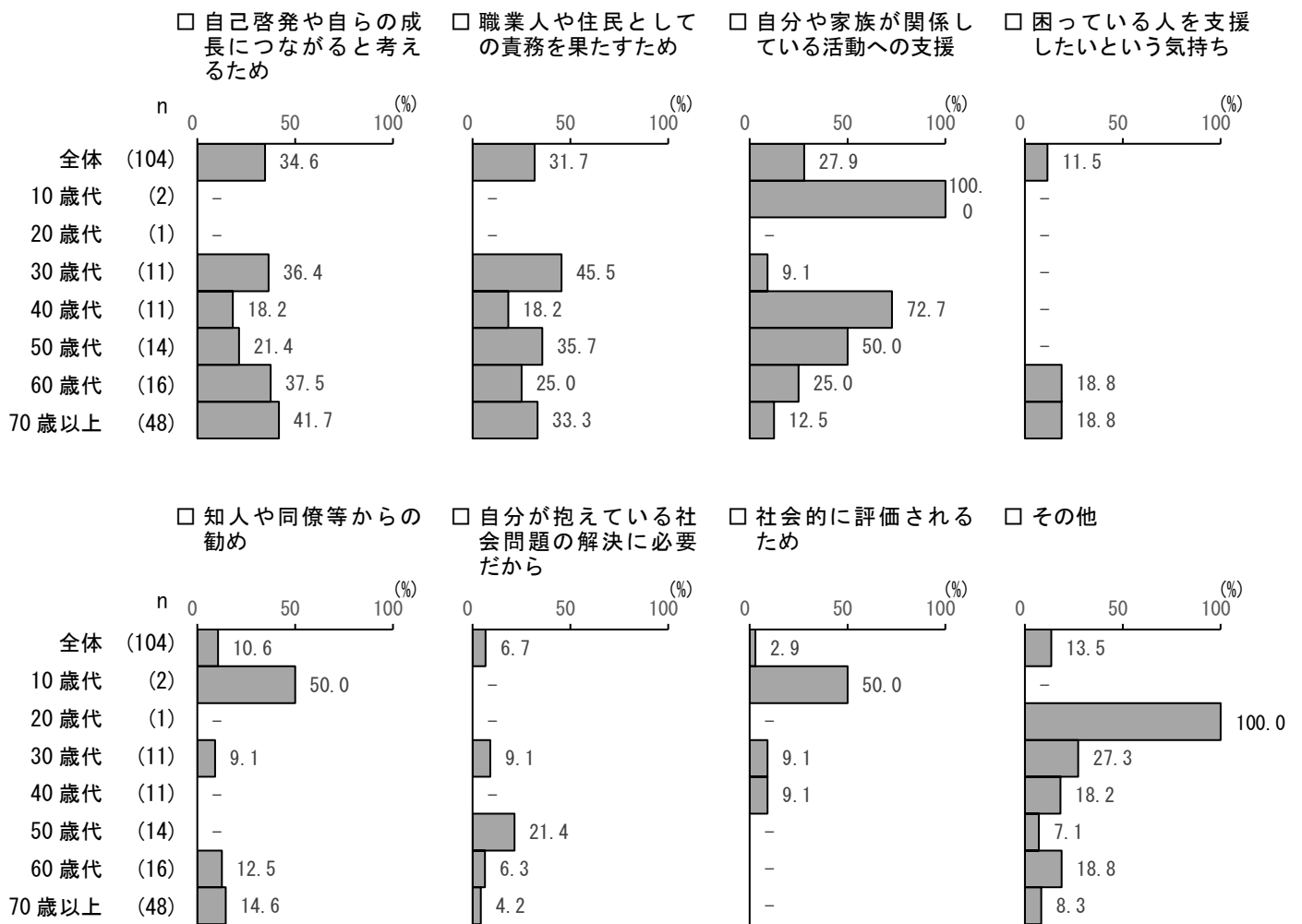
※老人クラブに関しては、加入年齢が原則として60歳以上となっているため、年齢別グラフは省略する。

【図表21：地域活動の参加の理由③】**地域団体**



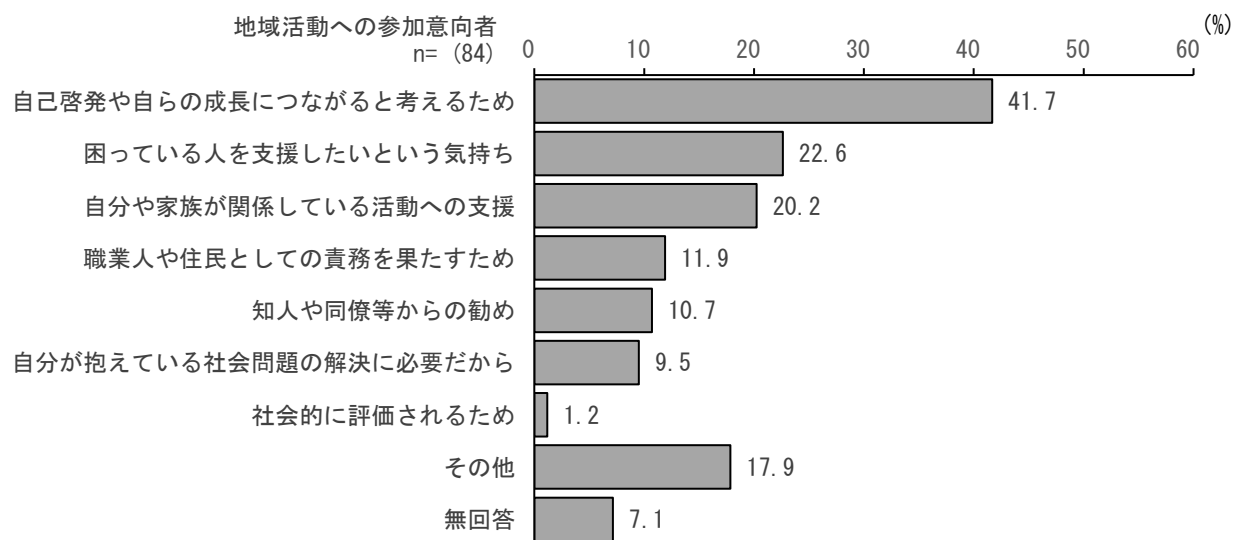
地域団体への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が34.6%と最も高く、次いで、「職業人や住民としての責務を果たすため」(31.7%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(27.9%)の順となっている。

【図表2.2：年齢別／参加の理由③】**地域団体** 上位8項目



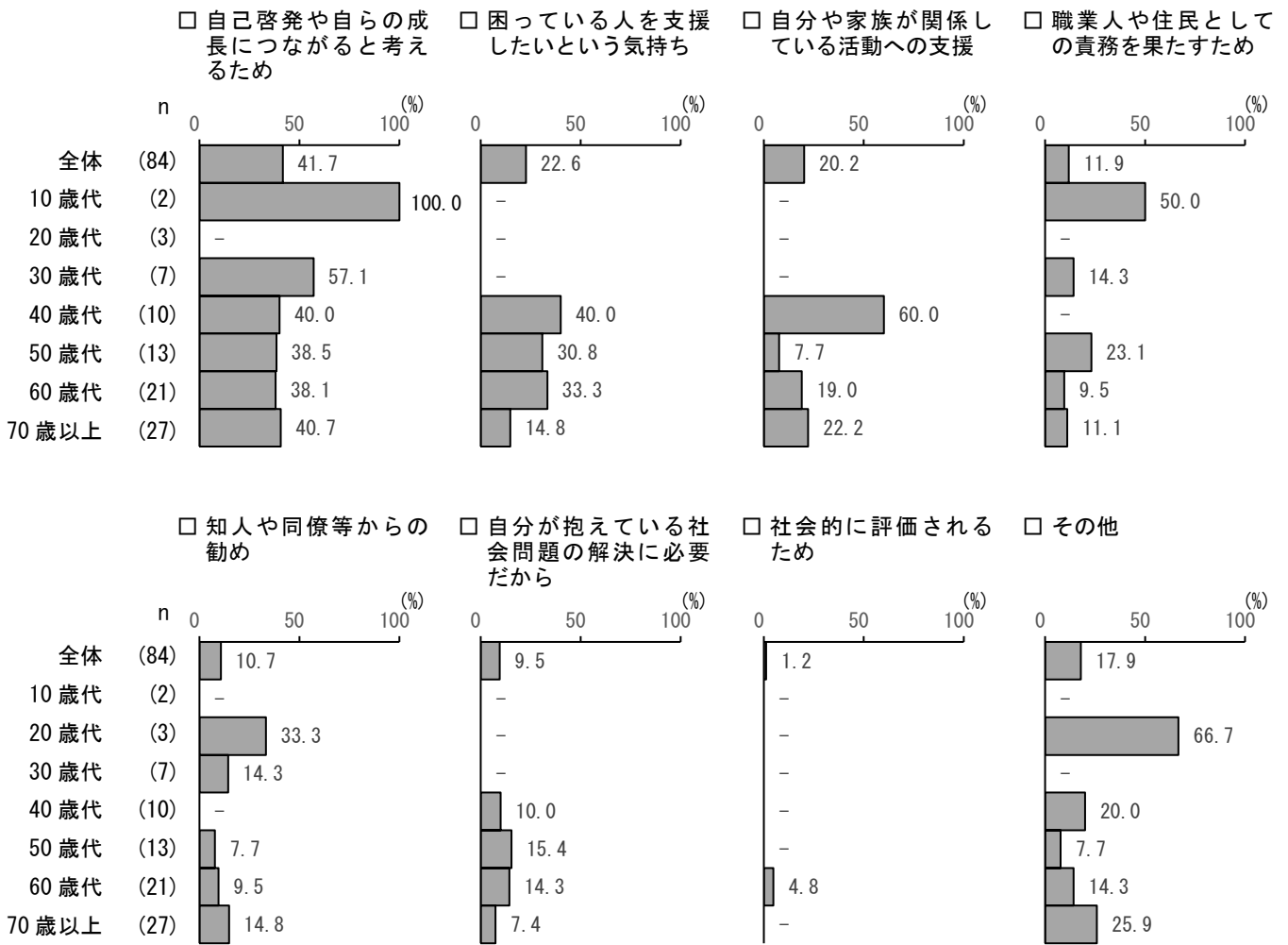
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表23：地域活動の参加の理由④】 市民活動団体（NPOを含む）



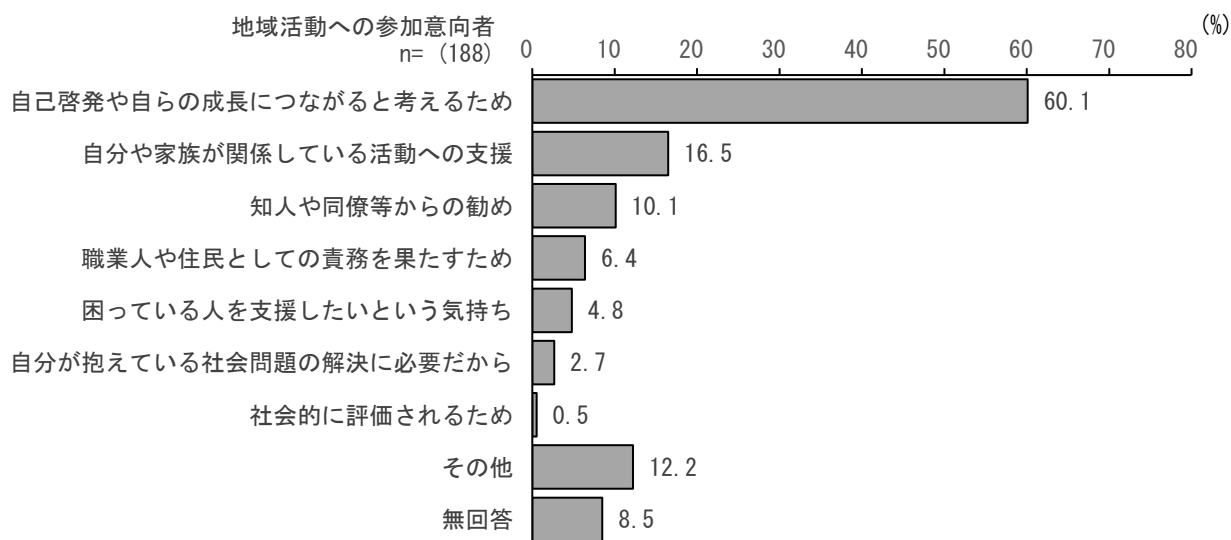
市民活動団体（NPOを含む）への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が41.7%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」（22.6%）、「自分や家族が関係している活動への支援」（20.2%）の順となっている。

【図表24：年齢別／参加の理由④】市民活動団体（NPOを含む） 上位8項目



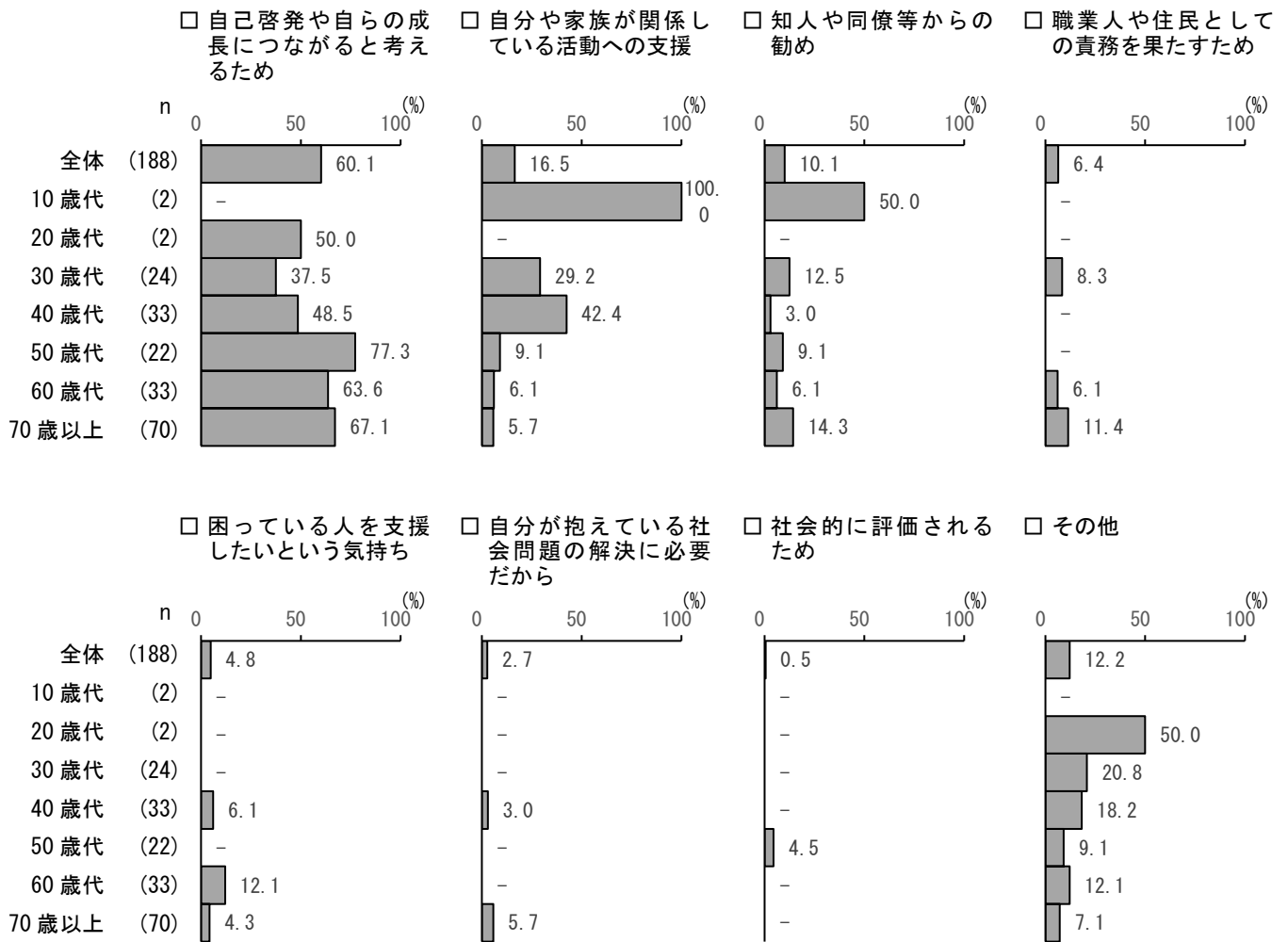
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表25：地域活動の参加の理由⑤】 公民館などのサークルや講座



公民館などのサークルや講座への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が60.1%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」(16.5%)、「知人や同僚等からの勧め」(10.1%)の順となっている。

【図表26：年齢別／参加の理由⑤】市公民館などのサークルや講座 上位8項目

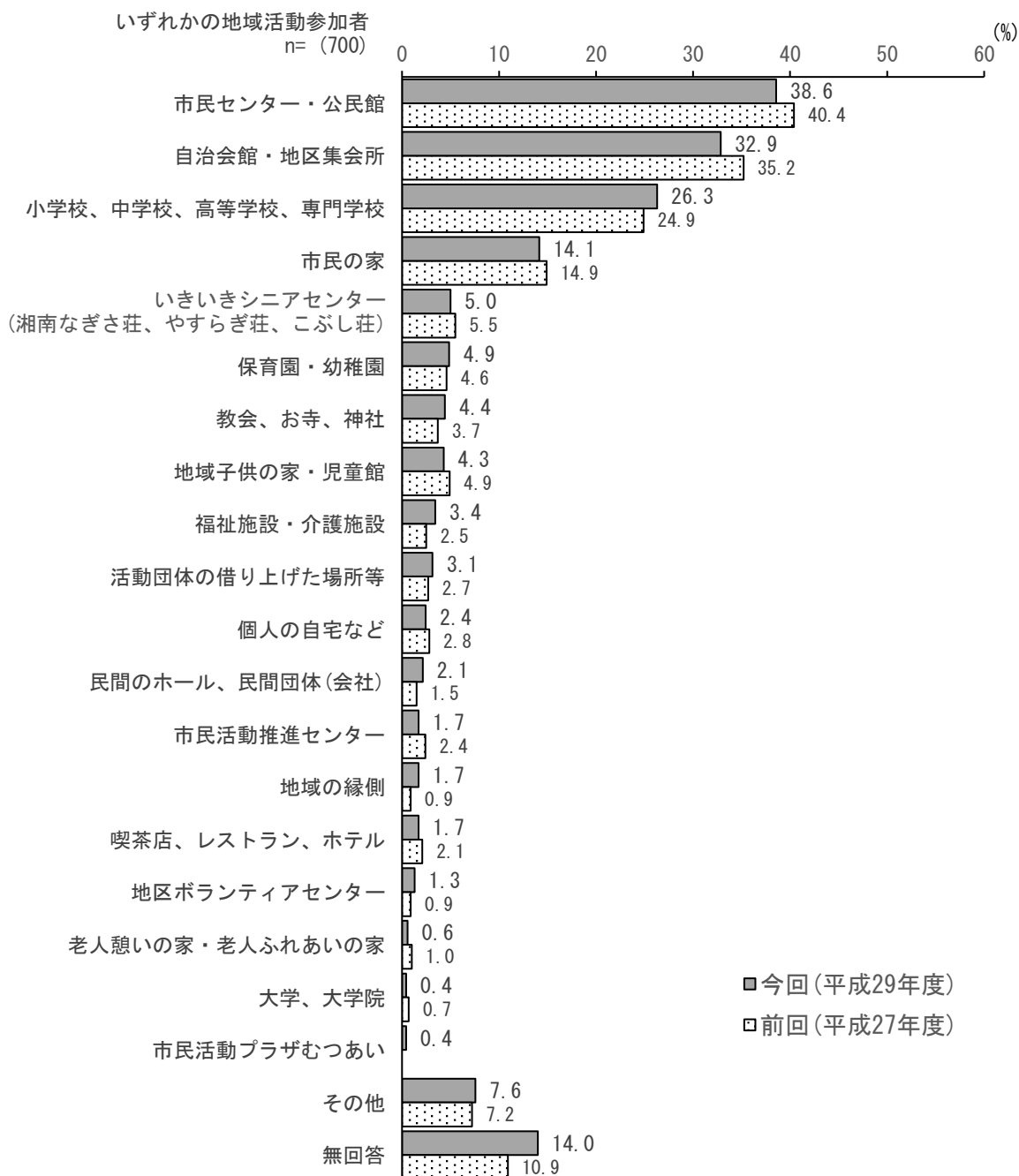


年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

(3) 地域活動を行う場として利用している施設

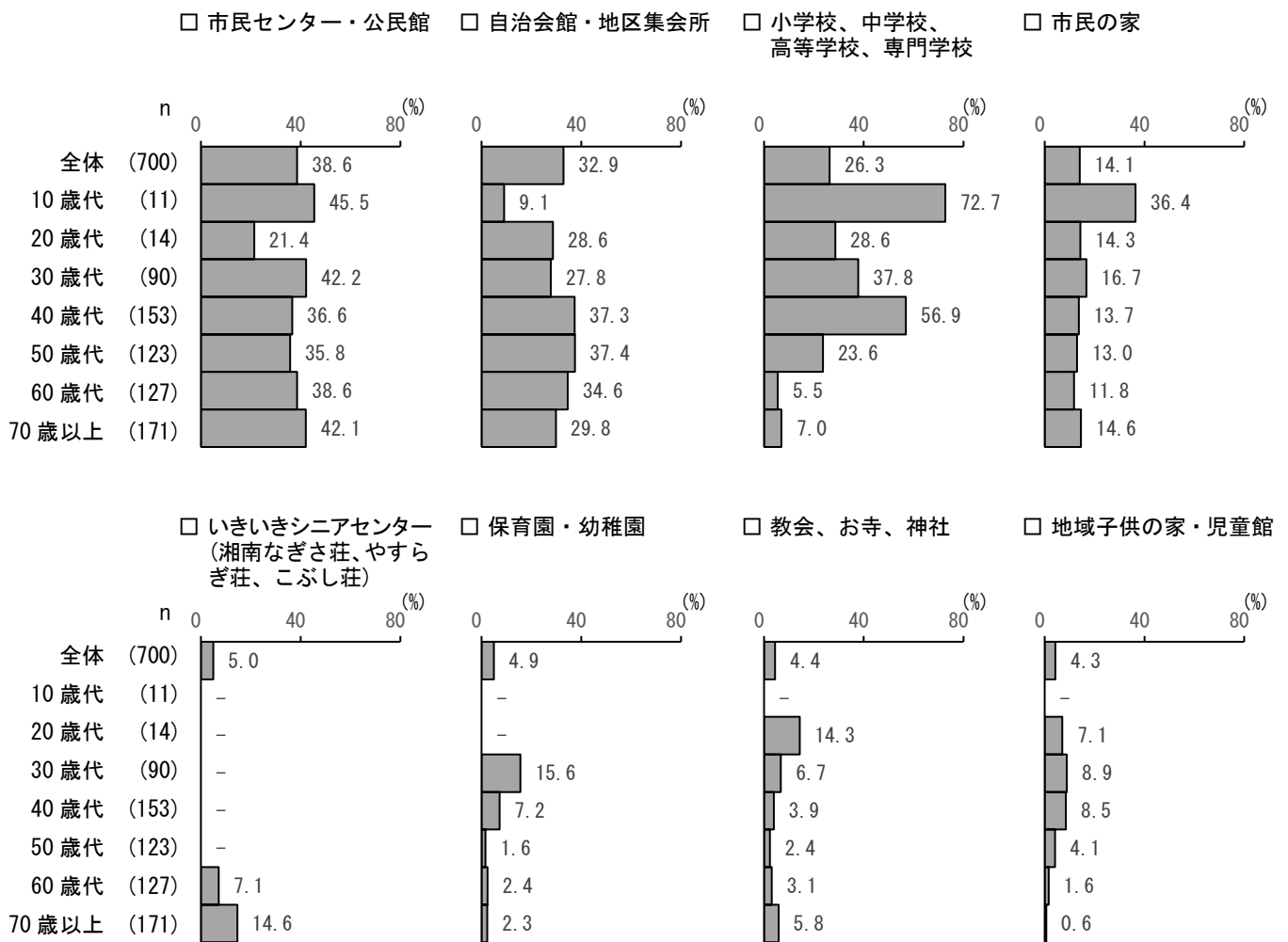
【問2-2. 「①参加の頻度」で2~5に○を一つでもつけた方にお聞きします】
 問2-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。
 （あてはまるものすべてに○）

【図表27：地域活動を行う場として利用している施設】



地域活動を行う場としては、「市民センター・公民館」を利用している割合が38.6%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(32.9%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(26.3%)、「市民の家」(14.1%)の順となっている。

【図表28：年齢別／地域活動を行う場として利用している施設】上位8項目



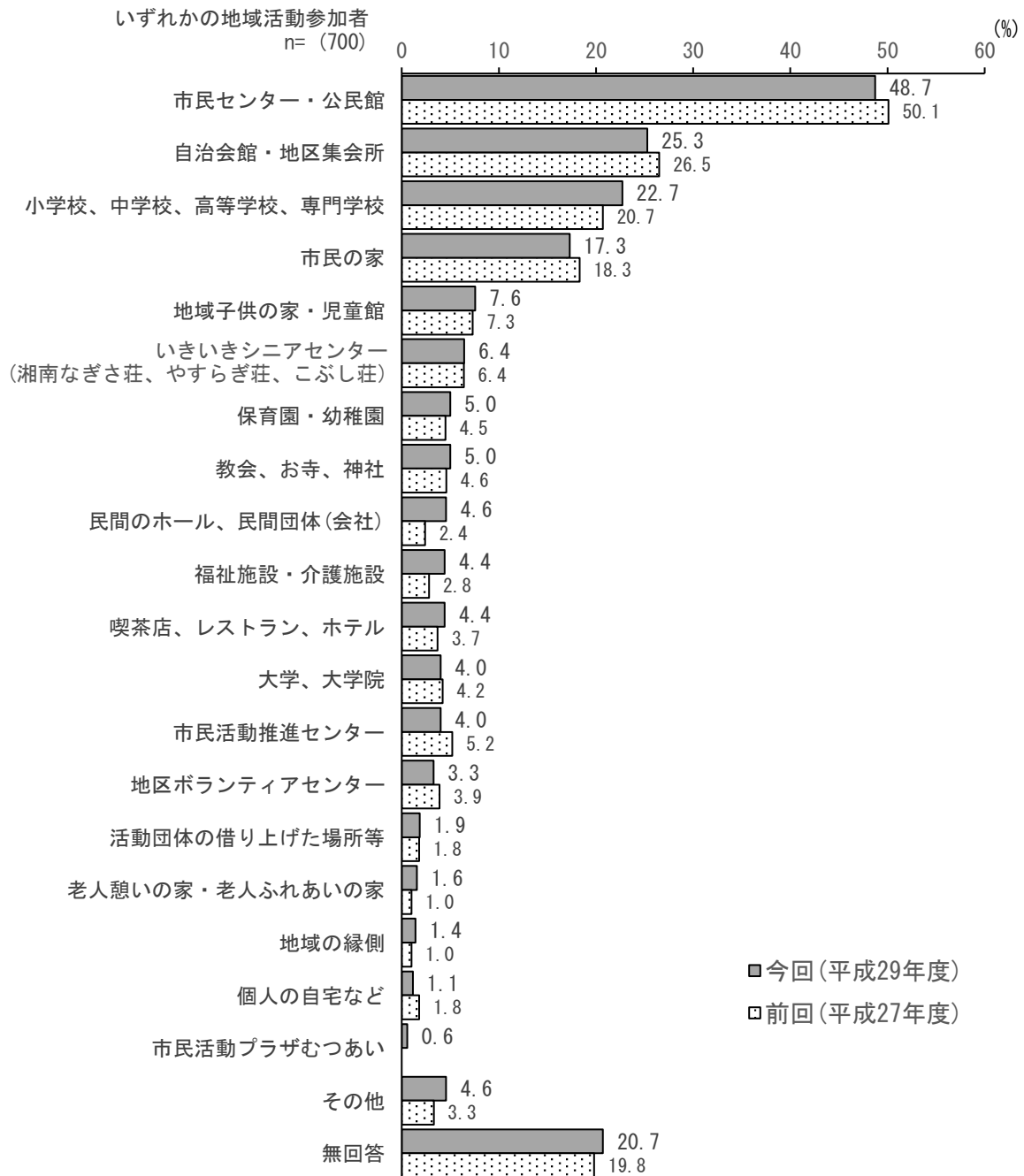
「市民センター・公民館」の利用割合を年齢別でみると、30歳代（42.2%）や70歳代以上（42.1%）が高い。「自治会館・地区集会所」は、50歳代（37.4%）や40歳代（37.3%）、60歳代（34.6%）の利用が高く、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は、40歳代の利用割合が56.9%と高くなっている。

(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設

【問2-2. 「①参加の頻度」で2~5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

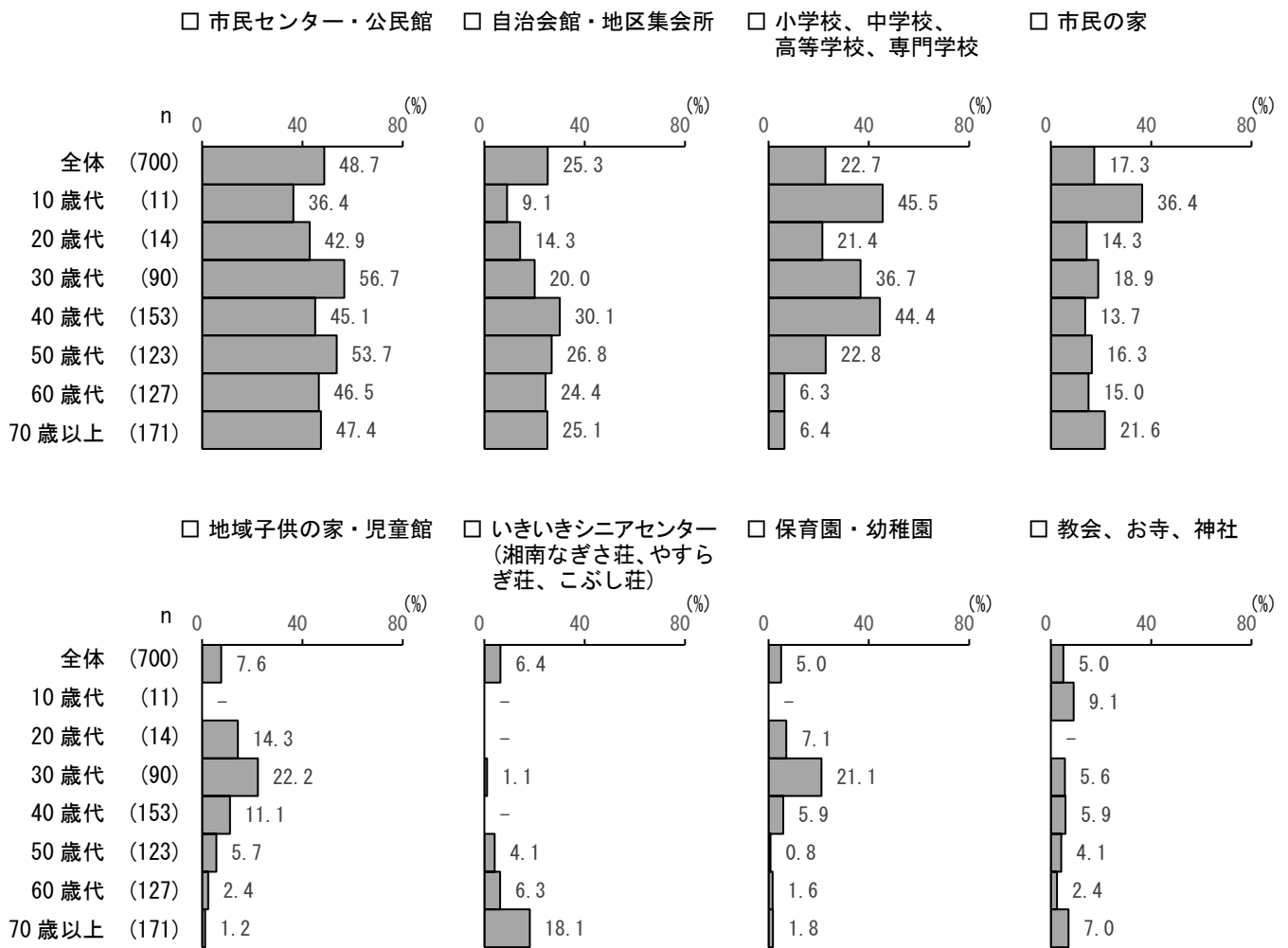
問2-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表29：地域活動を行う場として今後利用したい施設】



地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」が48.7%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(25.3%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(22.7%)、「市民の家」(17.3%)の順となっている。

【図表30：年齢別／地域活動を行う場として今後利用したい施設】上位8項目

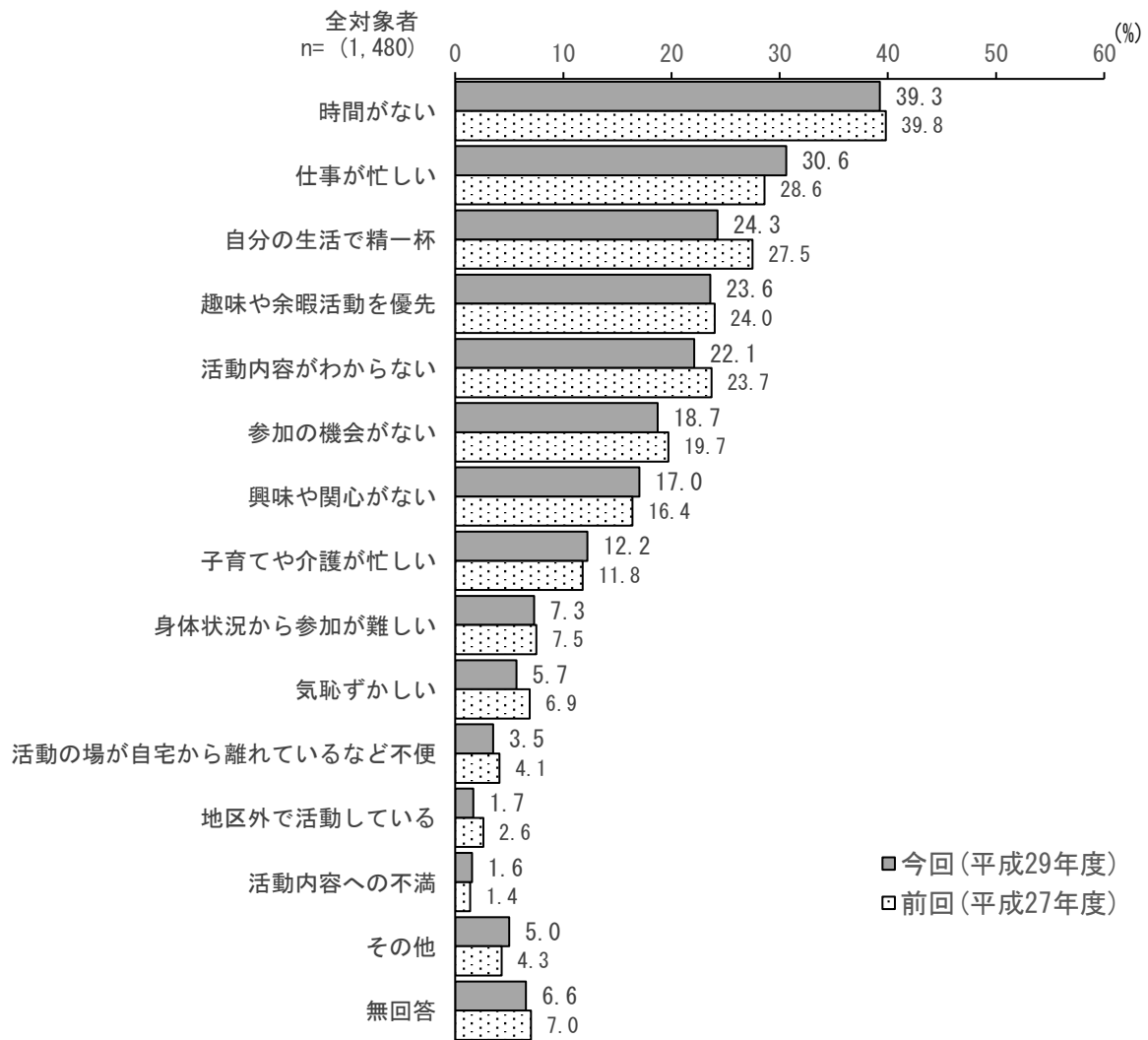


「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、30歳代（56.7%）や50歳代（53.7%）で5割を超えている。「自治会館・地区集会所」は、40歳代（30.1%）の割合が最も高く、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は、40歳代（44.4%）や30歳代（36.7%）が高くなっている。

(5) 地域活動に参加することに妨げとなること

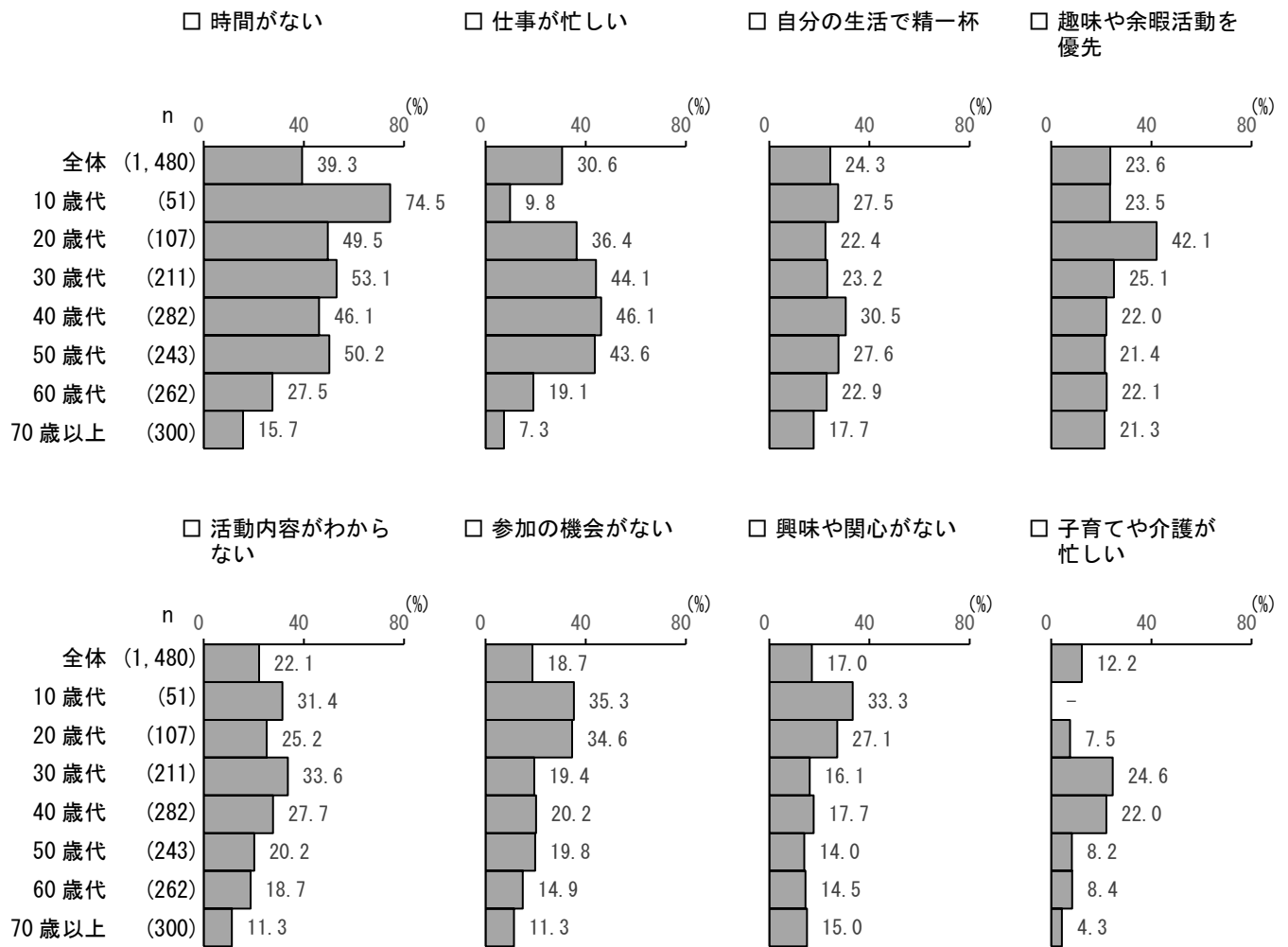
問2-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表31：地域活動に参加することに妨げとなること】



地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が39.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」(30.6%)、「自分の生活で精一杯」(24.3%)、「趣味や余暇活動を優先」(23.6%)、「活動内容がわからない」(22.1%)の順となっている。

【図表3 2：年齢別／地域活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



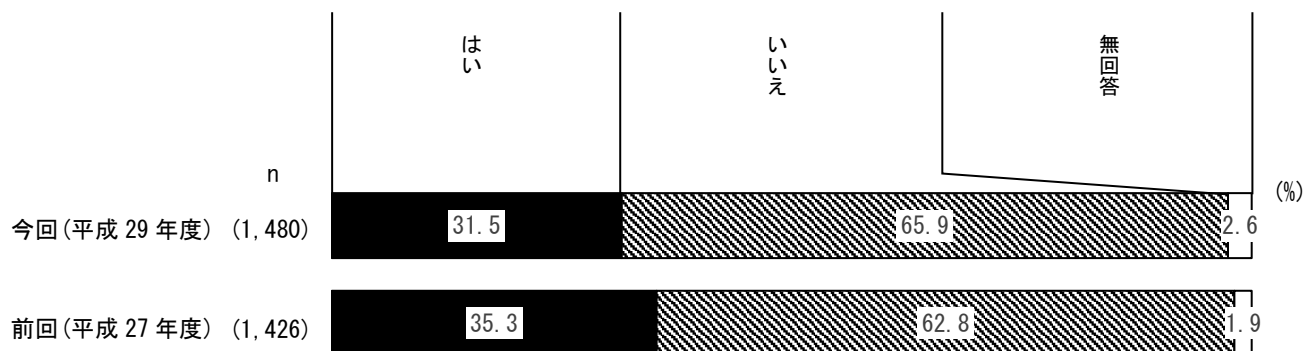
「時間がない」と「仕事が忙しい」は、10歳代を除くと似たような傾向を示している。「時間がない」では10歳代が74.5%と最も高く、20歳代～50歳代までは5割前後となっている。「仕事が忙しい」は、40歳代が46.1%で最も高いが、30歳代（44.1%）と50歳代（43.6%）も同程度となっている。「自分の生活で精一杯」については年齢による違いはあまり大きくない。

3. 市民活動について

(1) 市民活動への参加意向

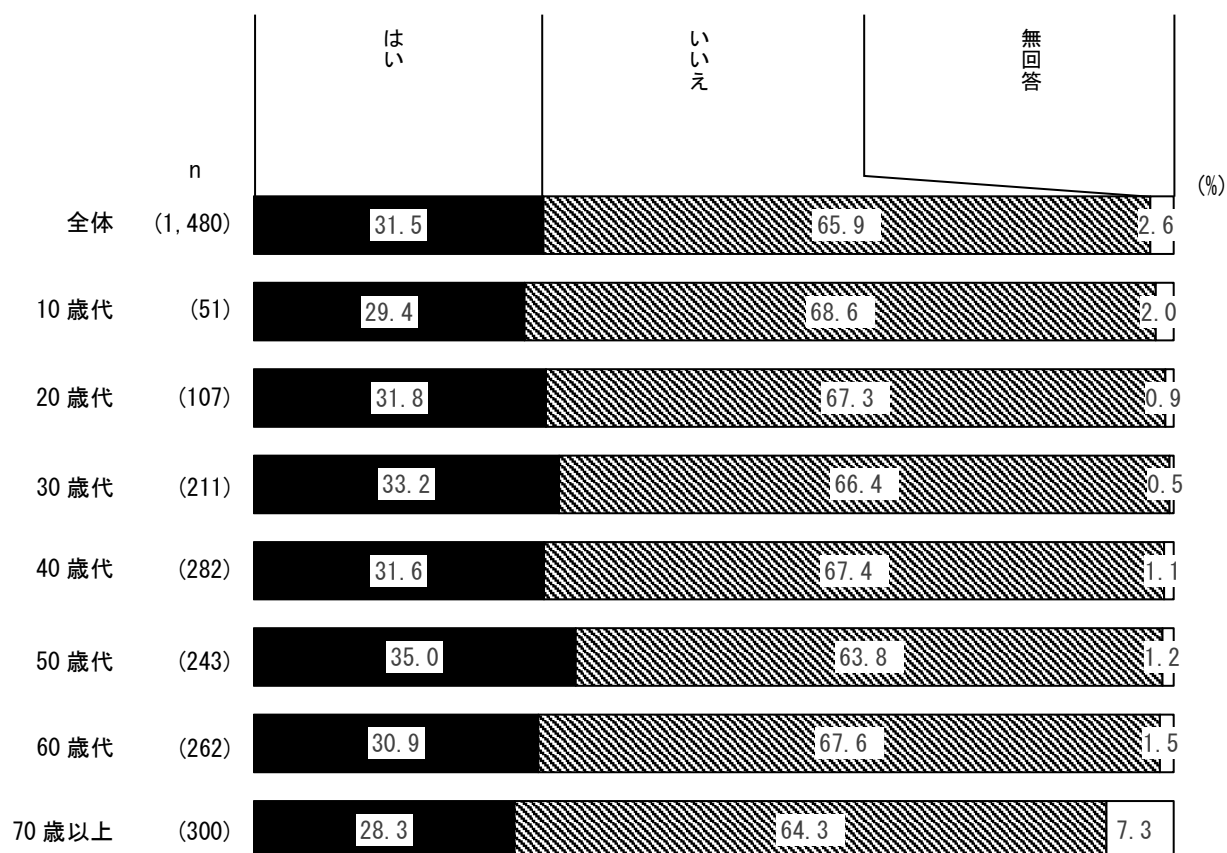
問3-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。
（一つに〇）

【図表3-3：市民活動への参加意向】



市民活動への参加意向については、「はい」が31.5%と、前回調査（平成27年度）の35.3%よりやや低くなっている。

【図表3-4：年齢別／市民活動への参加意向】



年齢別にみると、50歳代で「はい」の割合が35.0%とやや高いが、各年代とも3割前後で大きな違いはみられない。

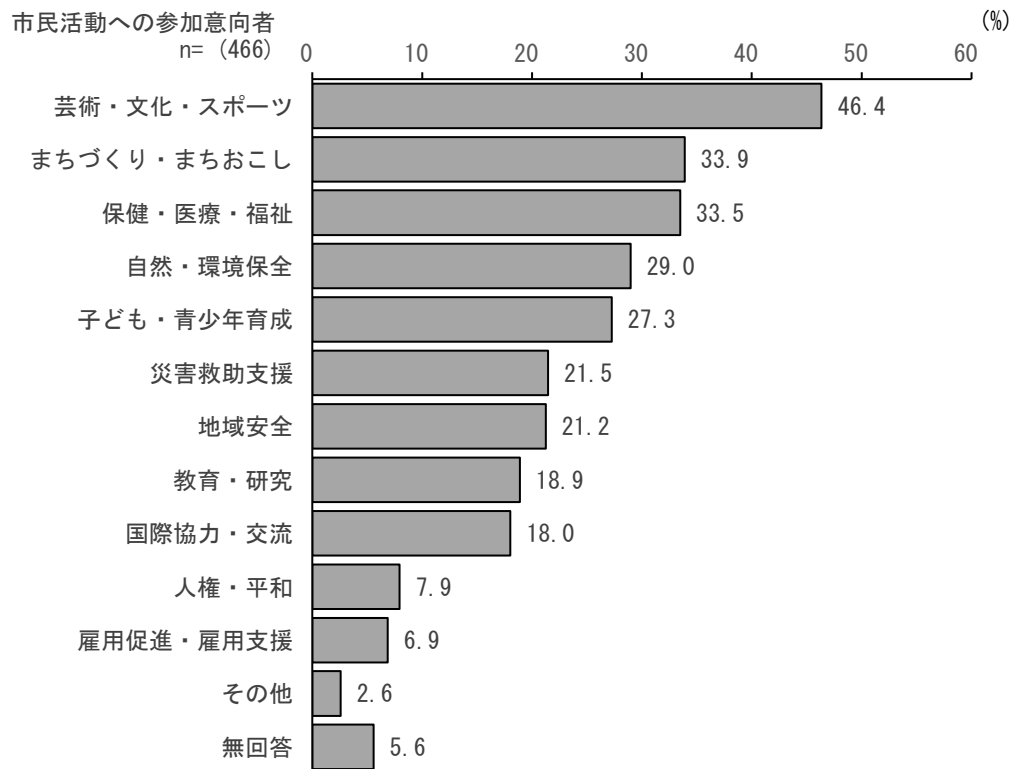
(2) 参加したい市民活動の分野

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

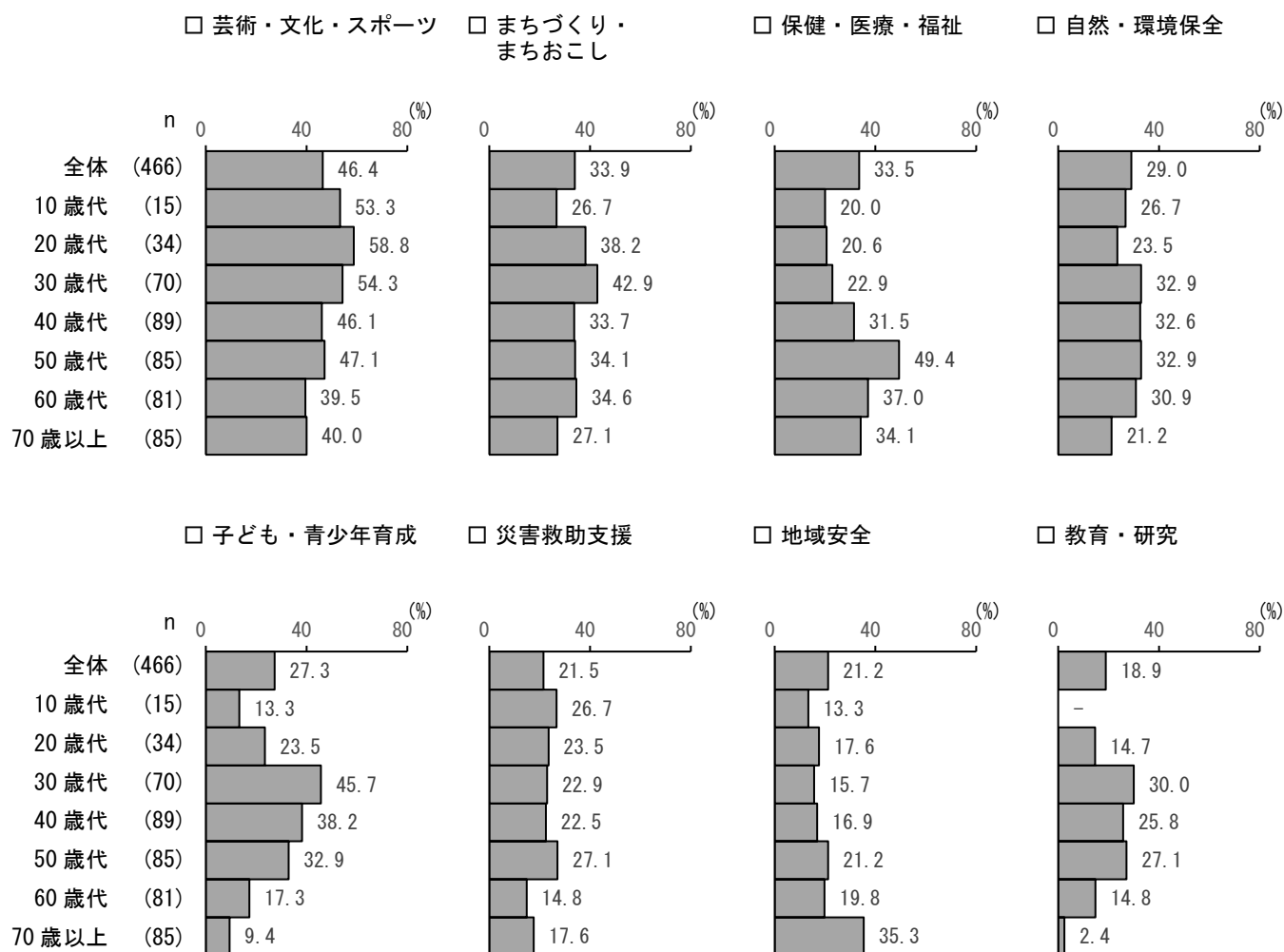
(あてはまるものすべてに○)

【図表35：参加したい市民活動の分野】



参加したい市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」が46.4%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(33.9%)、「保健・医療・福祉」(33.5%)、「自然・環境保全」(29.0%)、「子ども・青少年育成」(27.3%)の順となっている。

【図表36：年齢別／参加したい市民活動の分野】上位8項目



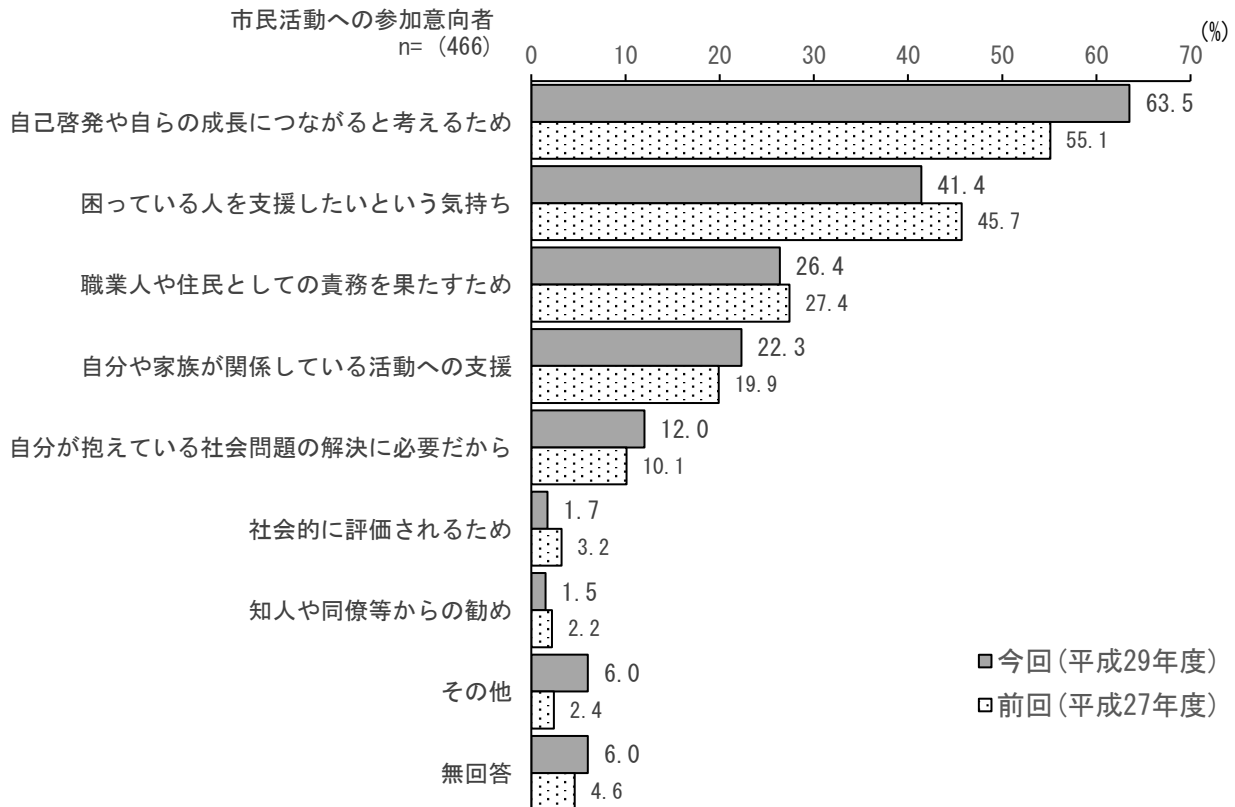
「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代（58.8%）や30歳代（54.3%）で5割を超えている。「まちづくり・まちおこし」は、30歳代が42.9%、「保険・医療・福祉」では、50歳代が49.4%と最も高くなっている。

(3) 市民活動に参加する理由

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

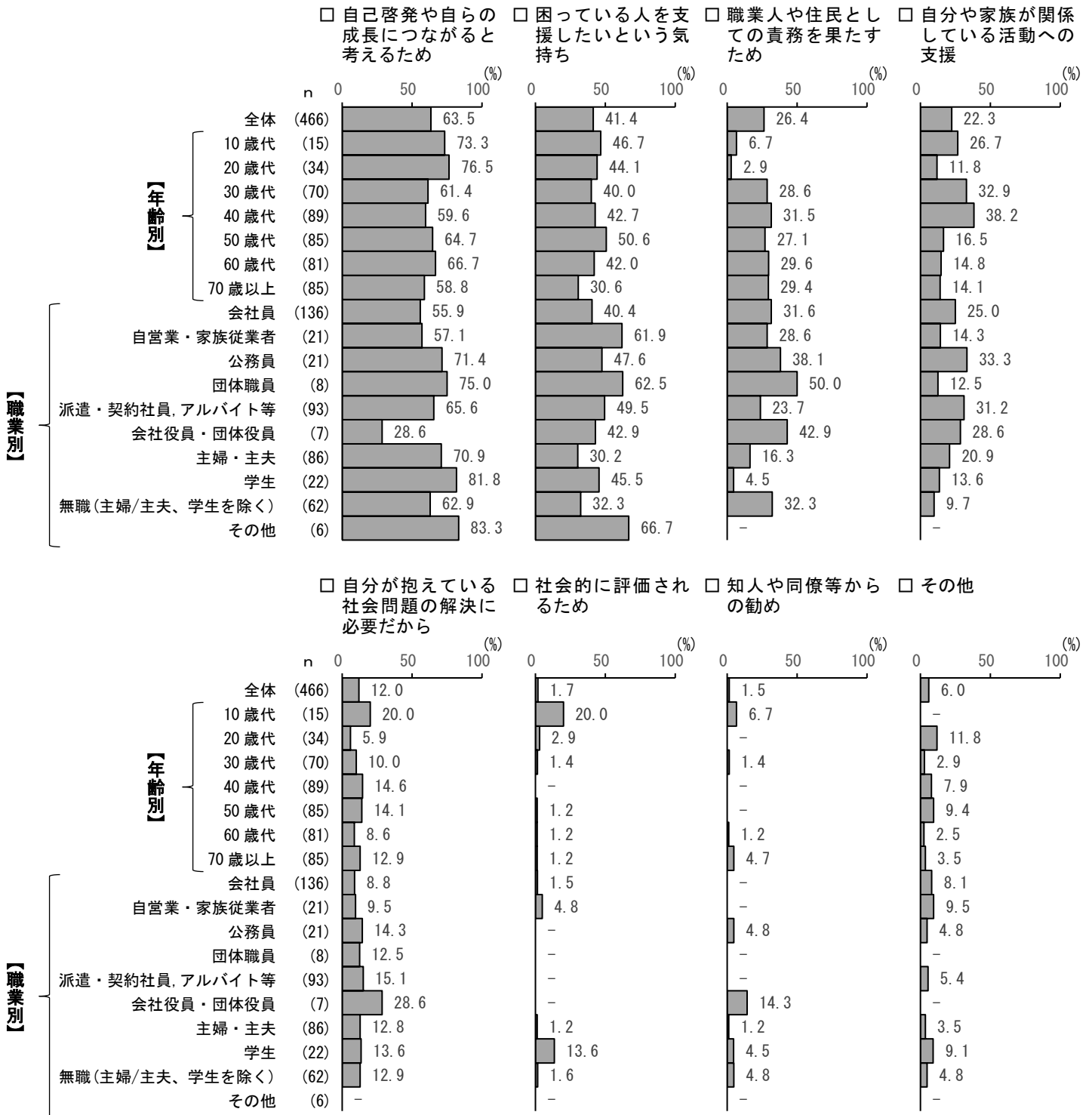
問3-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表37：市民活動に参加する理由】



市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が63.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(41.4%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(26.4%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(22.3%)の順となっている。

【図表38：年齢別・職業別／市民活動に参加する理由】上位8項目



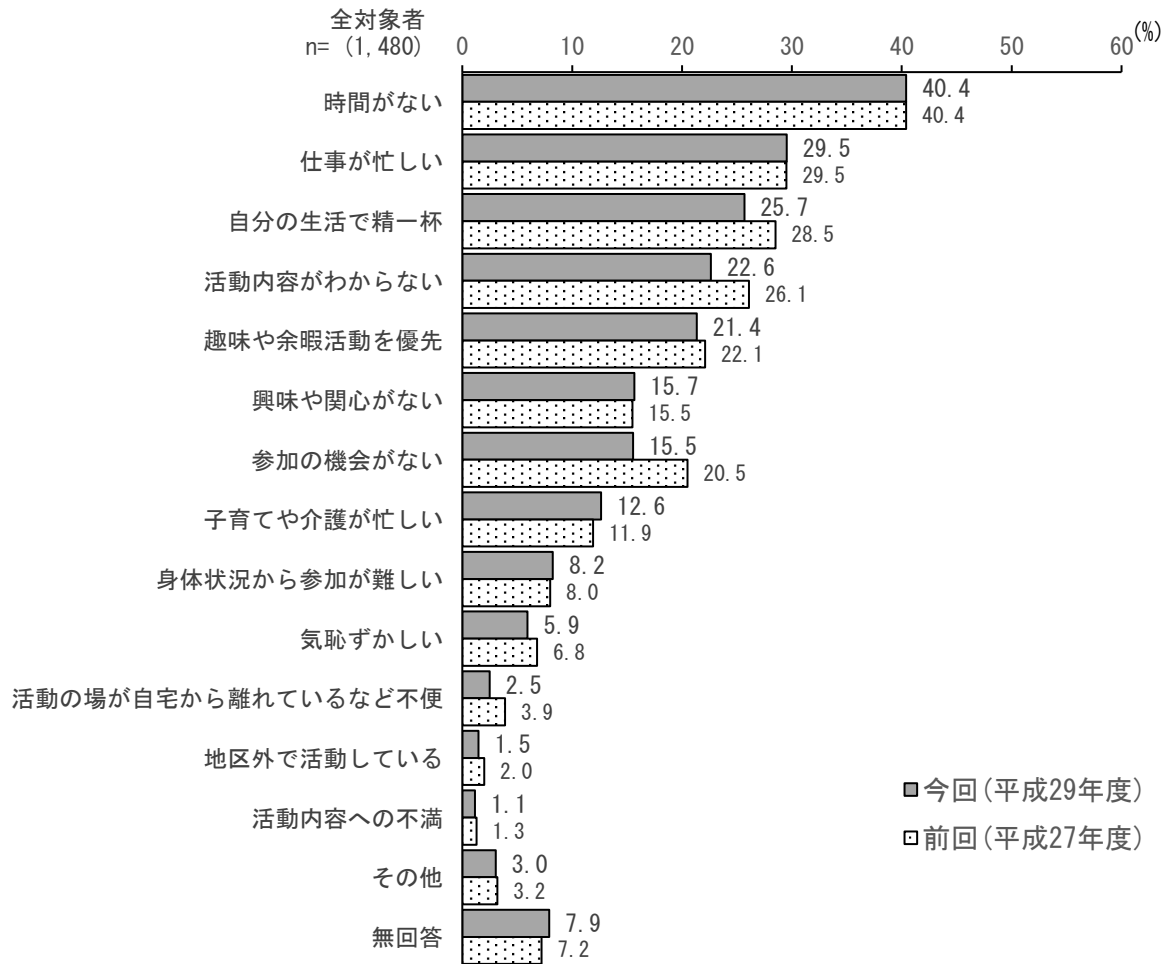
「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」と答えた割合は、20歳代が76.5%と最も高いが、他の年代も6割前後と高くなっている。「困っている人を支援したいという気持ち」は、50歳代が50.6%と5割を超えている。

「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」を職業別にみると、「主婦・主夫」(70.9%)や「派遣・契約社員、アルバイト等」(65.6%)、「無職(主婦/主夫、学生を除く)」(62.9%)などで回答割合が高くなっている。

(4) 市民活動に参加することに妨げとなること

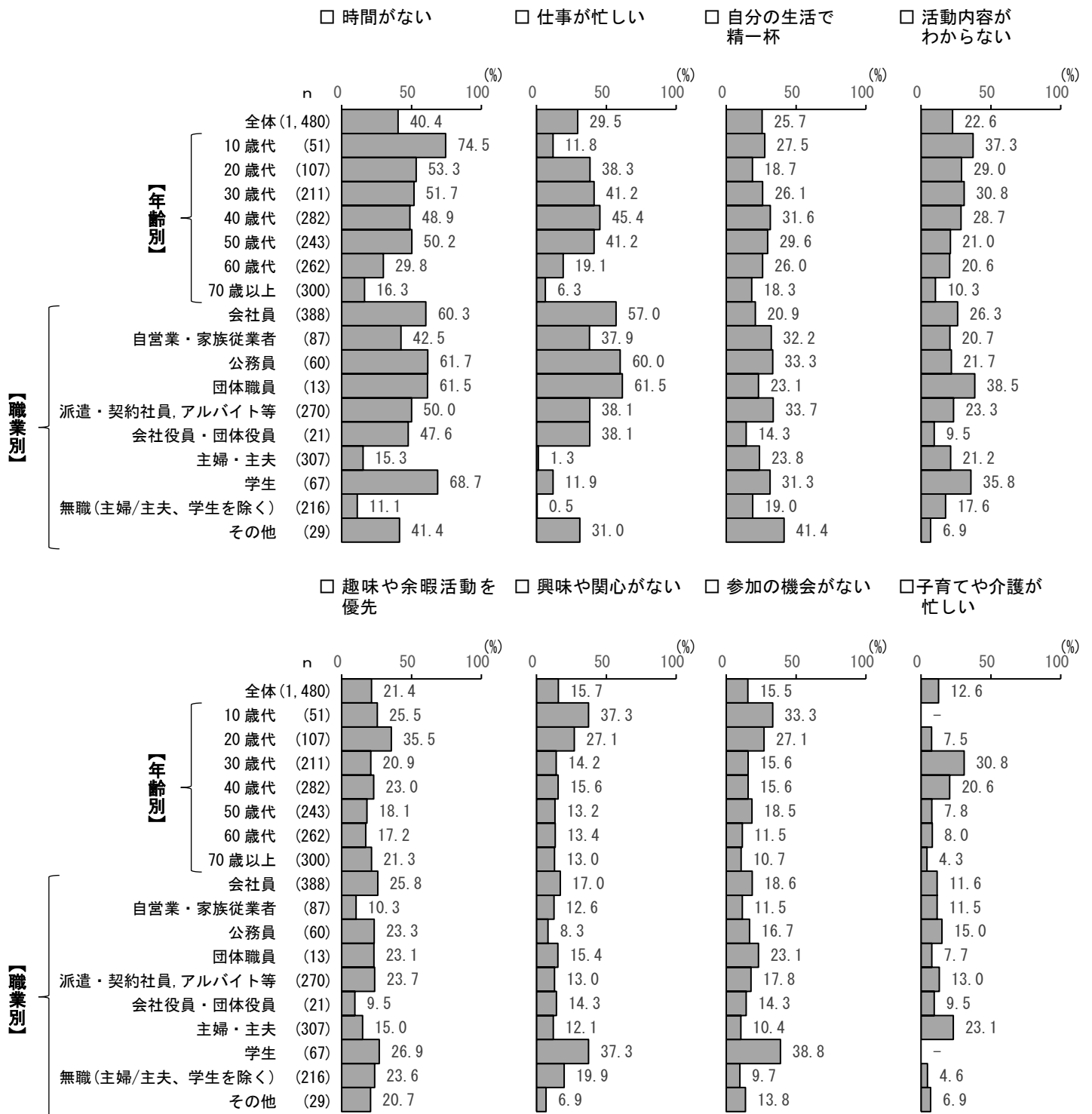
問3-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表39：市民活動に参加することに妨げとなること】



市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が40.4%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(29.5%)、「自分の生活で精一杯」(25.7%)、「活動内容がわかからない」(22.6%)、「趣味や余暇活動を優先」(21.4%)の順となっている。

【図表40：年齢別・職業別／市民活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



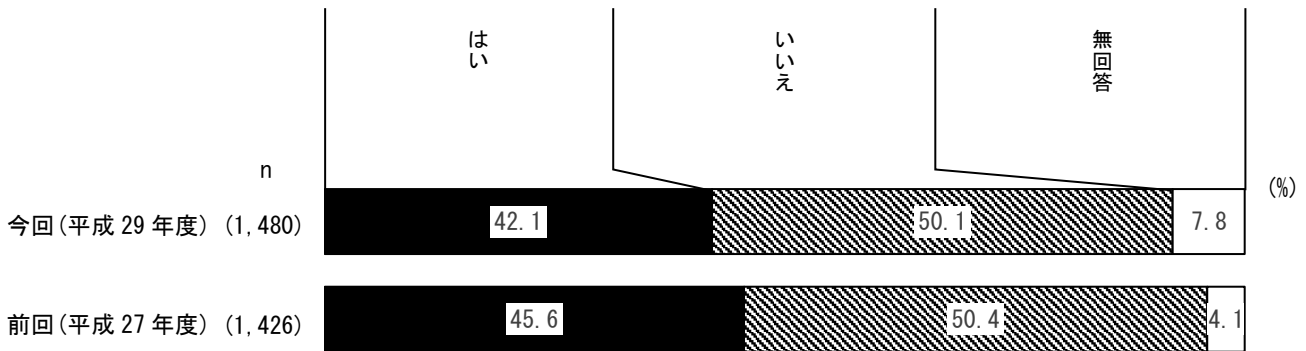
「時間がない」を年齢別にみると、10歳代が74.5%と最も高くなっており、次いで、20～50歳代が5割り前後となっている。「仕事が忙しい」は、40歳代が45.4%と最も高いが、20～50歳代は4割前後で大きな差はみられない。

「時間がない」を職業別にみると、「学生」が68.7%と最も高い一方、「仕事が忙しい」では「公務員」(60.0%)、「会社員」(57.0%)などで割合が高くなっている。

(5) 市民活動団体に期待することの有無

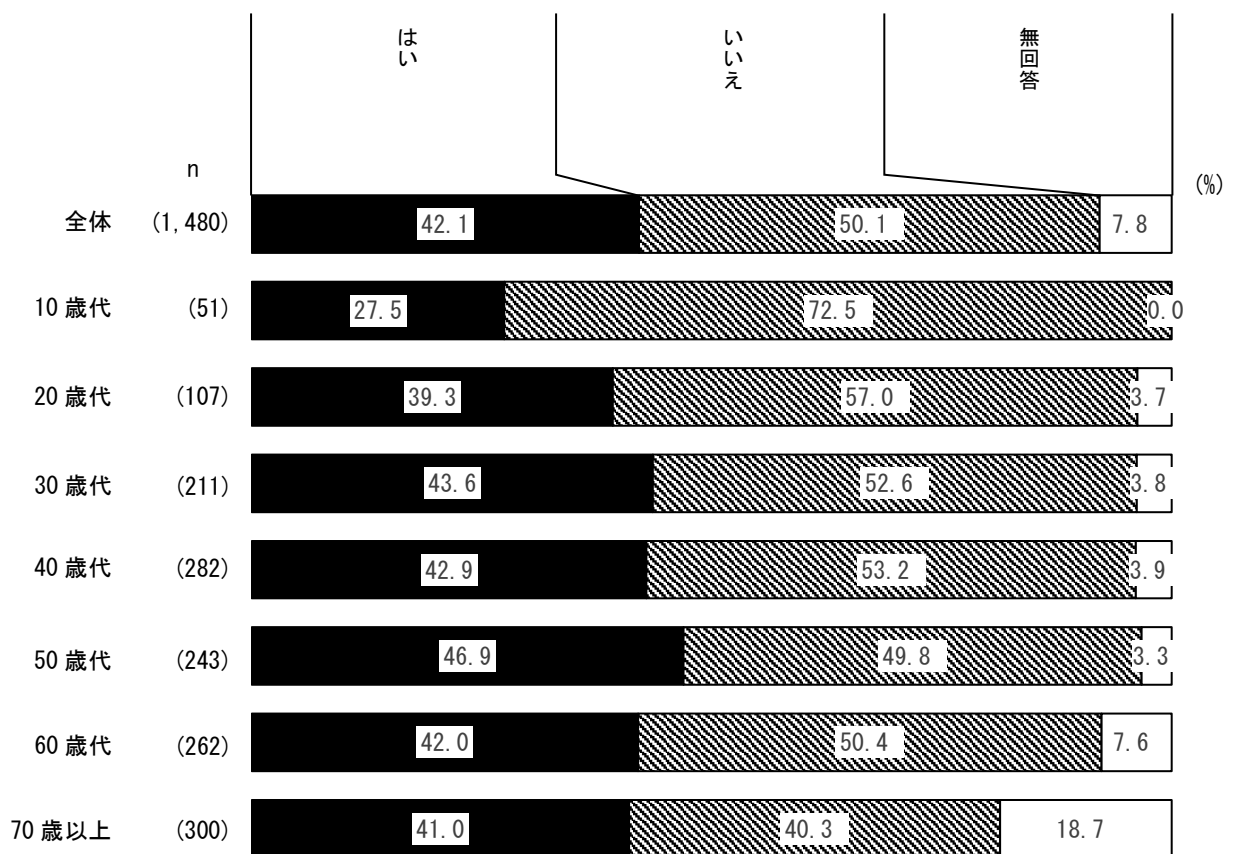
問3-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに〇)

【図表4-1：市民活動団体に期待することの有無】



市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が42.1%と、前回調査（平成27年度）の45.6%よりやや低くなっている。

【図表4-2：年齢別／市民活動団体に期待することの有無】



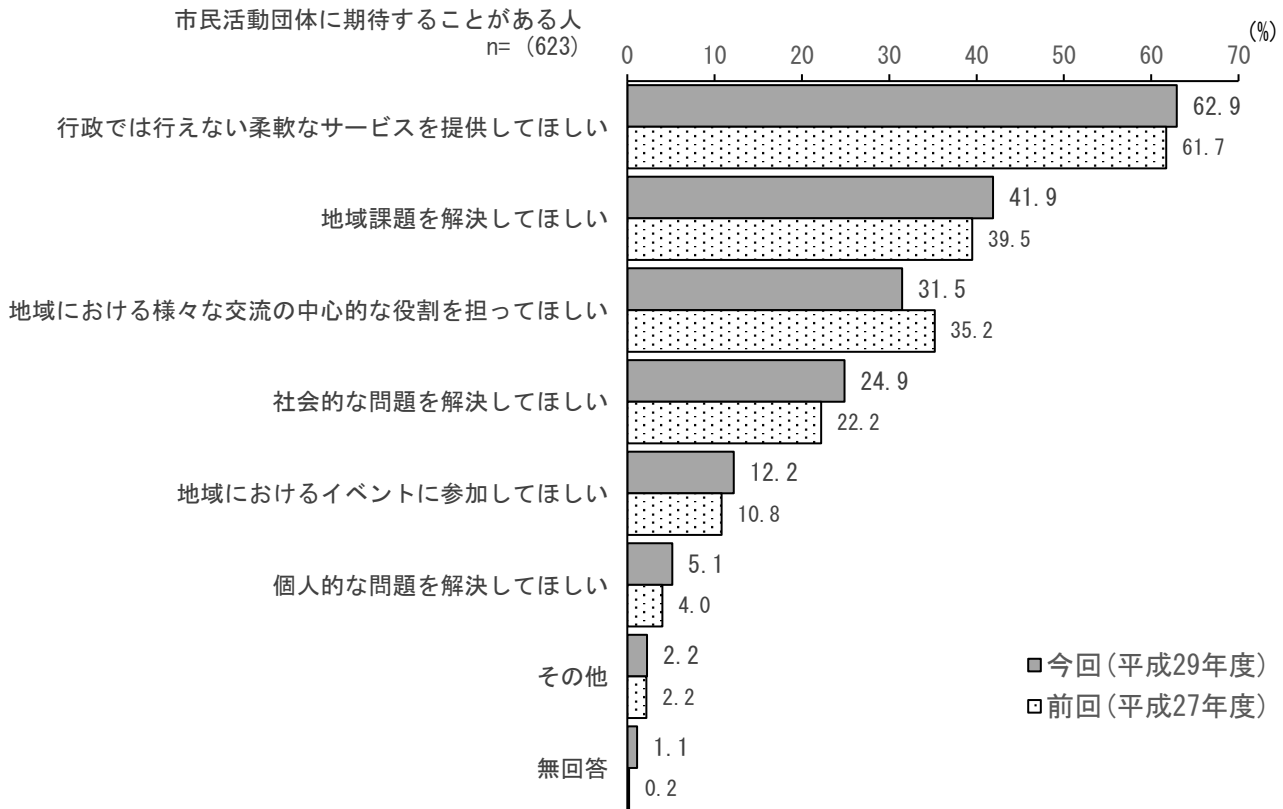
「はい」の割合を年齢別にみると、50歳代で46.9%と最も高くなっているが、20歳代以上では各年代とも4割前後で大きな違いはみられない。

(6) 市民活動団体に期待することの内容

【問3-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

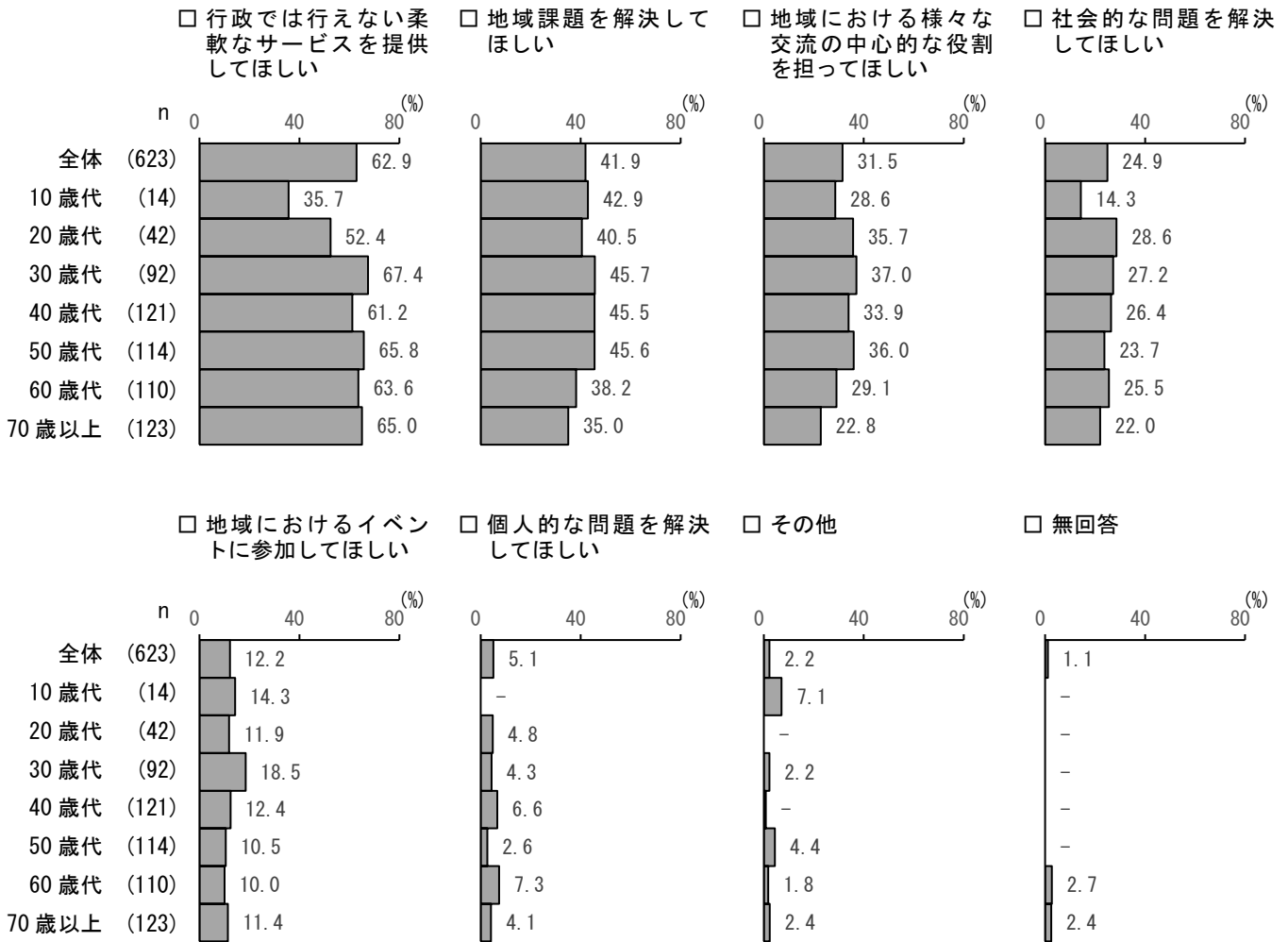
問3-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表43：市民活動団体に期待することの内容】



市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が62.9%と最も高く、次いで、「地域課題を解決してほしい」(41.9%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(31.5%)の順となっている。

【図表4-4：年齢別／市民活動団体に期待することの内容】

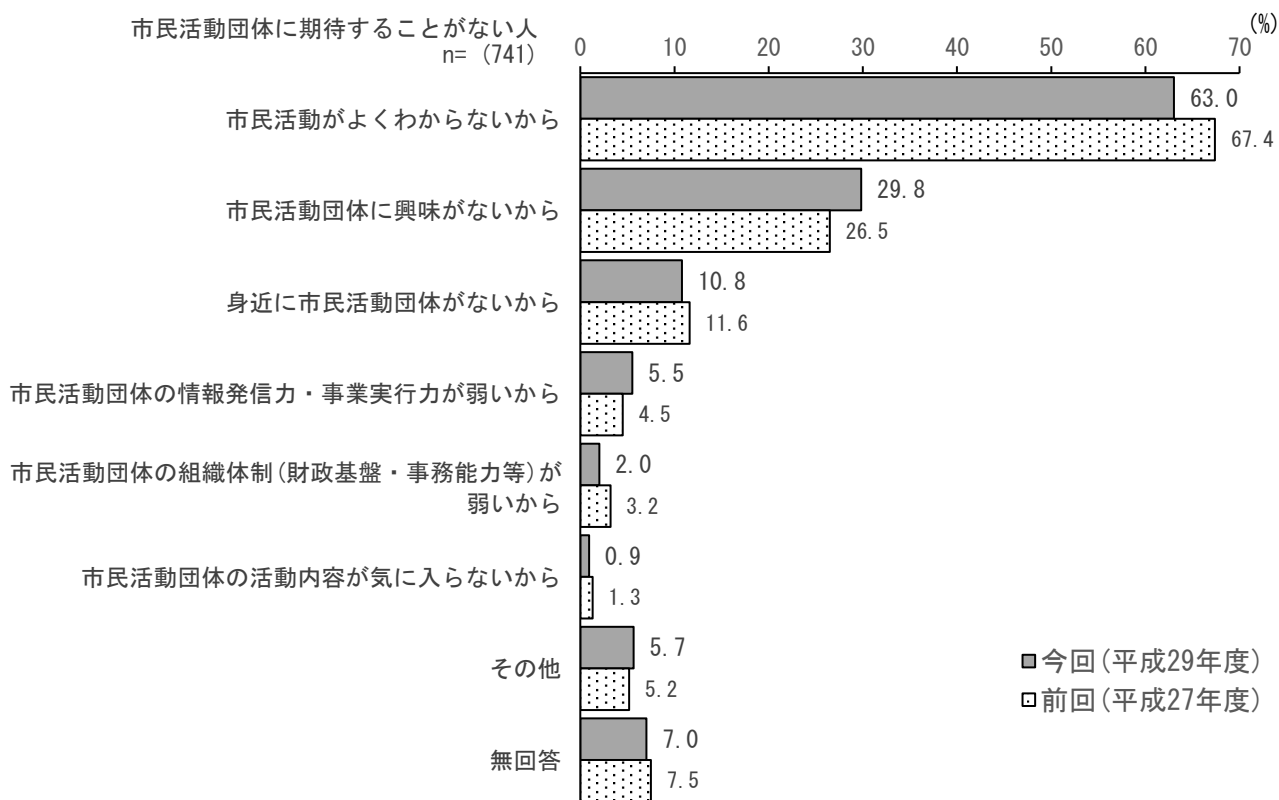


「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」を年齢別で見ると、30歳代以上はいずれも6割を超えている。「地域課題を解決してほしい」では、30～50歳代が他の年代に比べやや高く、5割弱でほぼ同じ割合となっている。

(7) 市民活動団体に期待することがない理由

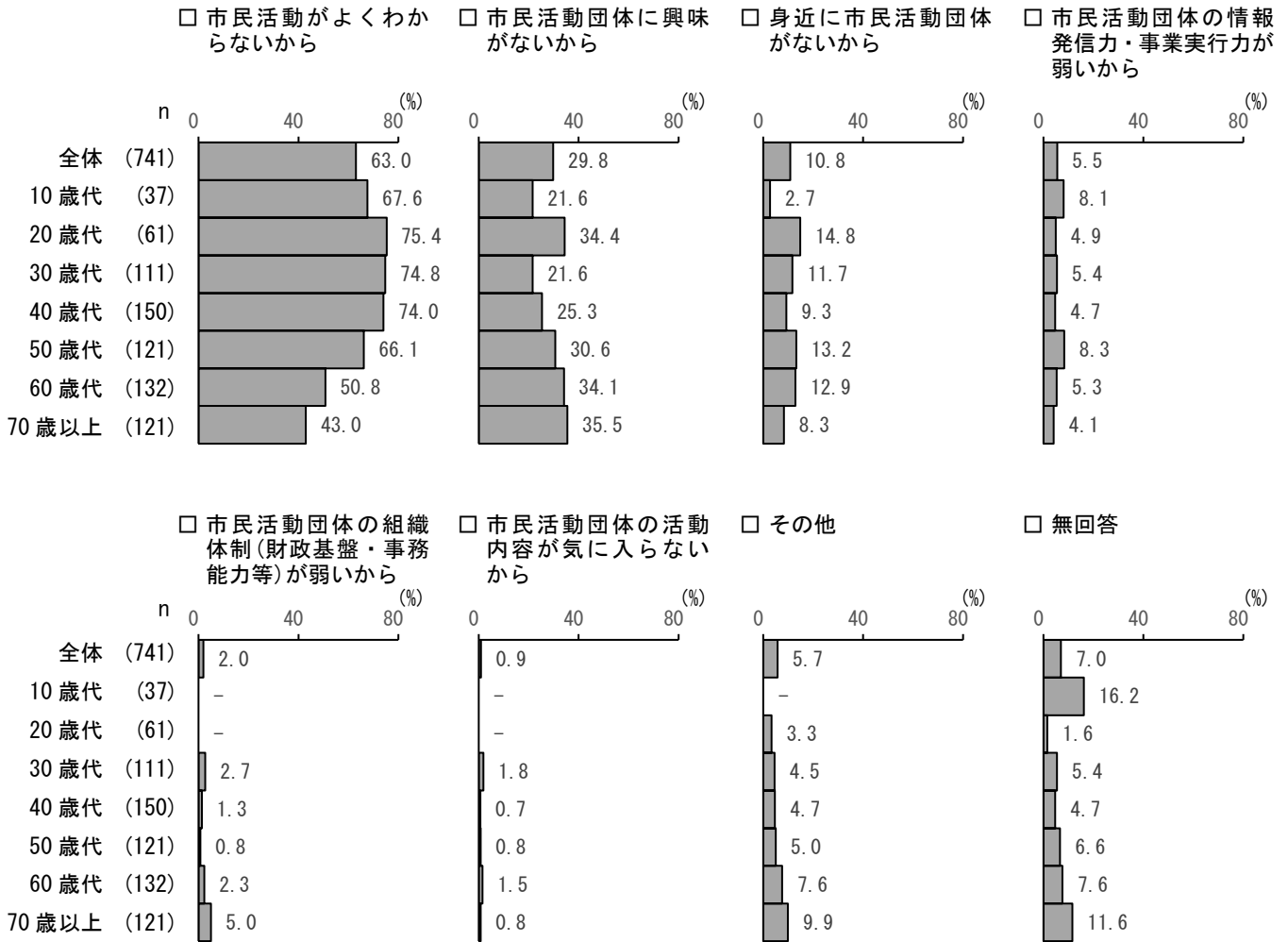
【問3-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】
 問3-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表45：市民活動団体に期待することがない理由】



市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が63.0%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(29.8%)、「身近に市民活動団体がないから」(10.8%)の順となっている。

【図表4-6：年齢別／市民活動団体に期待することがない理由】

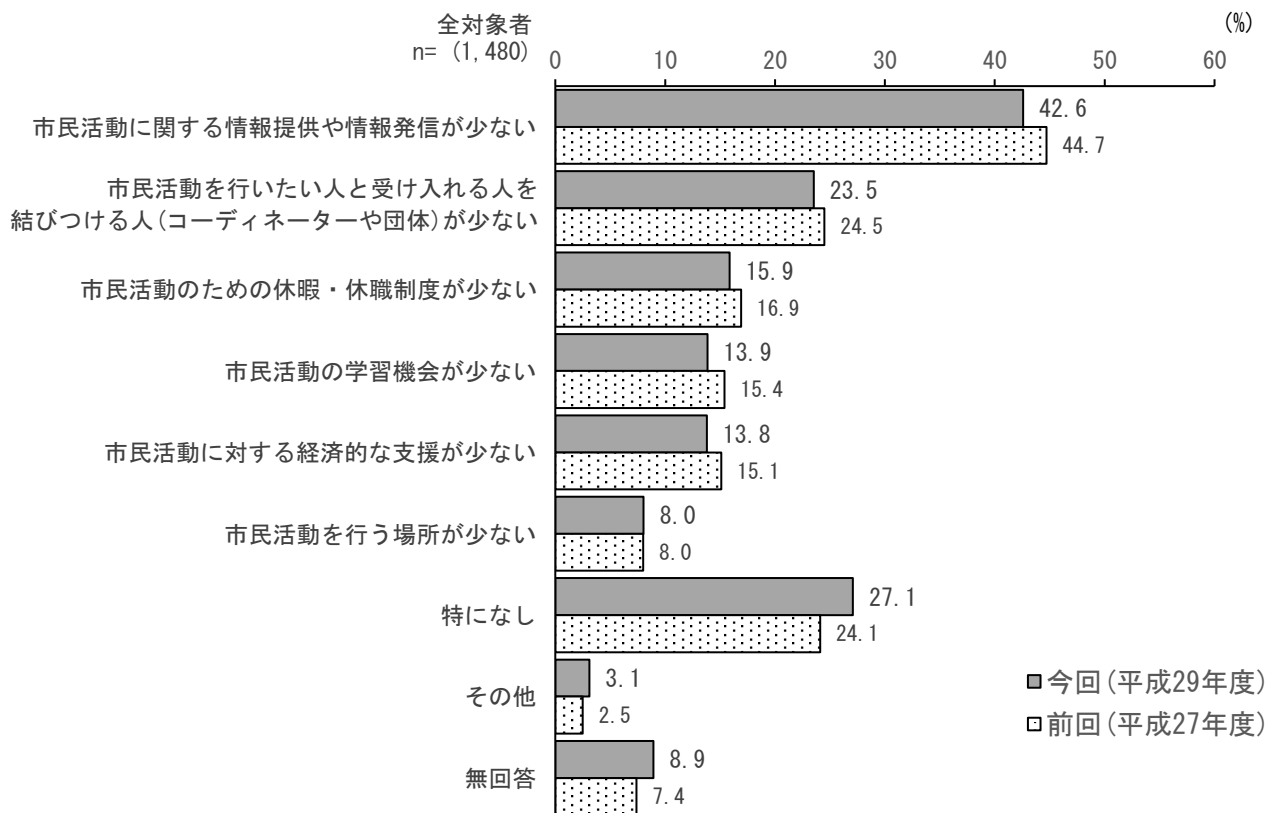


「市民活動がよくわからないから」を年齢別で見ると、20～40歳代が7割を超えて高くなっている。「市民活動団体に興味がないから」では、20歳代と50歳代以上が3割を超えている。

(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと

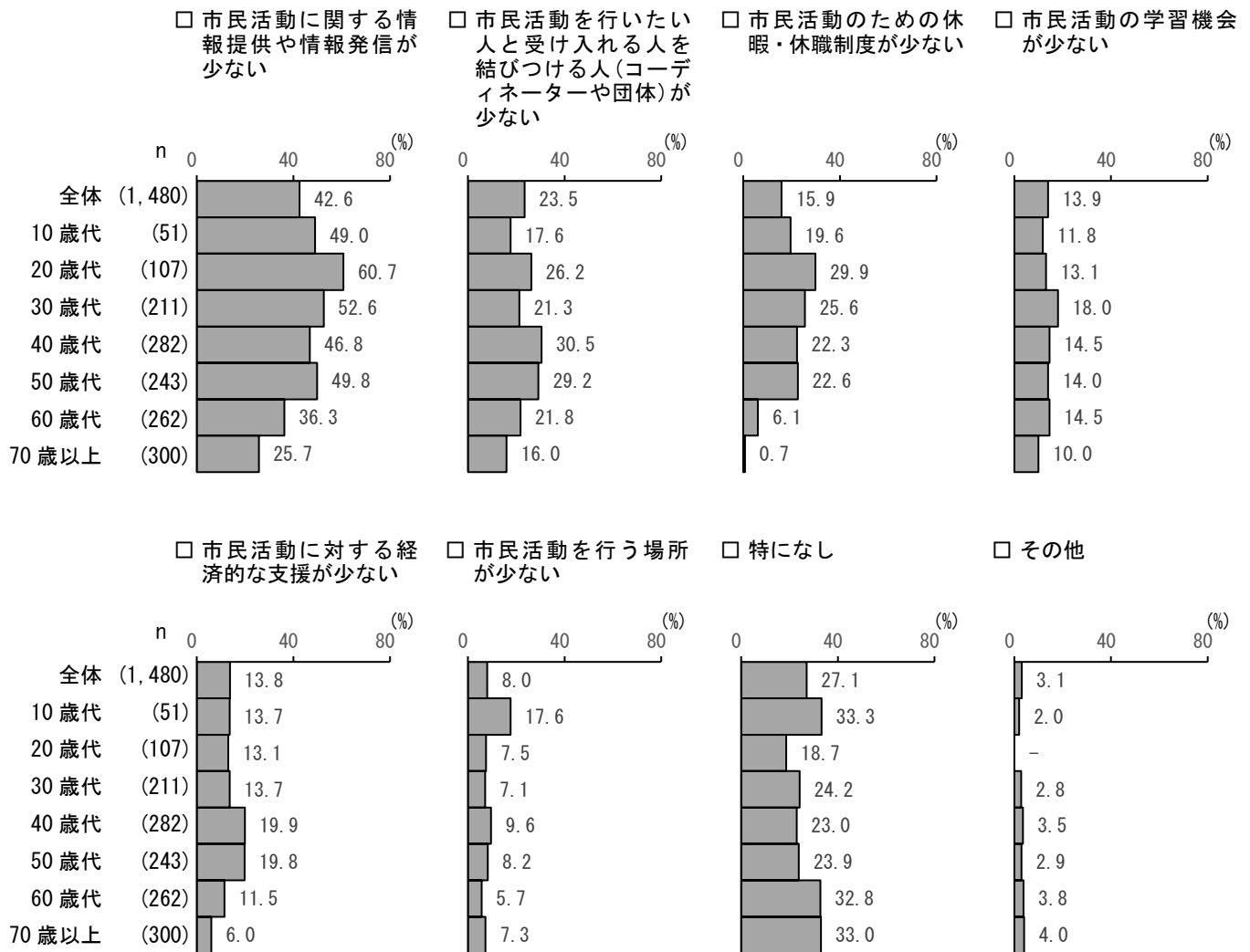
問3-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表47：市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】



市民活動団体が活動するときに妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が42.6%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」(23.5%)、「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」(15.9%)の順となっている。

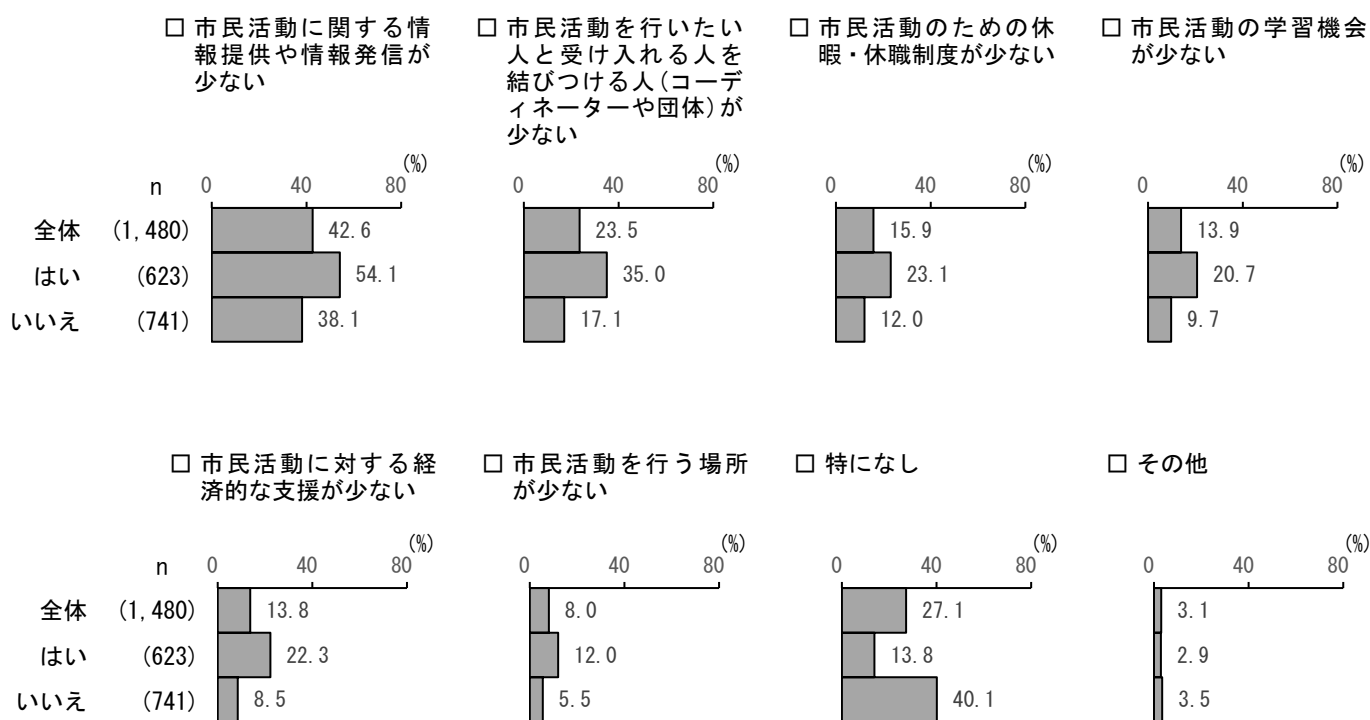
【図表4-8：年齢別／市民活動団体が活動するときの妨げになると思うこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を年齢別で見ると、20歳代が60.7%と最も高く、次いで、10歳代および30～50歳代が5割前後となっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、40歳代および50歳代が3割程度、「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」では、20～50歳代が2割を超えて、他の年代に比べ高くなっている。

【図表4-9：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】

上位8項目

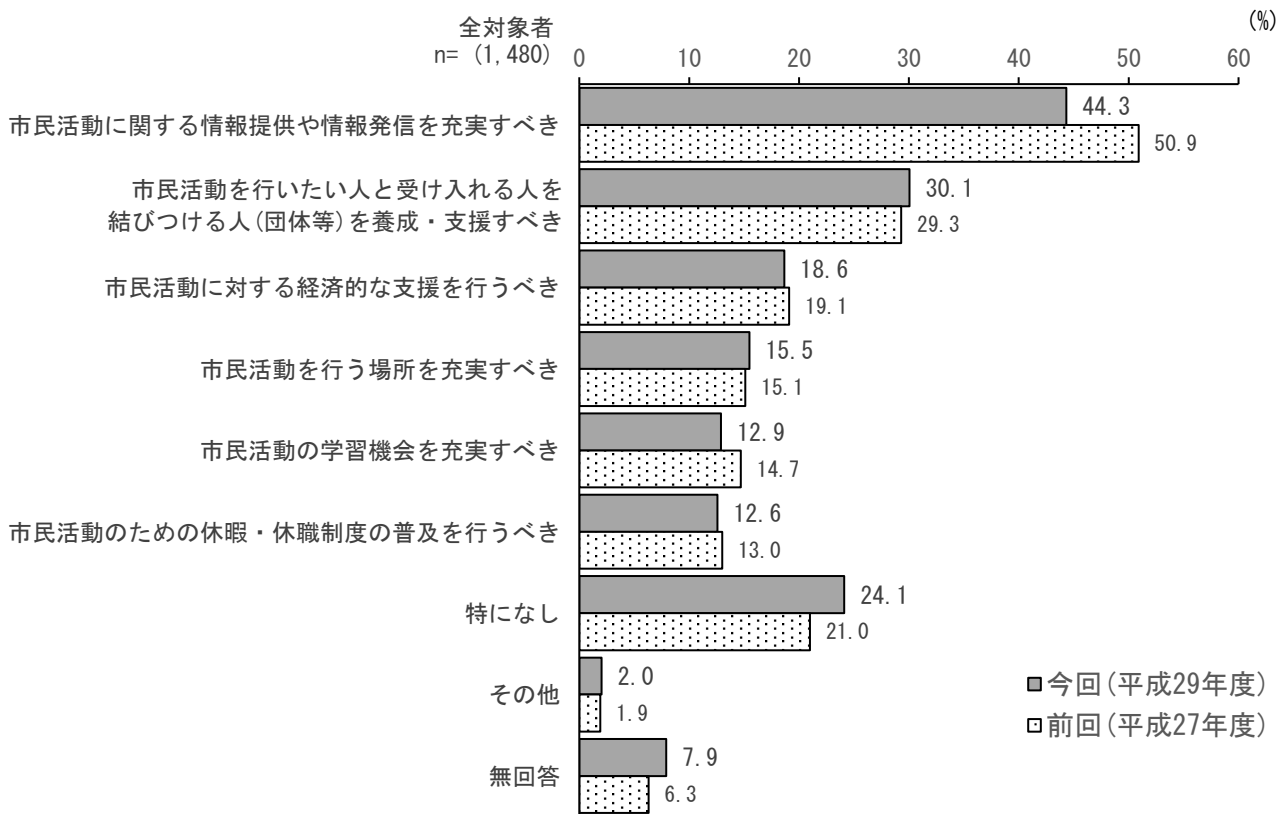


「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」54.1%、「いいえ」38.1%で、「はい」の方が「いいえ」より16.0ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、「はい」35.0%、「いいえ」17.1%で、「はい」の方が「いいえ」より17.9ポイント高くなっている。

(9) 市民活動について市に望むこと

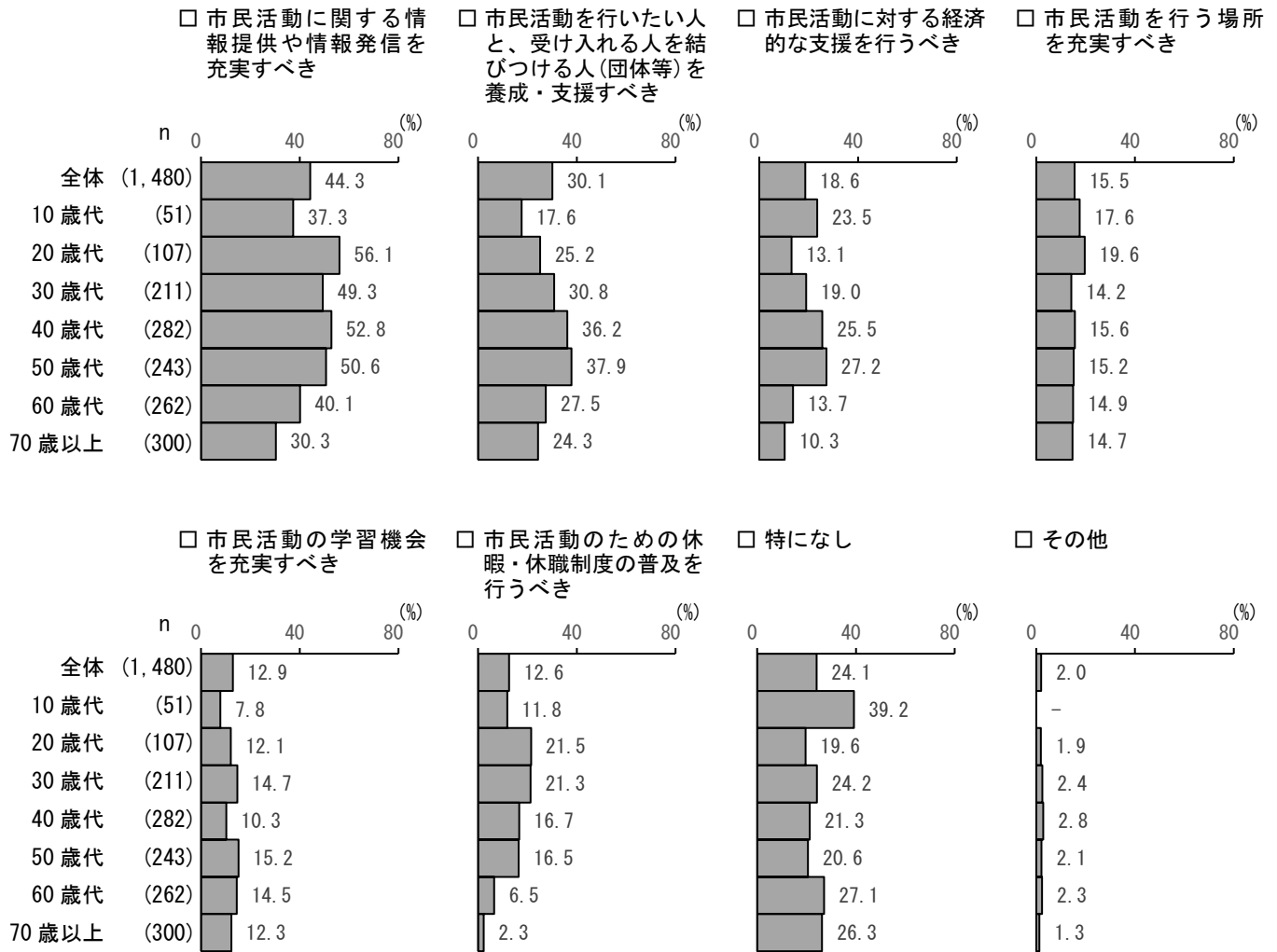
問3-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表50：市民活動について市に望むこと】



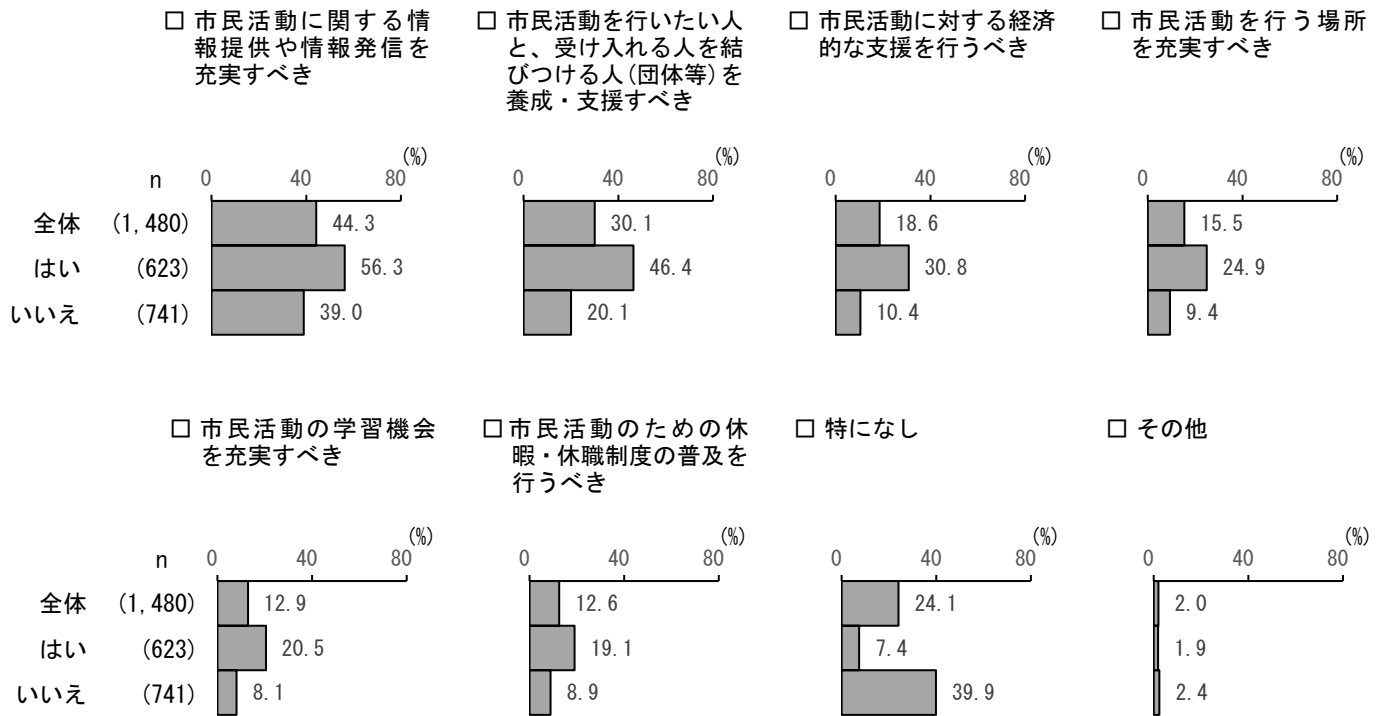
市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が44.3%と最も高いが、前回調査(平成27年度)の50.9%より割合は減っている。次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(30.1%)、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」(18.6%)の順となっている。

【図表5-1：年齢別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、20歳代が56.1%と最も高く、次いで、30～50歳代が5割前後となっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、40歳代および50歳代が4割弱と高く、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」においても、40～50歳代が他の年代に比べ高くなっている。

【図表5 2：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



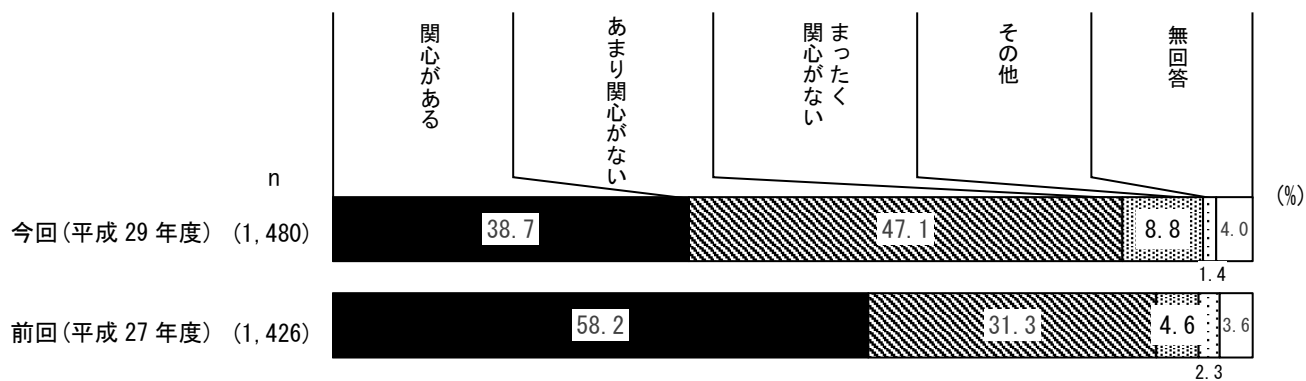
「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」56.3%、「いいえ」39.0%で、「はい」の方が「いいえ」より17.3ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、「はい」46.4%、「いいえ」20.1%で、「はい」の方が「いいえ」より26.3ポイント高くなっている。

4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への関心の有無

問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに〇)

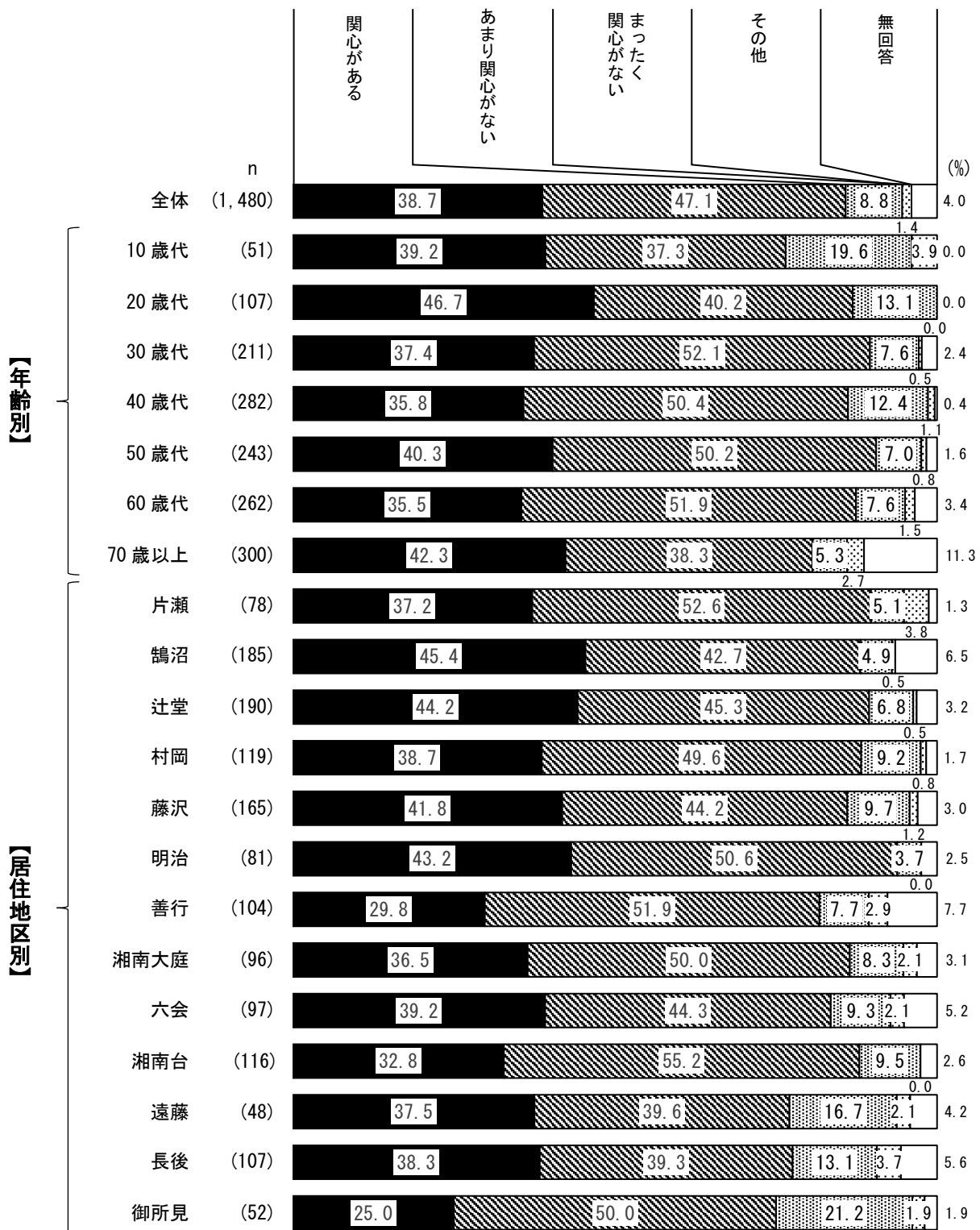
【図表53：ボランティア活動への関心の有無】



※ 前回調査（平成27年度）における「関心がある」は、「関心がある（東日本大震災発生前から関心があった）：32.7%」と「関心がある（東日本大震災発発生後、関心を持つようになった）：25.5%」の合計値

ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある」が38.7%、「あまり関心がない」が47.1%、「まったく関心がない」が8.8%となっている。

【図表54：年齢別・居住地区別／ボランティア活動への関心の有無】



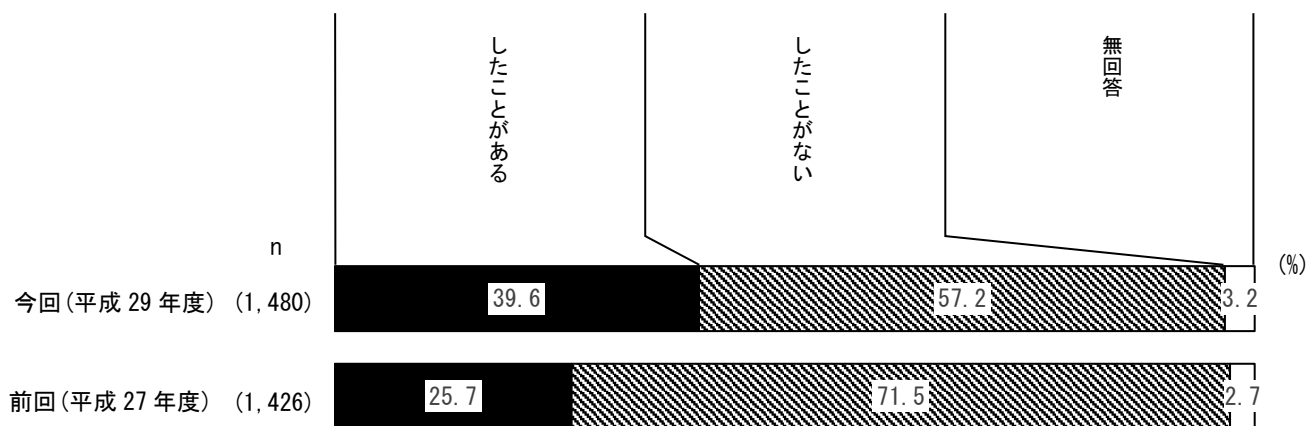
「関心がある」の割合を年齢別にみると、20歳代が46.7%と最も高く、次いで、50歳代（40.3%）と10歳代（39.2%）が約4割となっている。

居住地区別では、鶴沼（45.4%）、辻堂（44.2%）、明治（43.2%）、藤沢（41.8%）などで「関心がある」割合が4割以上となっている。

(2) ボランティア活動の経験

問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

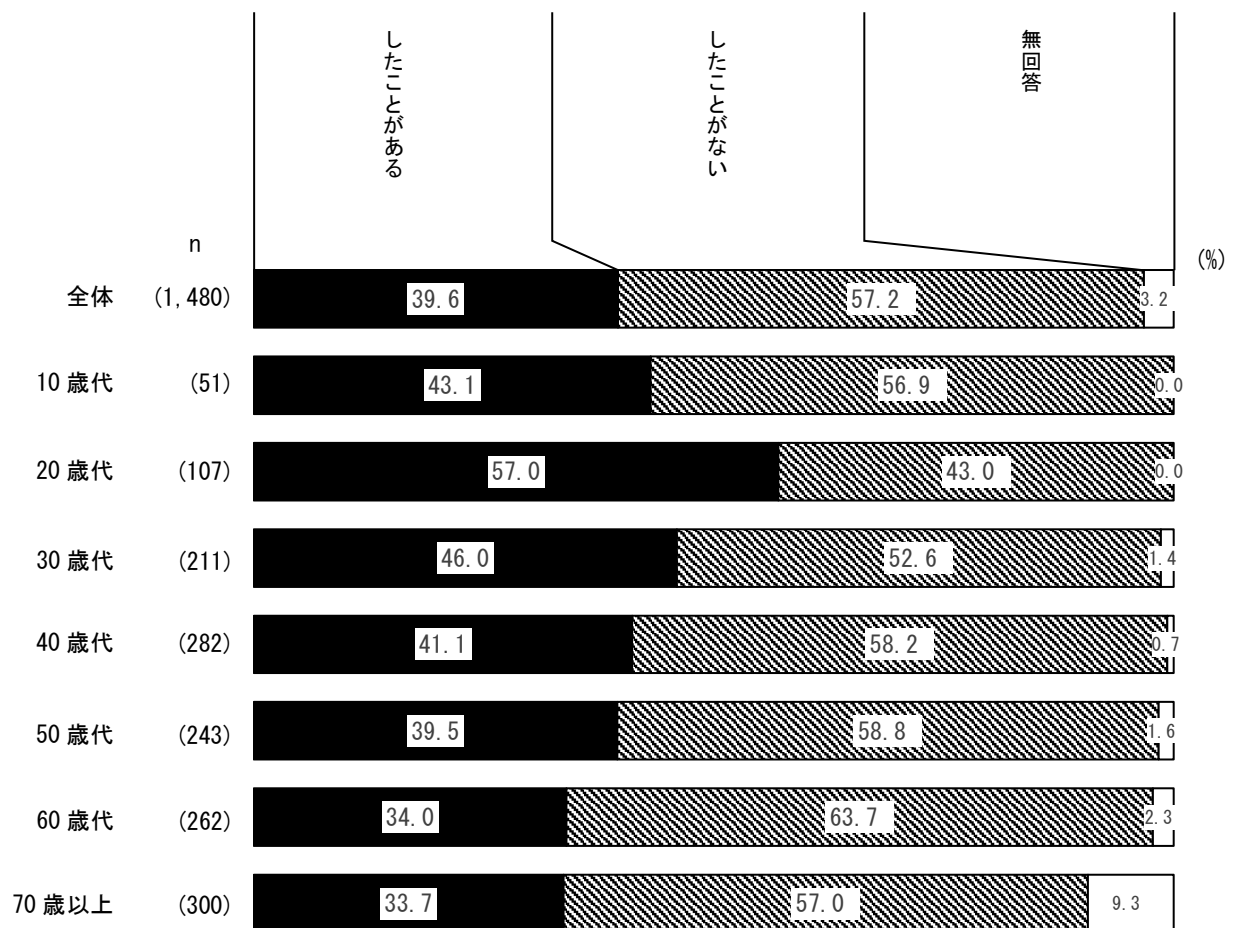
【図表55：ボランティア活動の経験】



※ 前回調査 (平成 27 年度) における「したことがある」は、「したことがある (東日本大震災発生前からしていた) : 21.9%」と「したことがある (東日本大震災発生後、するようになった) : 3.8%」の合計値

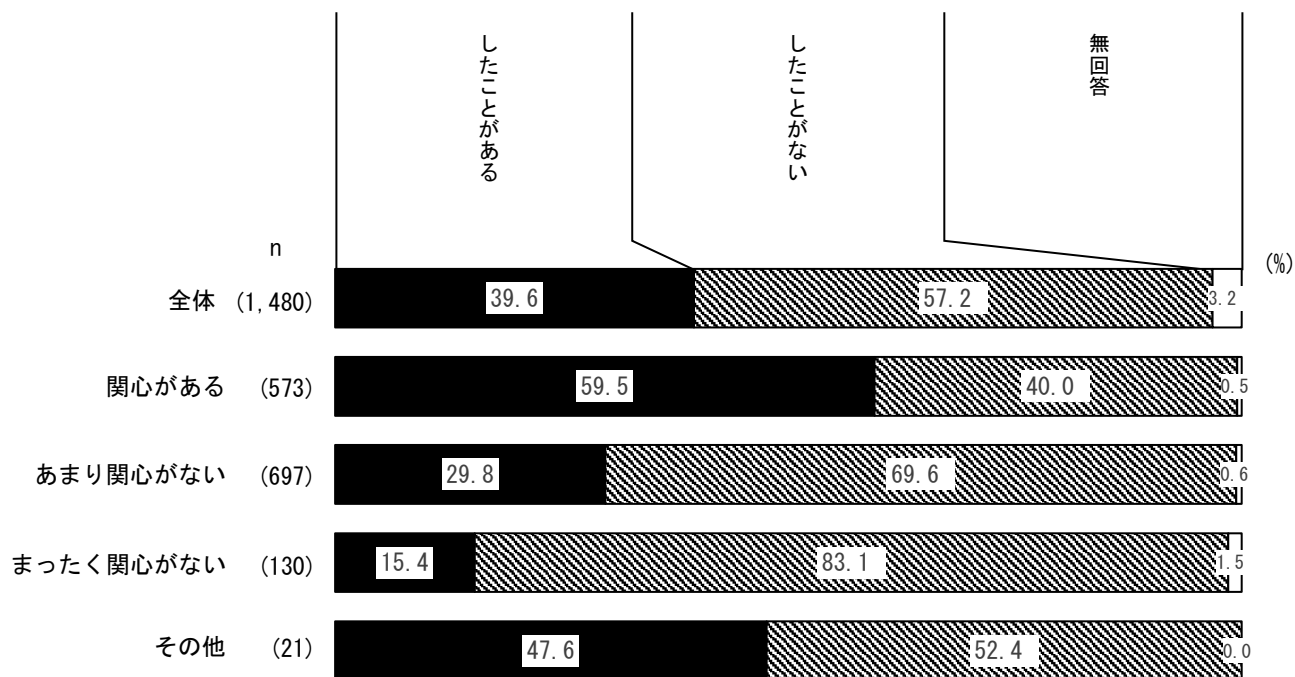
ボランティア活動の経験については、「したことがある」が 39.6%と、前回調査 (平成 27 年度) の 25.7% から 13.9 ポイント上がっている。

【図表56：年齢別／ボランティア活動の経験】



年齢別にみると、20歳代が57.0%とボランティア活動を「したことがある」割合が最も高く、次いで、30歳代（46.0%）、10歳代（43.1%）、40歳代（41.1%）、50歳代（39.5%）の順となっている。

【図表57：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】

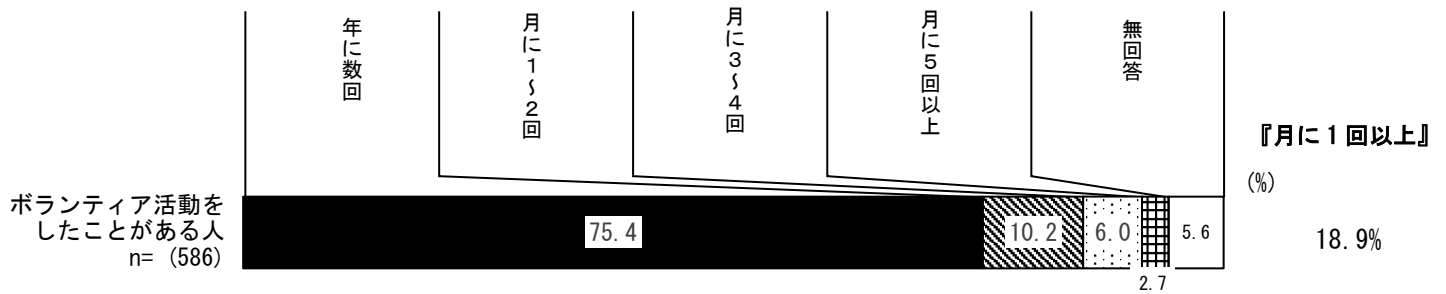


ボランティア活動への関心の有無別にみると、「関心がある」でボランティア活動を「したことがある」のは59.5%、「あまり関心がない」では29.8%となっている。

(3) ボランティア活動への参加の頻度

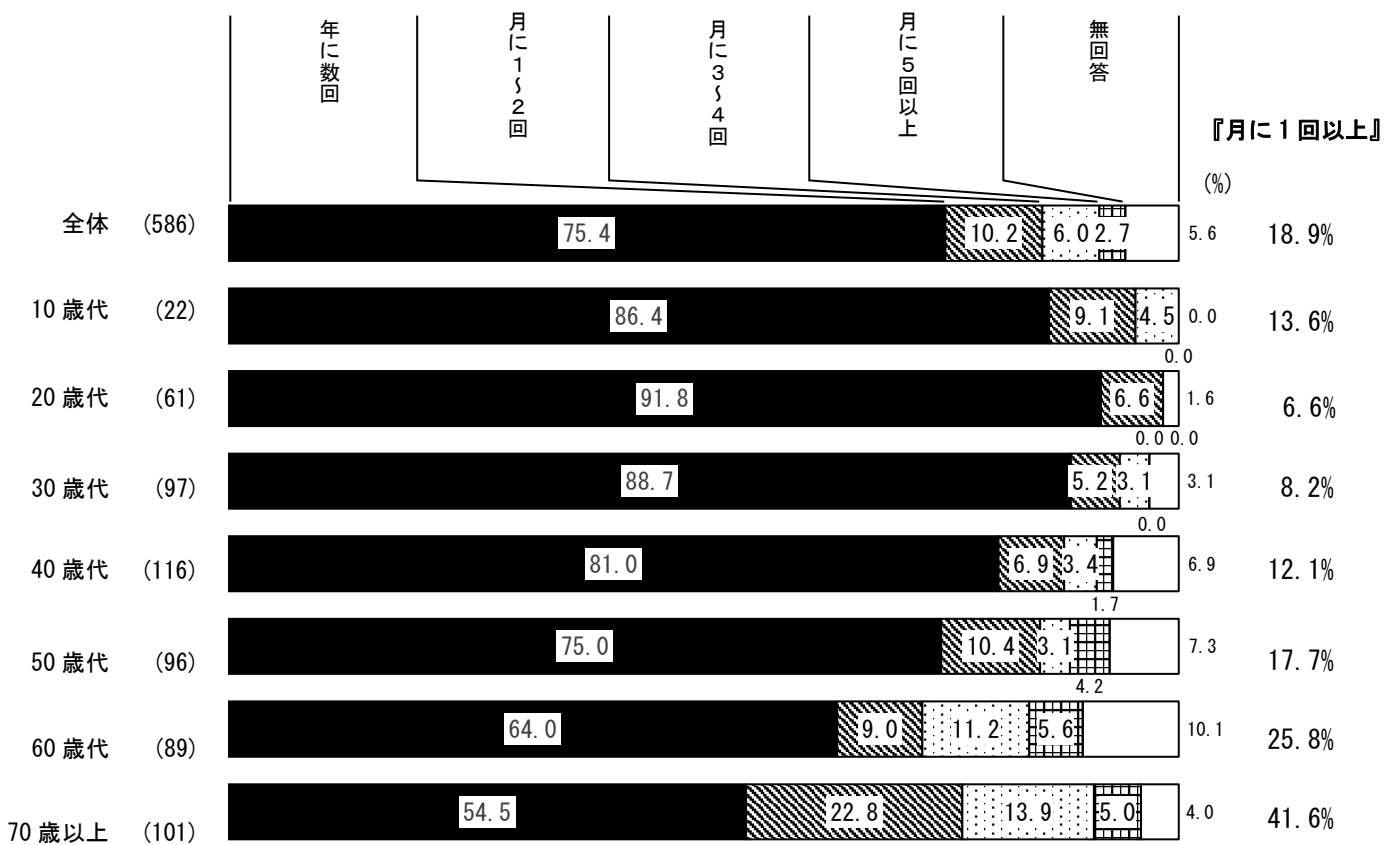
【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

【図表58：ボランティア活動への参加の頻度】



ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が75.4%と最も高く、「月に1~2回」が10.2%、「月に3~4回」が6.0%、「月に5回以上」が2.7%となっている。

【図表59：ボランティア活動への参加の頻度】

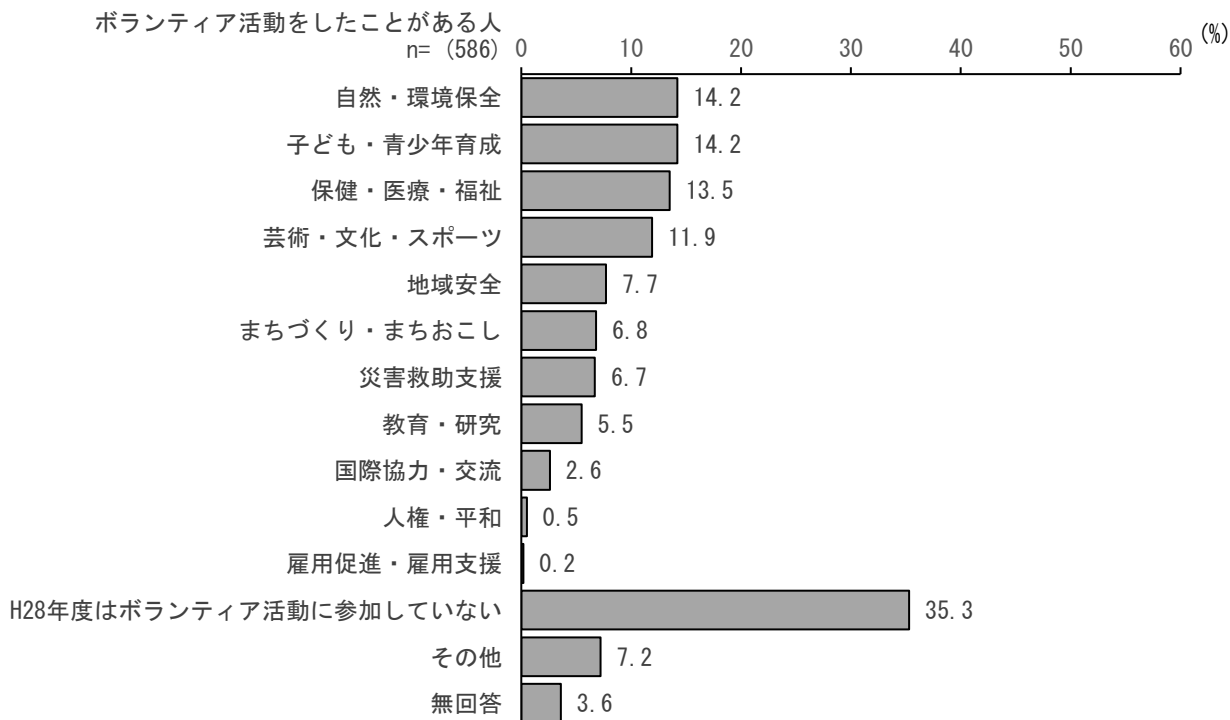


年齢別にみると、年代が上がるにつれボランティア活動への参加頻度が高まる傾向がみられ、70歳以上では41.6%が『月に1回以上』参加している。

(4) 平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-4 あなたは平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

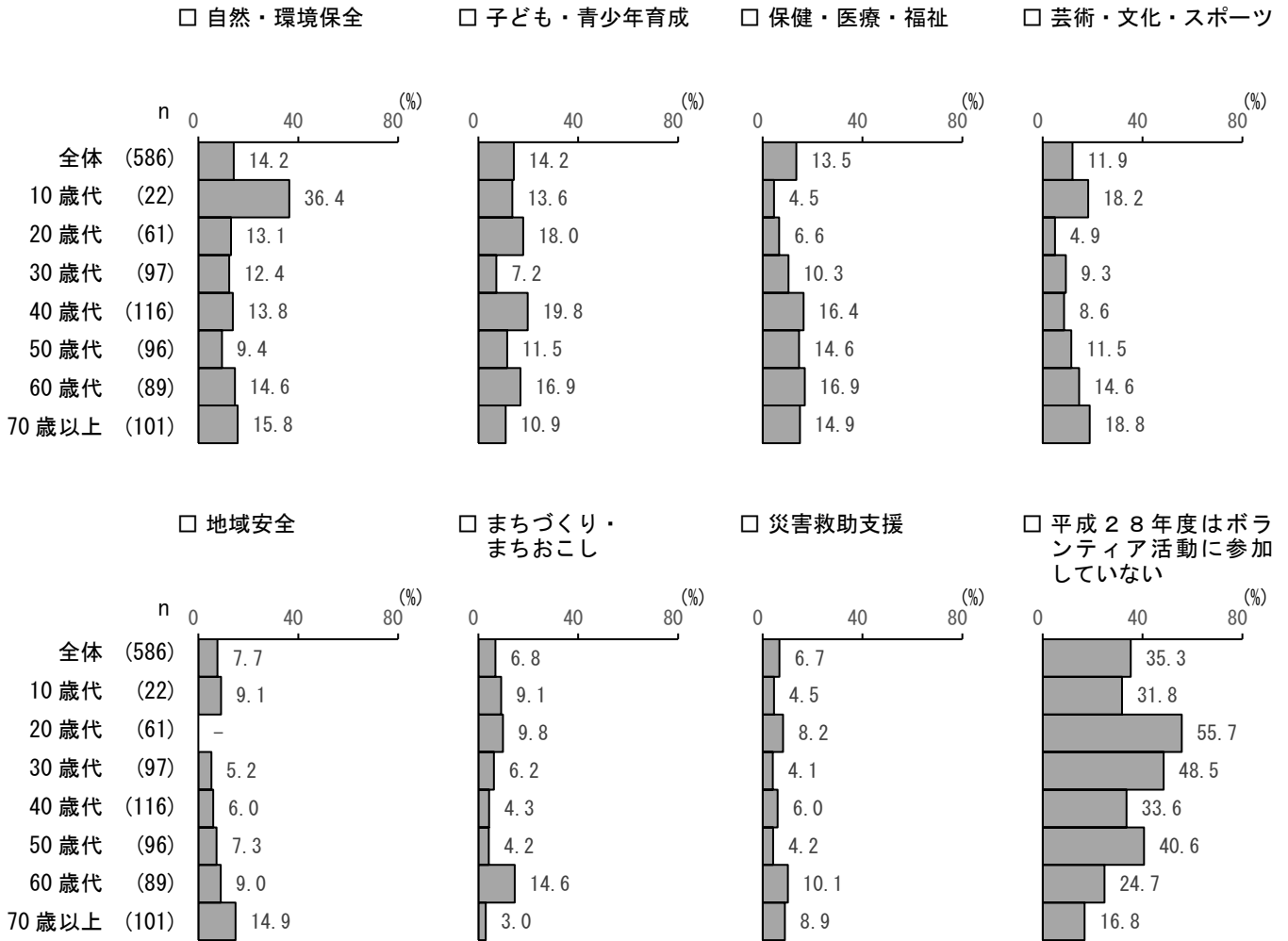
【図表60：平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動】



平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保全」「子ども・青少年育成」がともに14.2%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」（13.5%）、「芸術・文化・スポーツ」（11.9%）の順となっている。

なお、「平成28年度はボランティア活動に参加していない」人は35.3%となっている。

【図表6-1：年齢別／平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動】上位8項目

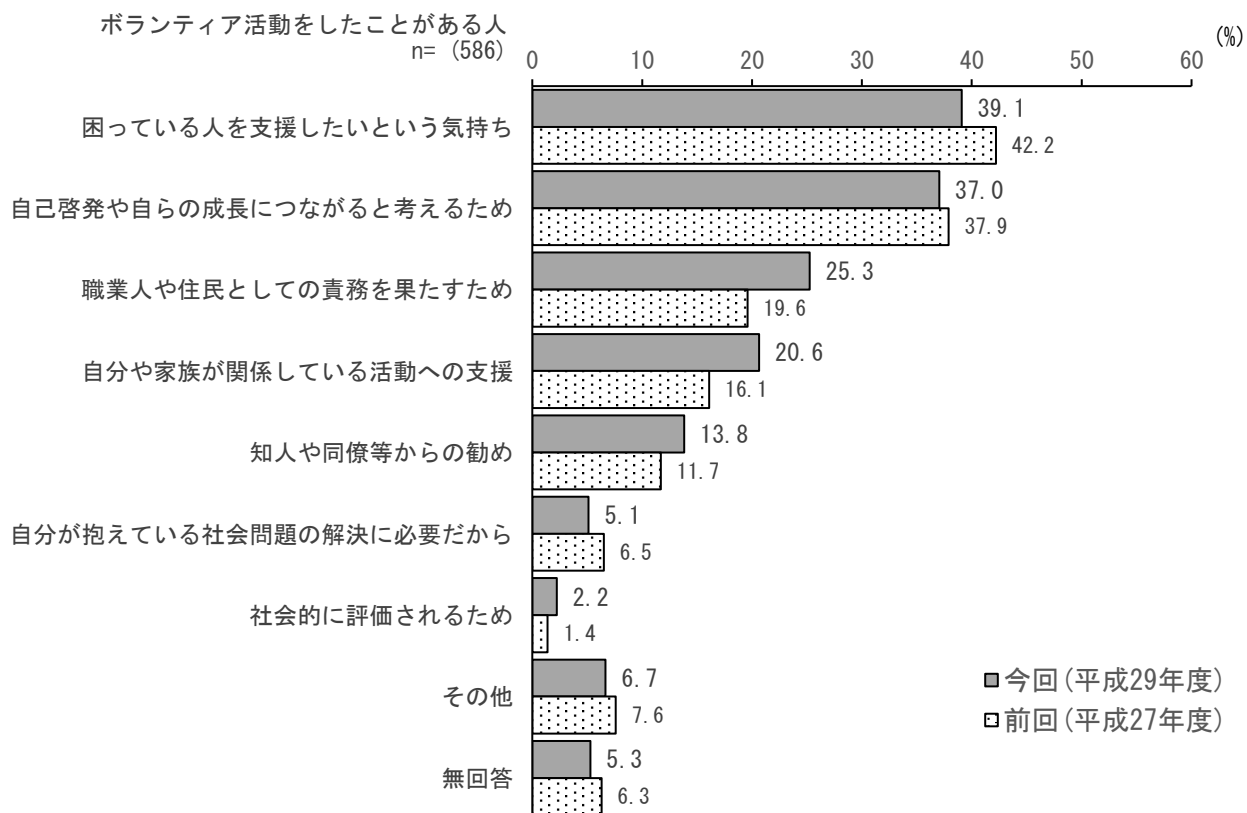


年齢別にみると、「自然・環境保全」は70歳以上（15.8%）や60歳代（14.6%）、「子ども・青少年育成」では40歳代（19.8%）や20歳代（18.0%）などで割合が高くなっている。一方、「平成28年度はボランティア活動に参加していない」割合は、20歳代（55.7%）や30歳代（48.5%）などで高くなっている。

(5) ボランティア活動に参加する理由

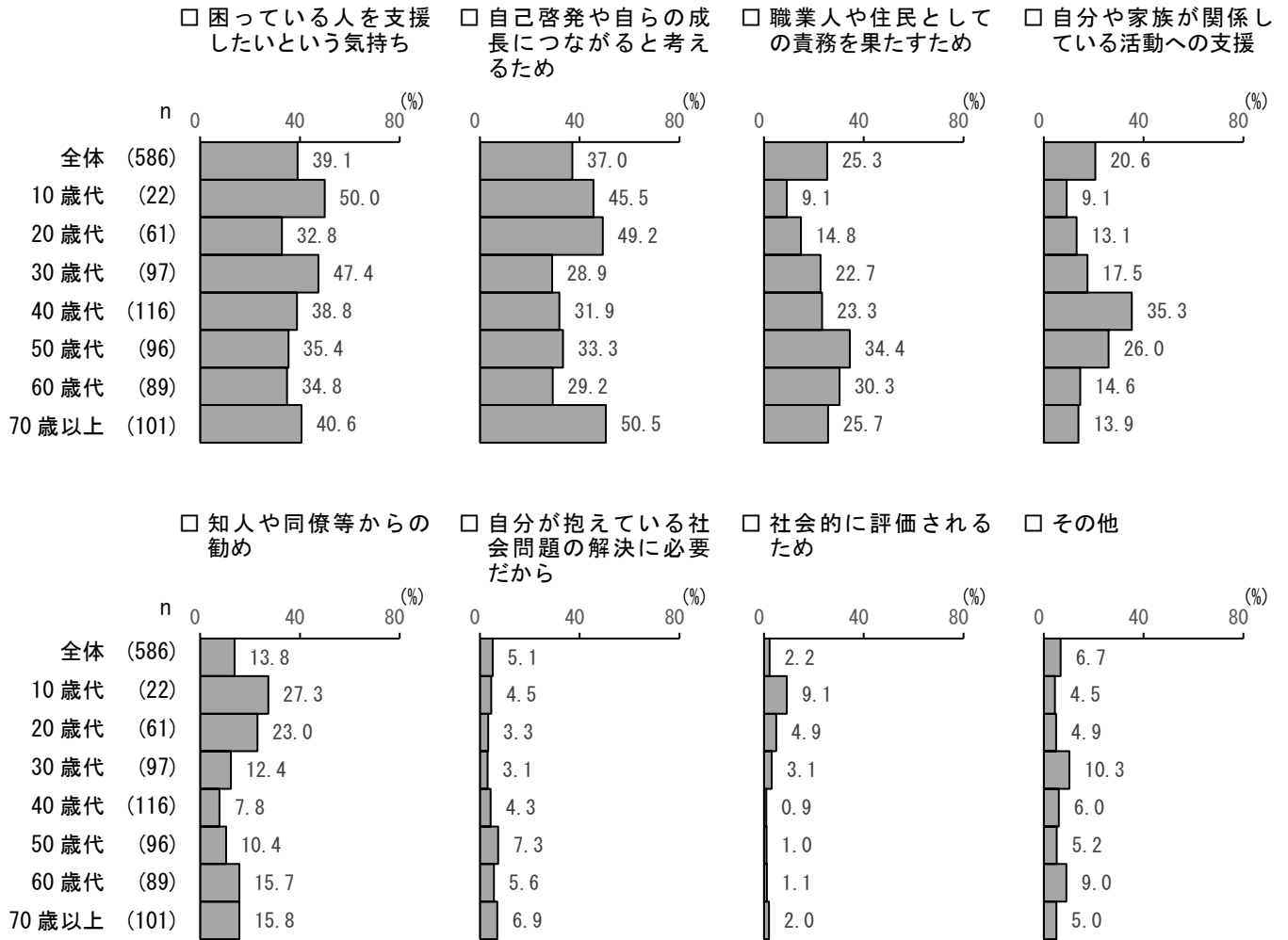
【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表62：ボランティア活動に参加する理由】



ボランティア活動に参加する理由については、「困っている人を支援したいという気持ち」が39.1%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(37.0)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(25.3)の順となっている。

【図表6-3：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

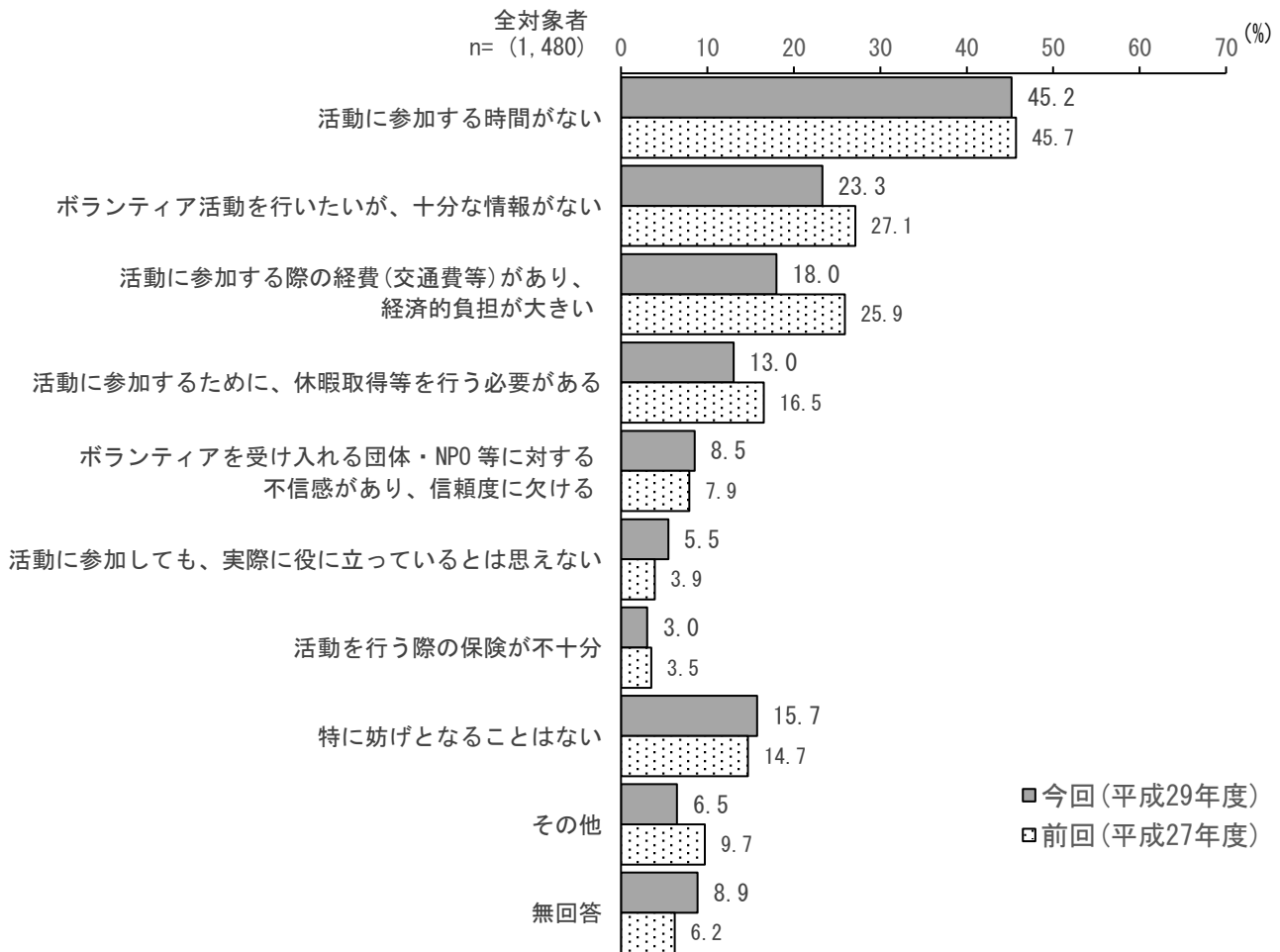


「困っている人を支援したいという気持ち」を年齢別で見ると、30歳代（47.4%）や70歳以上（40.6%）などで高くなっている。また、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」は、70歳以上（50.5%）や20歳代（49.2%）で高く、「職業人や住民としての責務を果たすため」は、50歳代（34.4%）や60歳代（30.3%）などで割合が高くなっている。

(6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

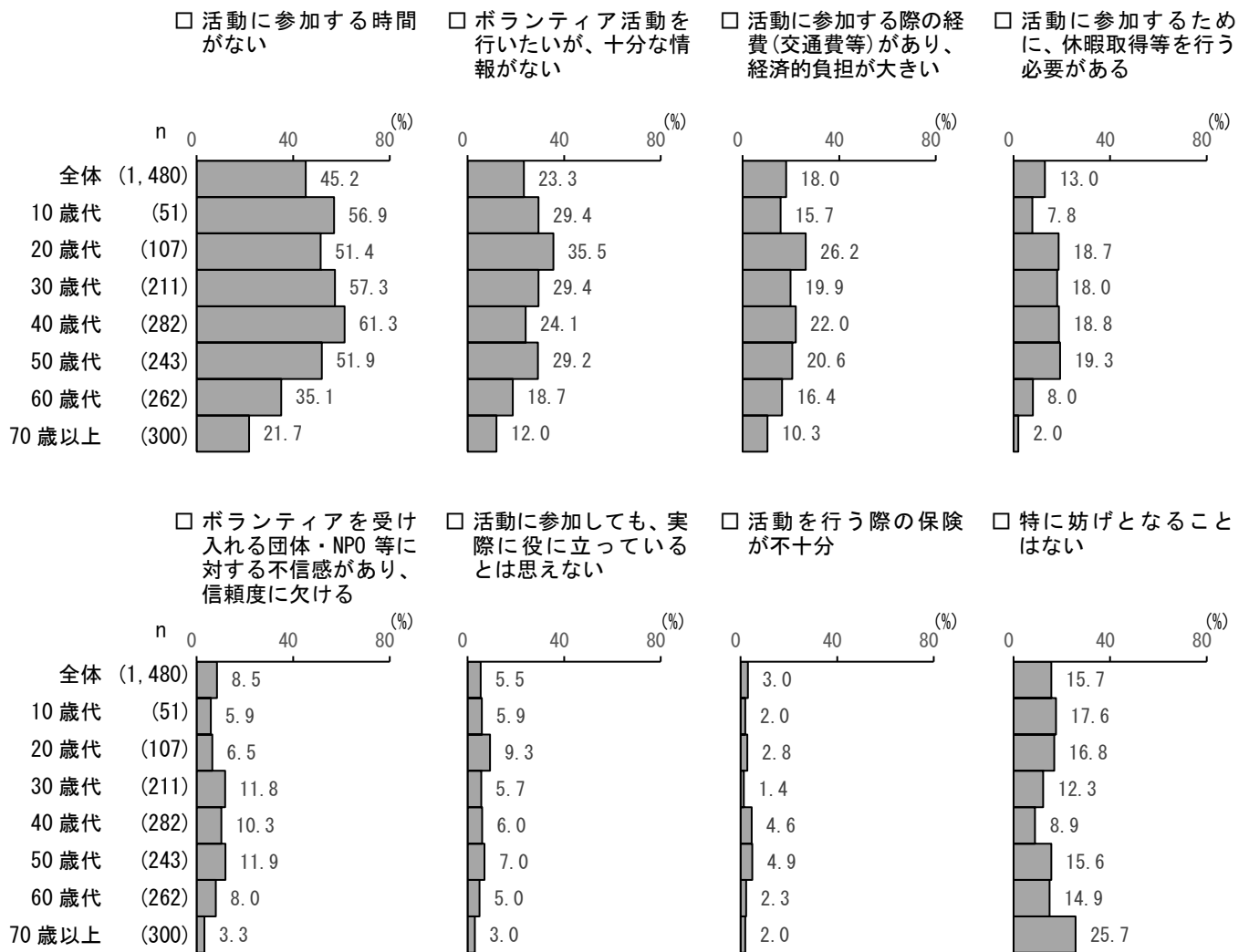
問4-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表64：ボランティア活動に参加することに妨げとなること】



ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が45.2%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(23.3%)、「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」(18.0%)の順となっている。

【図表65：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなること】上位8項目

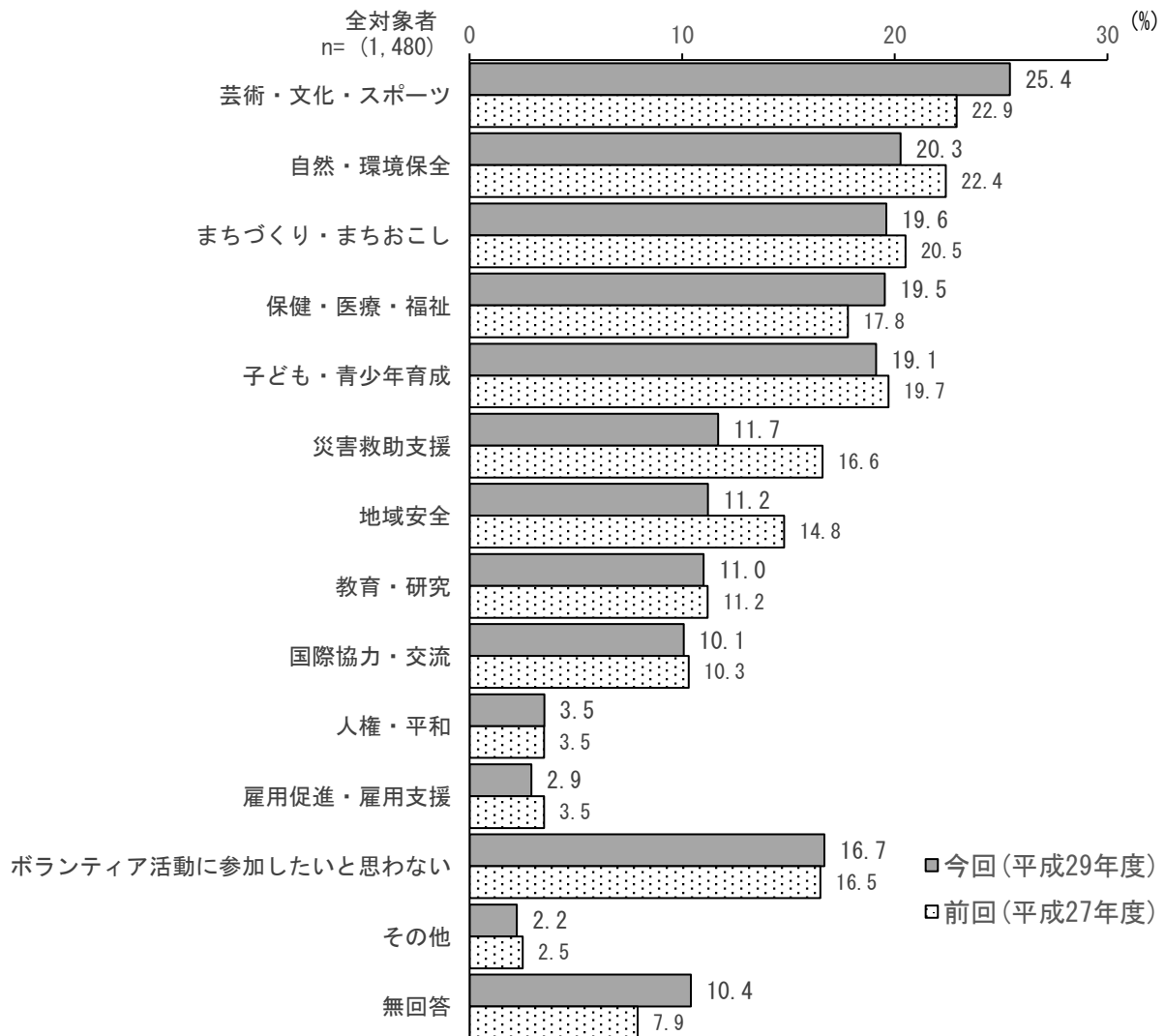


「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、40歳代が61.3%と最も高く、次いで、30歳代(57.3%)、10歳代(56.9%)、50歳代(51.9%)、20歳代(51.4%)が5割を超えている。「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」は、20歳代が35.5%と最も高く、次いで、10歳代(29.4%)、30歳代(29.4%)、50歳代(29.2%)などが3割近くとなっている。「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」も、20歳代が26.2%と最も高く、次いで、40歳代(22.0%)、50歳代(20.6%)などの割合が高くなっている。

(7) 今後参加したいボランティア活動の分野

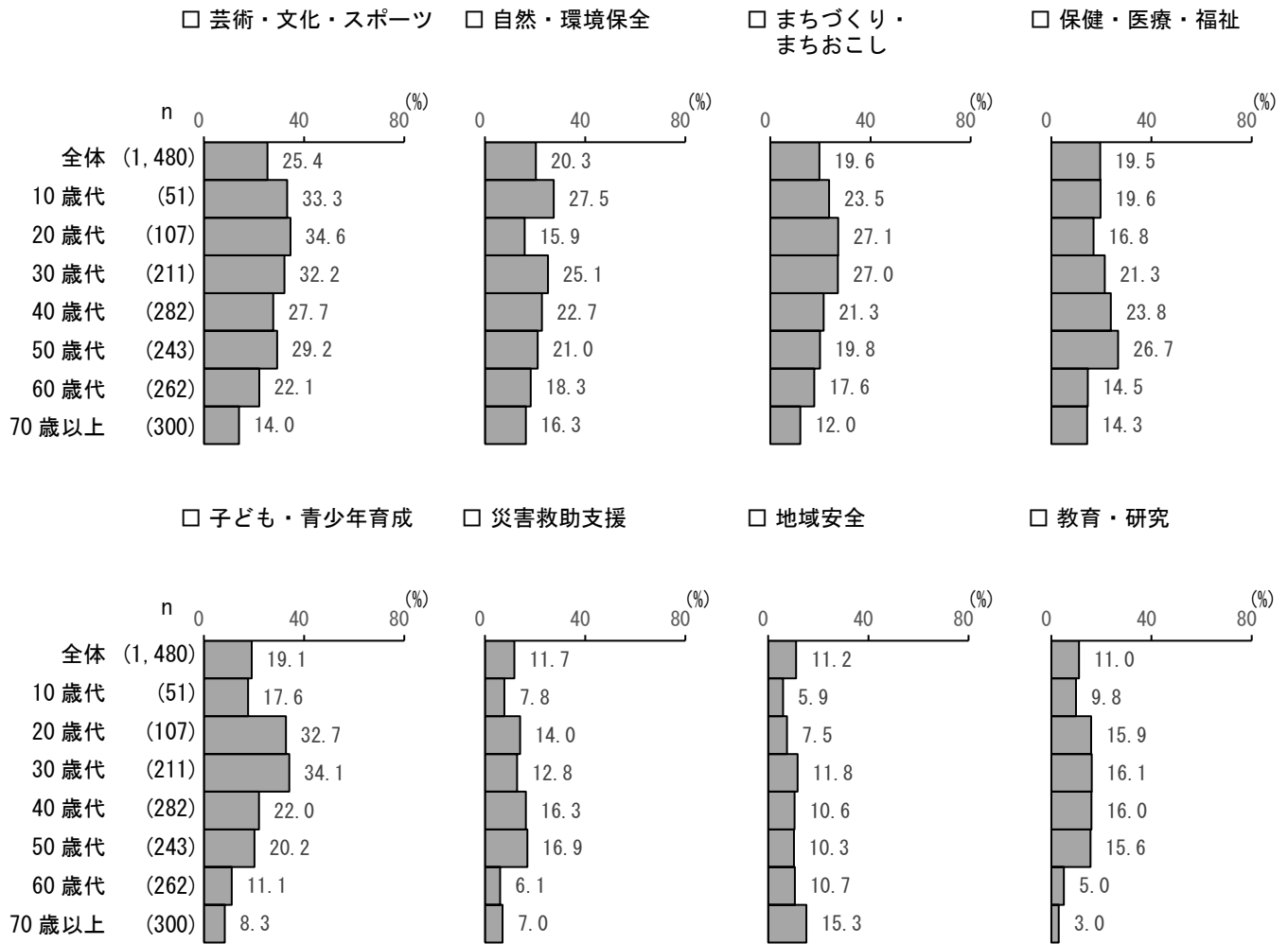
問4-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

【図表66：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動については、「芸術・文化・スポーツ」が25.4%と最も高く、次いで、「自然・環境保全」(20.3%)、「まちづくり・まちおこし」(19.6%)、「保健・医療・福祉」(19.5%)、子ども・青少年育成」(19.1%)の順となっている。

【図表67：年齢別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目

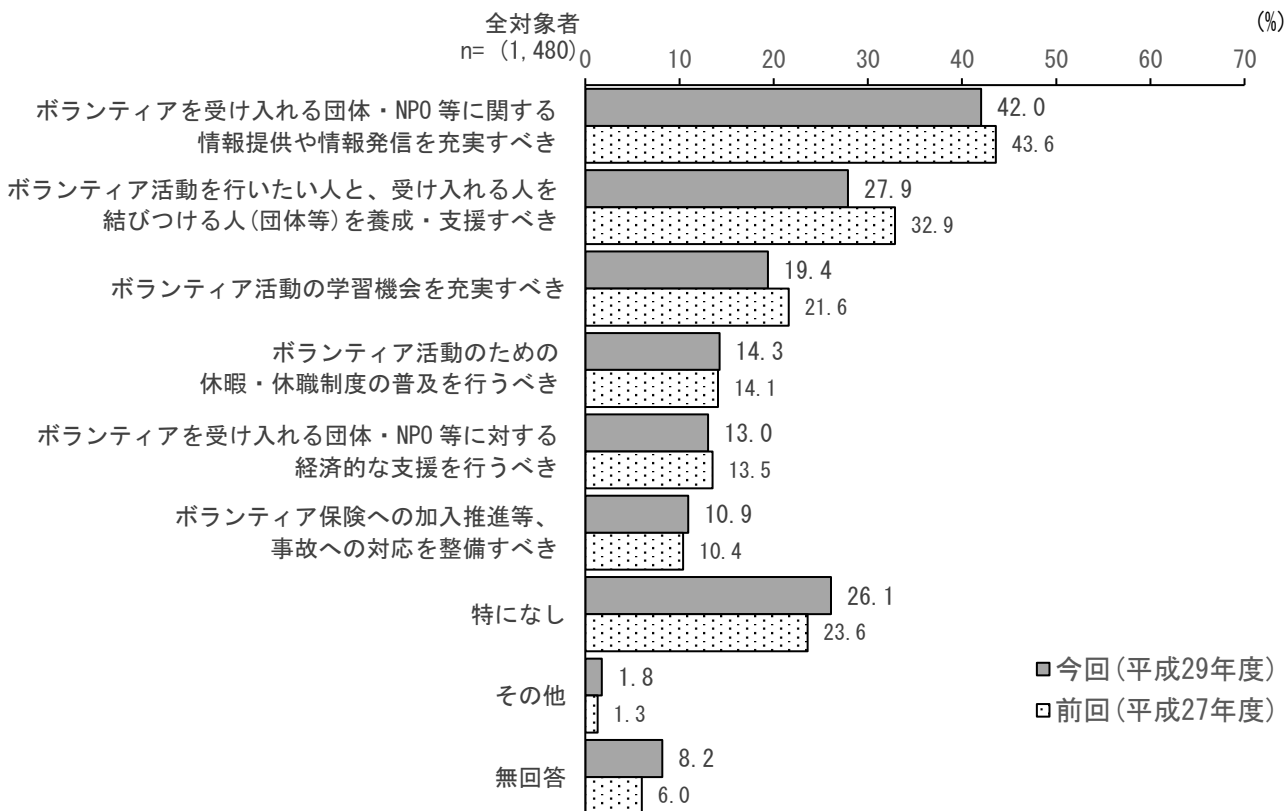


「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代が34.6%と最も高く、次いで、10歳代(33.3%)、30歳代(32.2%)が3割を超えている。「自然・環境保全」は、10歳代が27.5%と最も高く、次いで、30歳代(25.1%)、40歳代(22.7%)、50歳代(21.0%)などの割合が高くなっている。「まちづくり・まちおこし」は、20歳代(27.1%)と30歳代(27.0%)の割合が最も高くなっている。

(8) ボランティア活動について市に望むこと

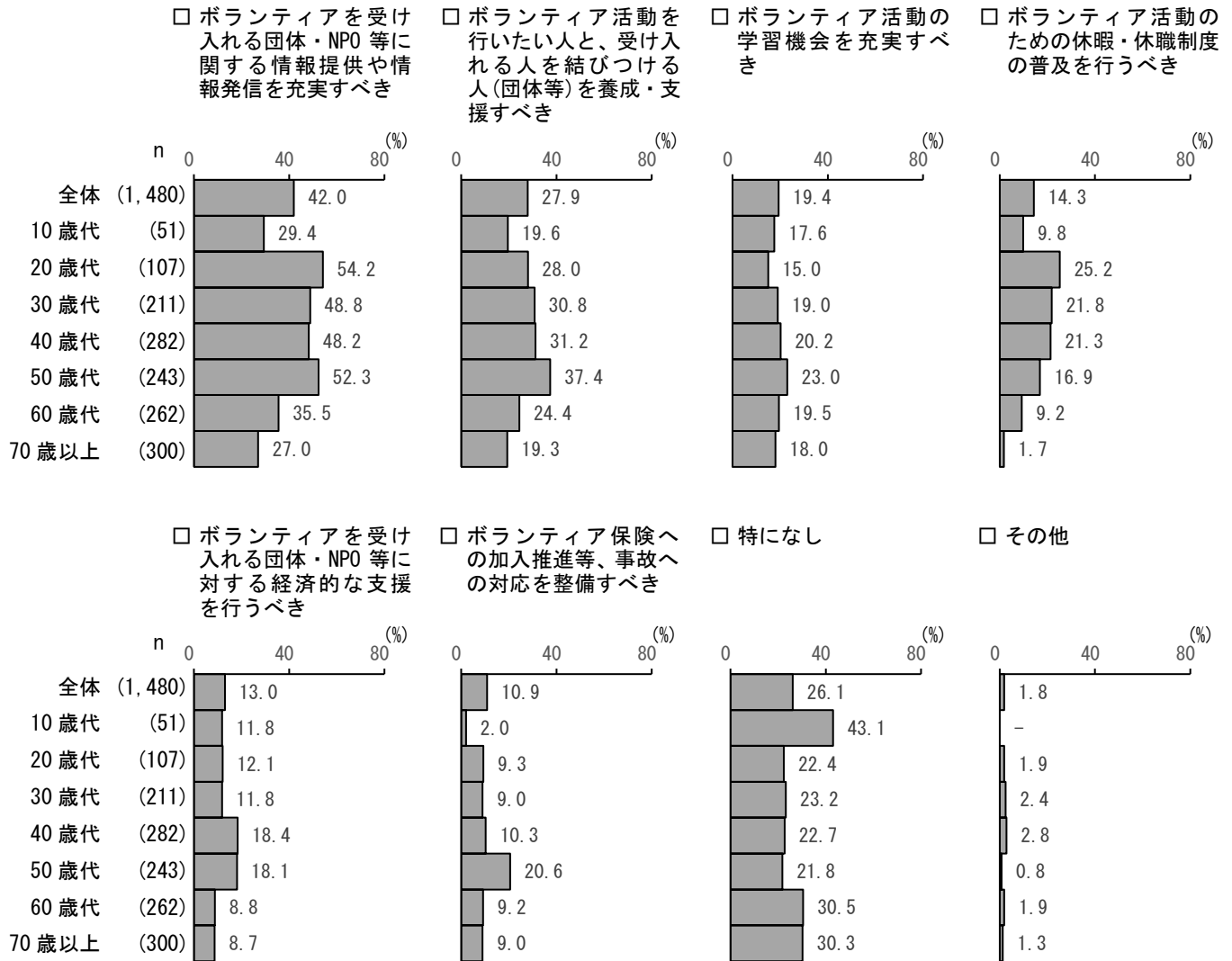
問4-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表68：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が42.0%と最も高くなっている。次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(27.9%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(19.4%)の順となっている。

【図表69：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



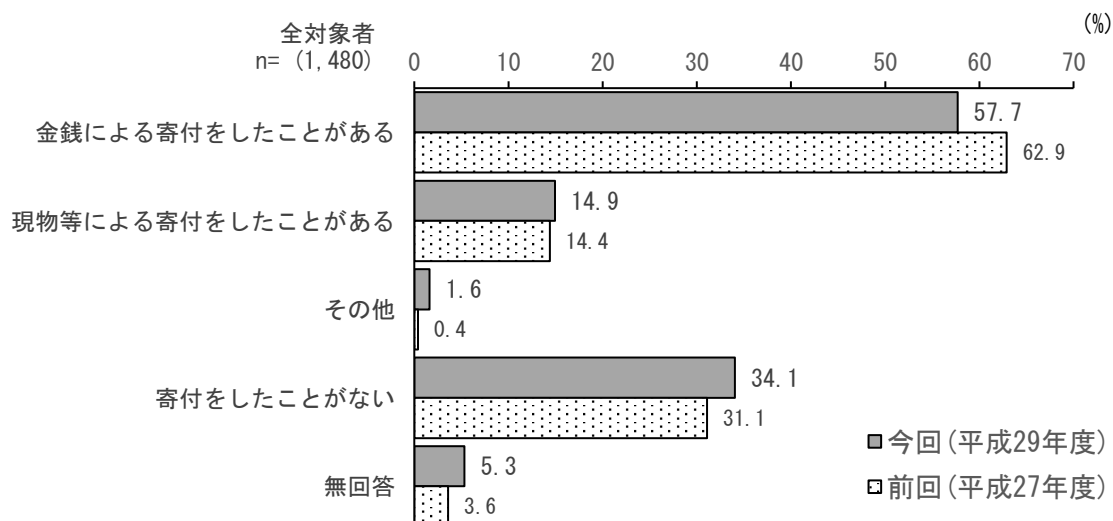
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別でみると、20歳代が54.2%と最も高く、次いで、50歳代(52.3%)、30歳代(48.8%)、40歳代(48.2%)の割合が高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、50歳代が37.4%と最も高く、40歳代(31.2%)と30歳代(30.8%)が3割以上となっている。

5. 寄付について

(1) 寄付経験の有無

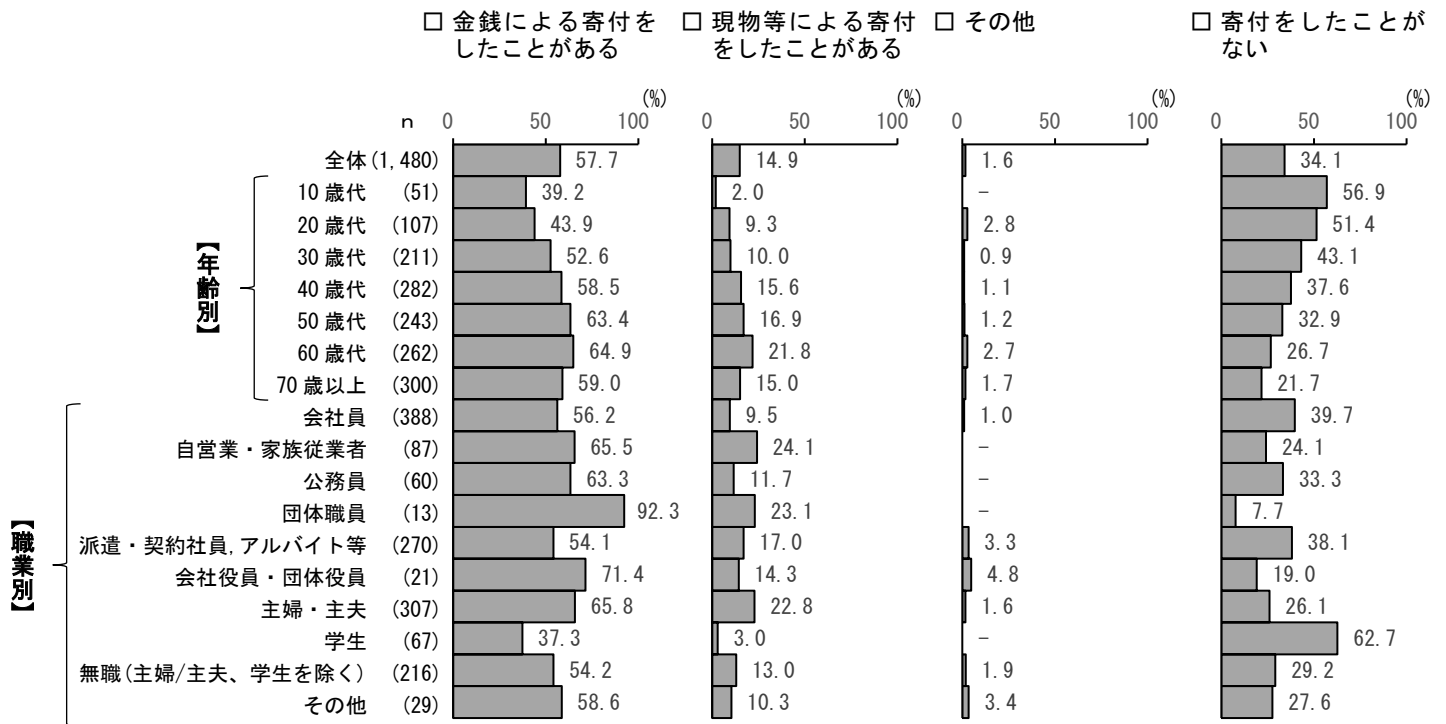
問5-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表70：寄付経験の有無】



寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が57.7%で、前回調査（平成27年度）の62.9%より5.2ポイント減っている。また、「現物等による寄付をしたことがある」は14.9%で、こちらは前回調査（平成27年度）の14.4%とほぼ変わらない。

【図表71：年齢別・職業別／寄付経験の有無】

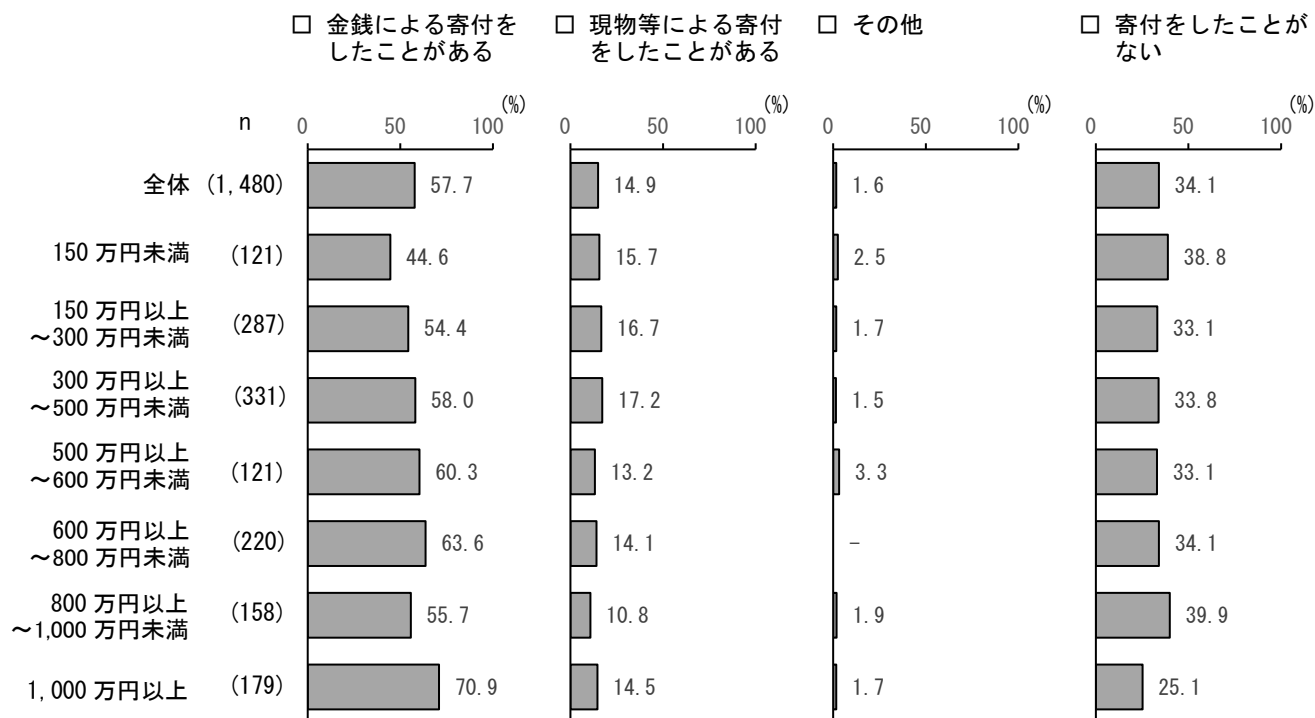


「金銭による寄付をしたことがある」割合を年齢別にみると、60歳代が64.9%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれ高くなっている。「現物等による寄付をしたことがある」についても同様の傾向となっている。

「金銭による寄付をしたことがある」を職業別にみると、「主婦・主夫」(65.8%)、「自営業・家族従業者」(65.5%)、「公務員」(63.3%)などで6割を超えて高くなっている。

一方、「寄付をしたことがない」は、10歳代(56.9%)、20歳代(51.4%)、「学生」(62.7%)などの割合が高い。

【図表7-2：年収区分別／寄付経験の有無】



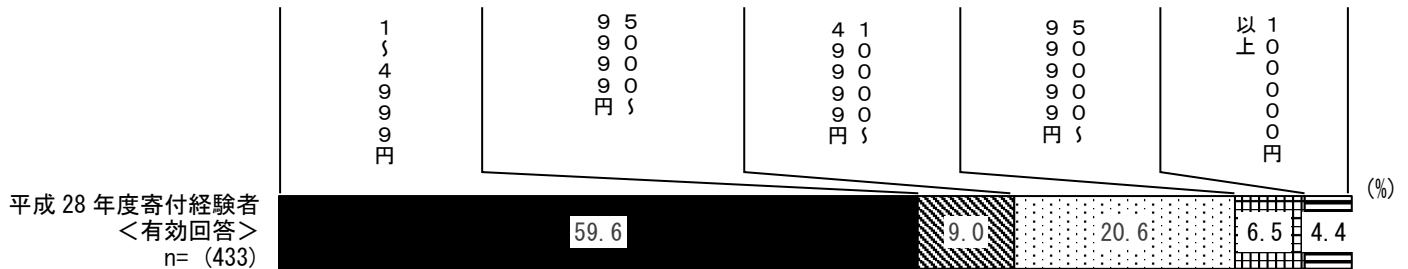
「金銭による寄付をしたことがある」割合を年収区別にみると、「1,000万円以上」が70.9%と最も高く、おおむね年収が上がるにつれ高くなっている。「現物等による寄付をしたことがある」については、年収区分による違いはそれほどみられない。

(2) 平成28年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

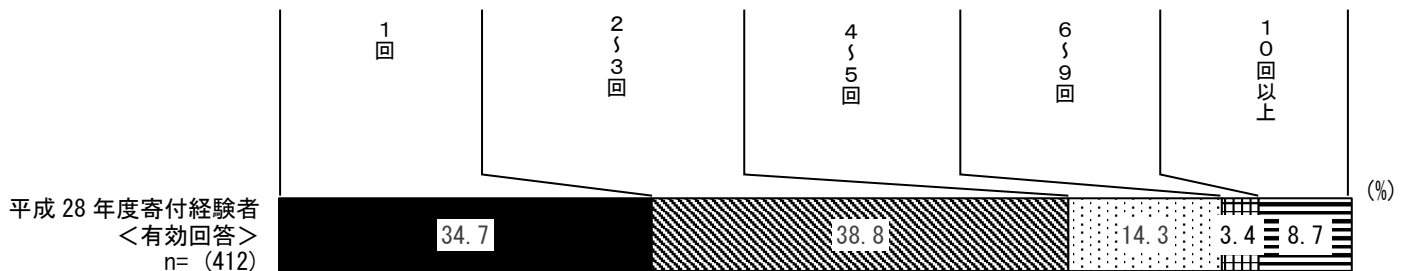
問5-2 平成28年度（平成28年4月~平成29年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

【図表73：個人の年間寄付金額】



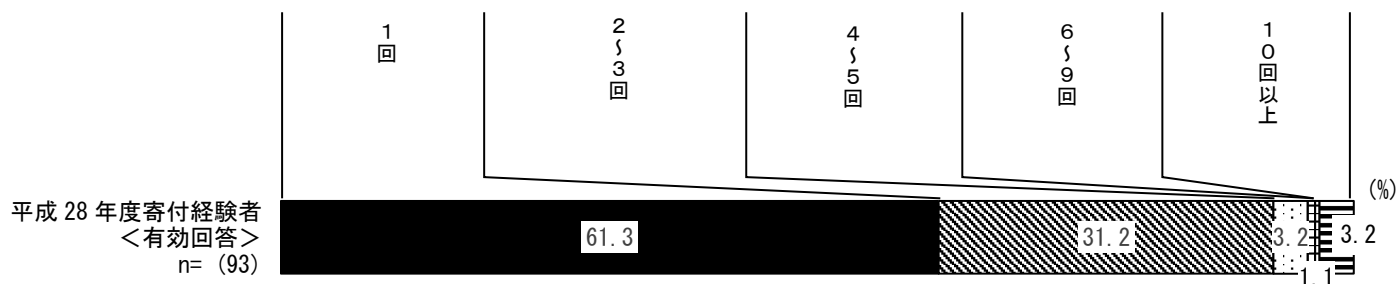
個人の年間寄付金額は、「1~4,999円」が59.6%と最も高く、次いで「10,000~49,999円」(20.6%)、「5,000~9,999円」(9.0%)、「50,000~99,999円」(6.5%)、「100,000円以上」(4.4%)となっている。なお、寄付額の平均は12,576円となっている。

【図表74：個人の年間金銭寄付回数】



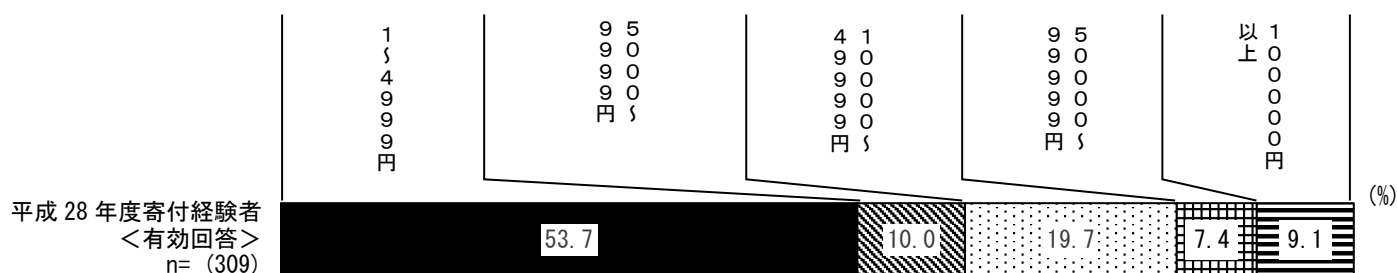
個人の年間金銭寄付回数については、「2~3回」が38.8%と最も高く、次いで「1回」(34.7%)、「4~5回」(14.3%)、「10回以上」(8.7%)、「6~9回」(3.4%)となっている。なお、寄付回数の平均は3.1回となっている。

【図表75：個人の年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、「1回」が61.3%と最も高く、次いで「2~3回」(31.2%)、「4~5回」(3.2%)、「10回以上」(3.2%)、「6~9回」(1.1%)となっている。

【図表76：世帯全体の年間寄付金額】

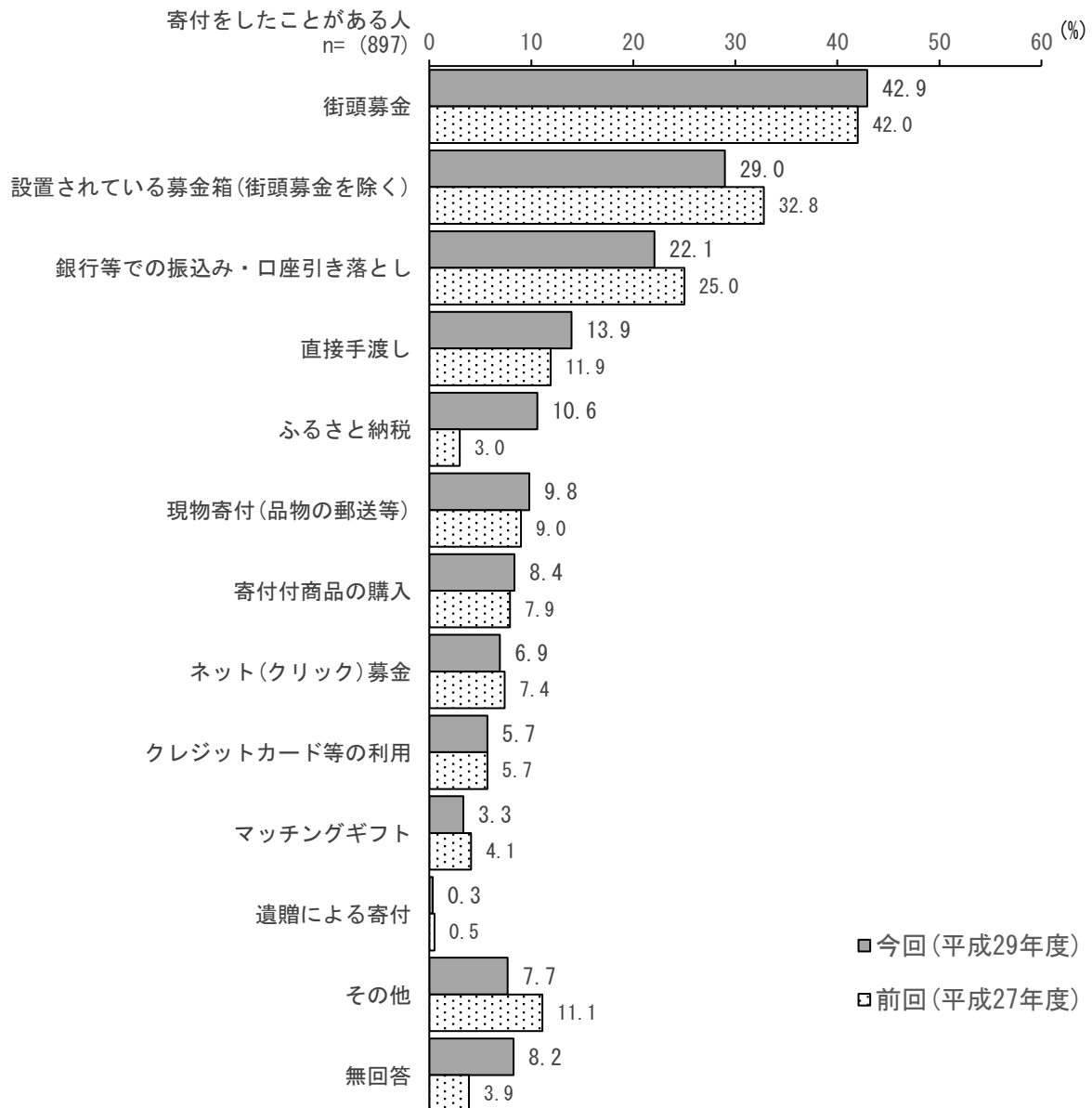


世帯全体の年間の寄付金額は、「1~4,999円」が53.7%と最も高く、次いで「10,000~49,999円」(19.7%)、「5,000~9,999円」(10.0%)、「100,000円以上」(9.1%)、「50,000~99,999円」(7.4%)となっている。

(3) 寄付を行った方法

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

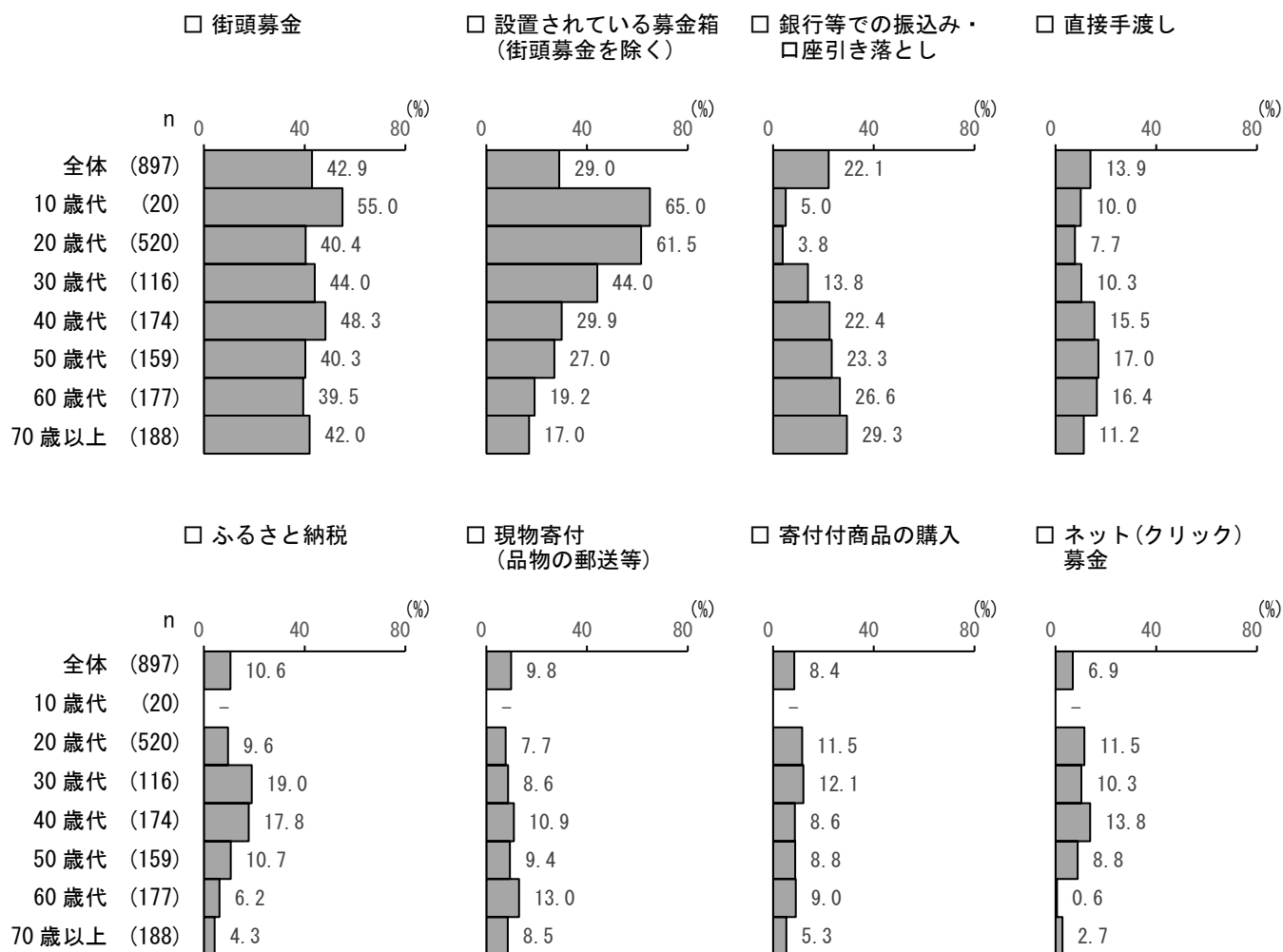
【図表77：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が42.9%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」(29.0%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(22.1%)の順となっている。

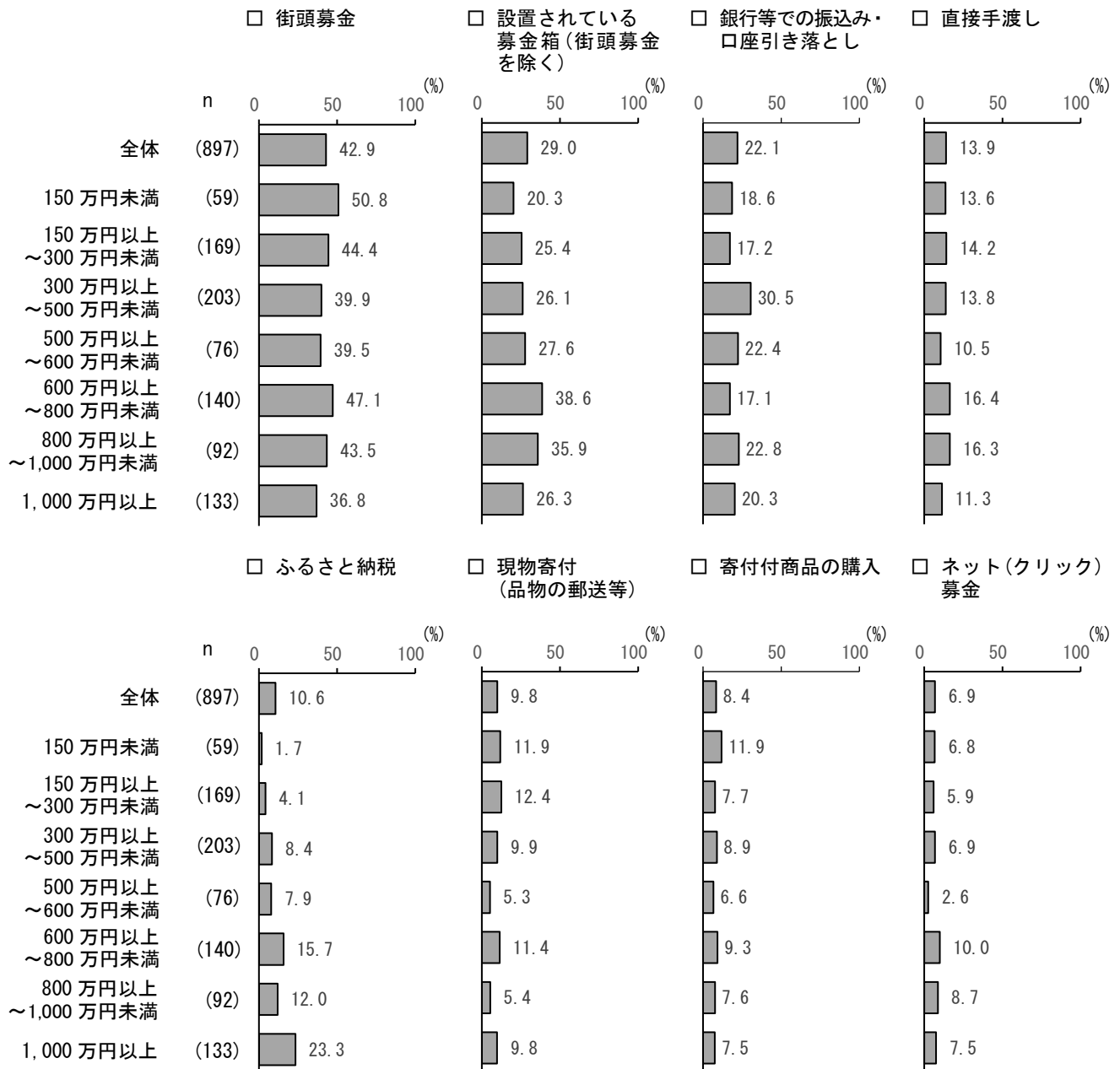
前回調査(平成27年度)と比べると、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」「銀行等での振込み・口座引き落とし」の割合が減り、「直接手渡し」「ふるさと納税」が増えている。

【図表78：年齢別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年代別にみると、40歳代が48.3%と最も高くなっており、他の年代もおおむね4割以上となっている。「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、20歳代で61.5%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。一方、「銀行等での振込み・口座引き落とし」は年代が上がるにつれて割合が高くなり、70歳代以上が23.3%と最も高い。

【図表79：年収区分別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年収区分別にみると、「150万円未満」(50.8%)が最も高く、「600万円以上～800万円未満」(47.1%)、「150万円以上～300万円未満」(44.4%)、「800万円以上～1,000万円未満」(43.5%)でも4割以上となっている。

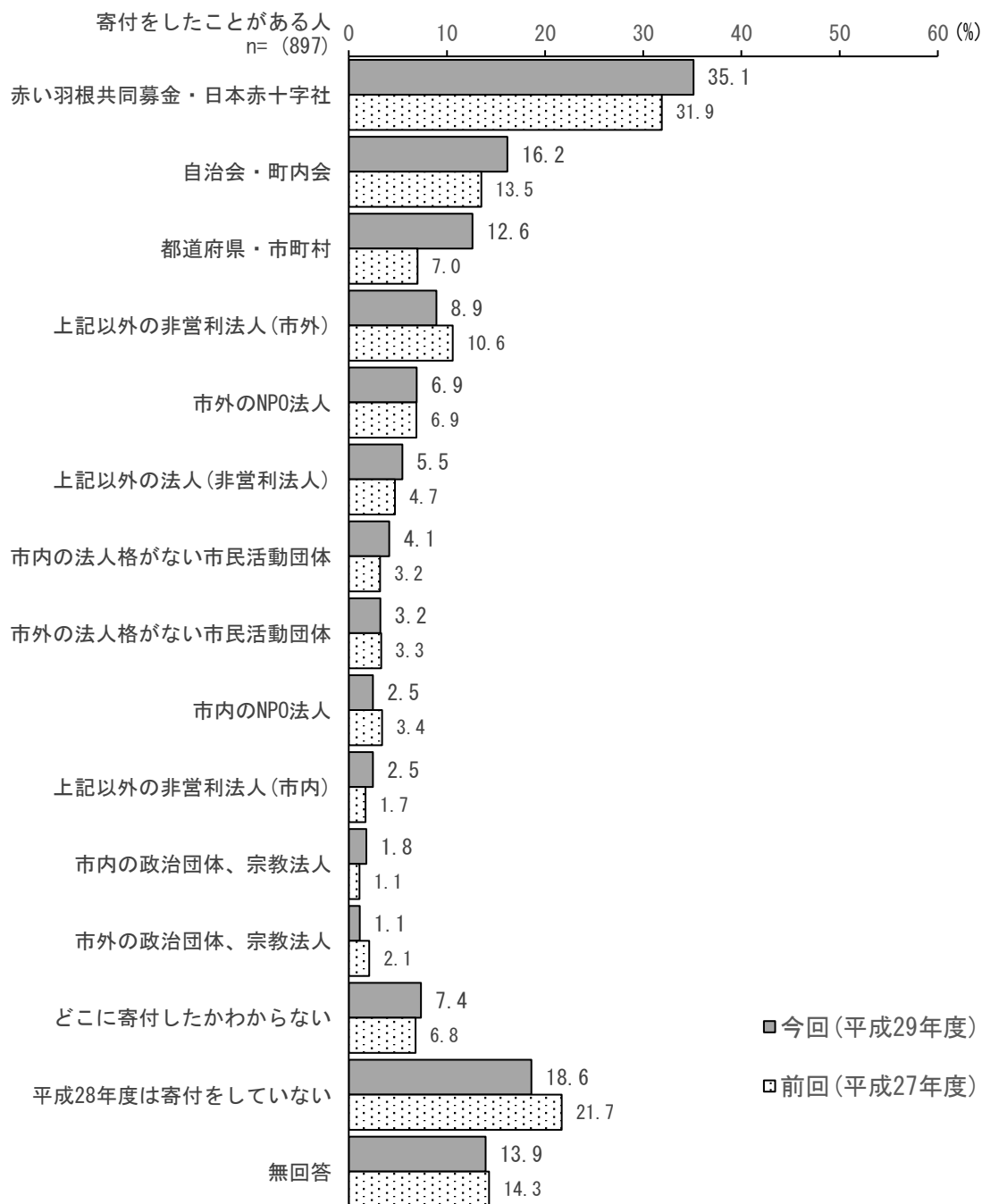
「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、「600万円以上～800万円未満」(38.6%)、「800万円以上～1,000万円未満」(35.9%)の割合が高い。

「銀行等での振込み・口座引き落とし」は、「300万円以上～500万円未満」が30.5%と最も高くなっている。

(4) 平成28年度に寄付をした団体

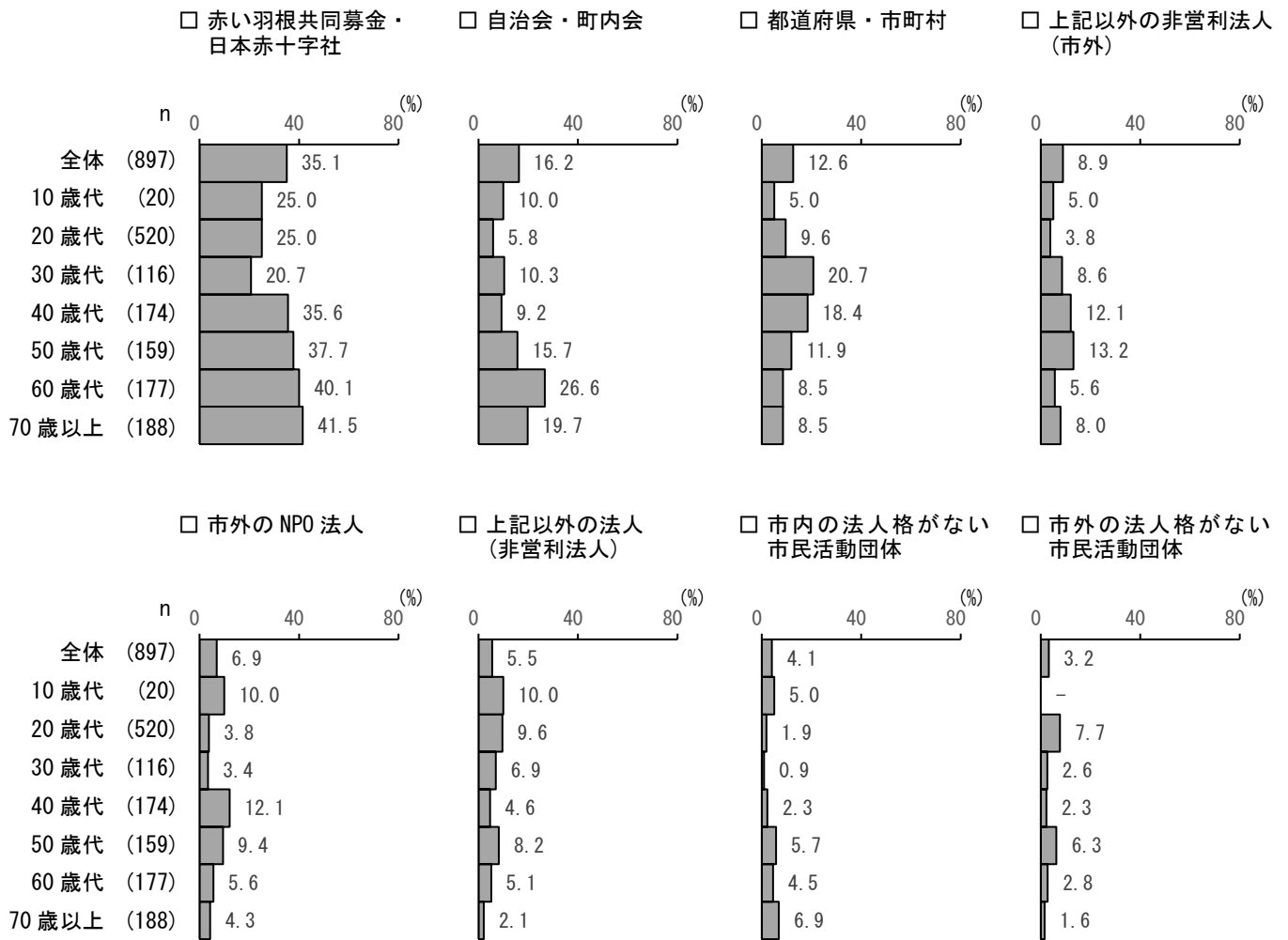
【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-4 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表80：平成28年度に寄付をした団体】



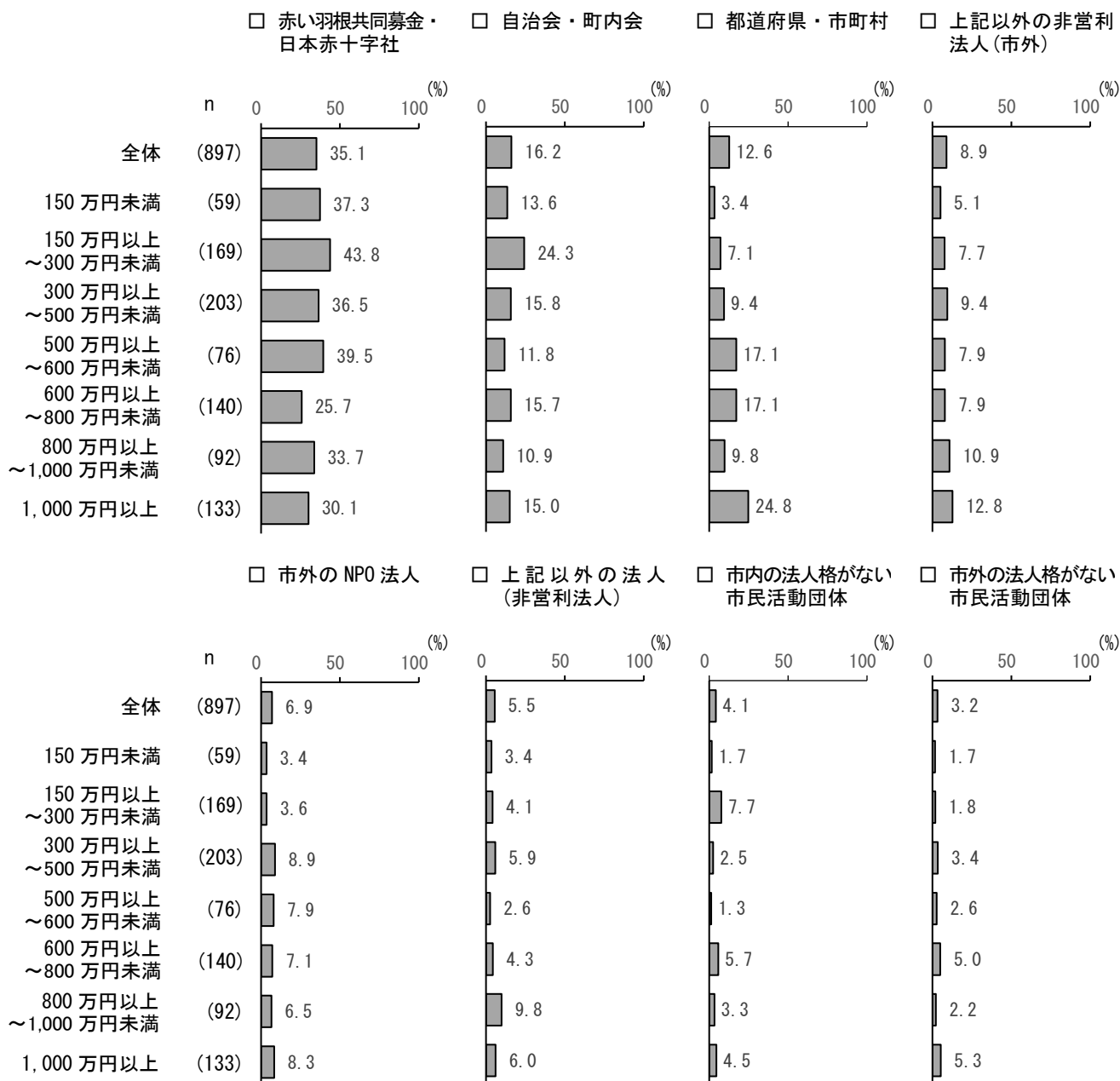
平成28年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が35.1%と最も高く、次いで、「自治会・町内会」（16.2%）、「都道府県・市町村」（12.6%）の順となっている。

【図表 8 1 : 年齢別／平成 2 8 年度に寄付をした団体】 上位 8 項目



「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年代別にみると、40歳代以上で3割を超えており、70歳代が41.5%と最も高くなっている。「自治会・町内会」は、60歳代が26.6%と最も高く、次いで、70歳代(19.7%)、50歳代(15.7%)となっている。「都道府県・市町村」は、30歳代(20.7%)や40歳代(18.4%)で割合が高くなっている。

【図表82：年収区分別／平成28年度に寄付をした団体】上位8項目



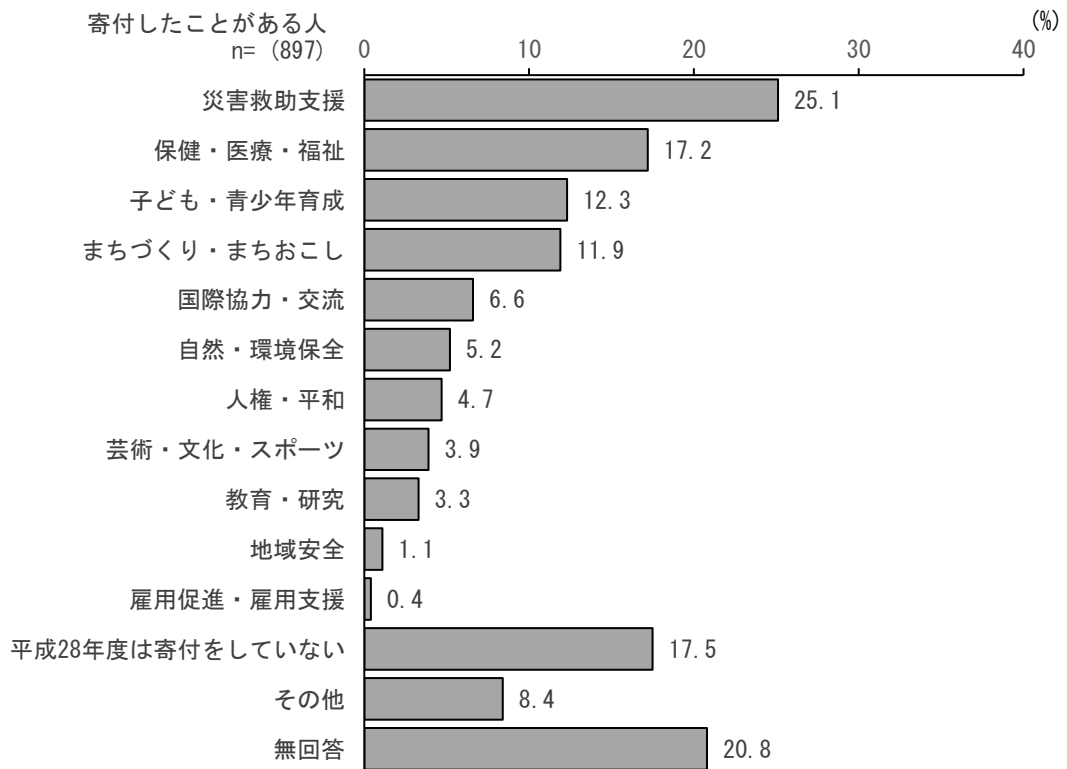
「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年収区分別にみると、「150万円以上～300万円未満」(43.8%)、「500万円以上～600万円未満」(39.5%)、「150万円未満」(37.3%)、「300万円以上～500万円未満」(36.5%)などで高くなっている。「自治会・町内会」は、「150万円以上～300万円未満」が24.3%と最も高い一方、「都道府県・市町村」では「1,000万円以上」が24.8%と最も高くなっている。

(5) 平成28年度に寄付をした分野

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きます】

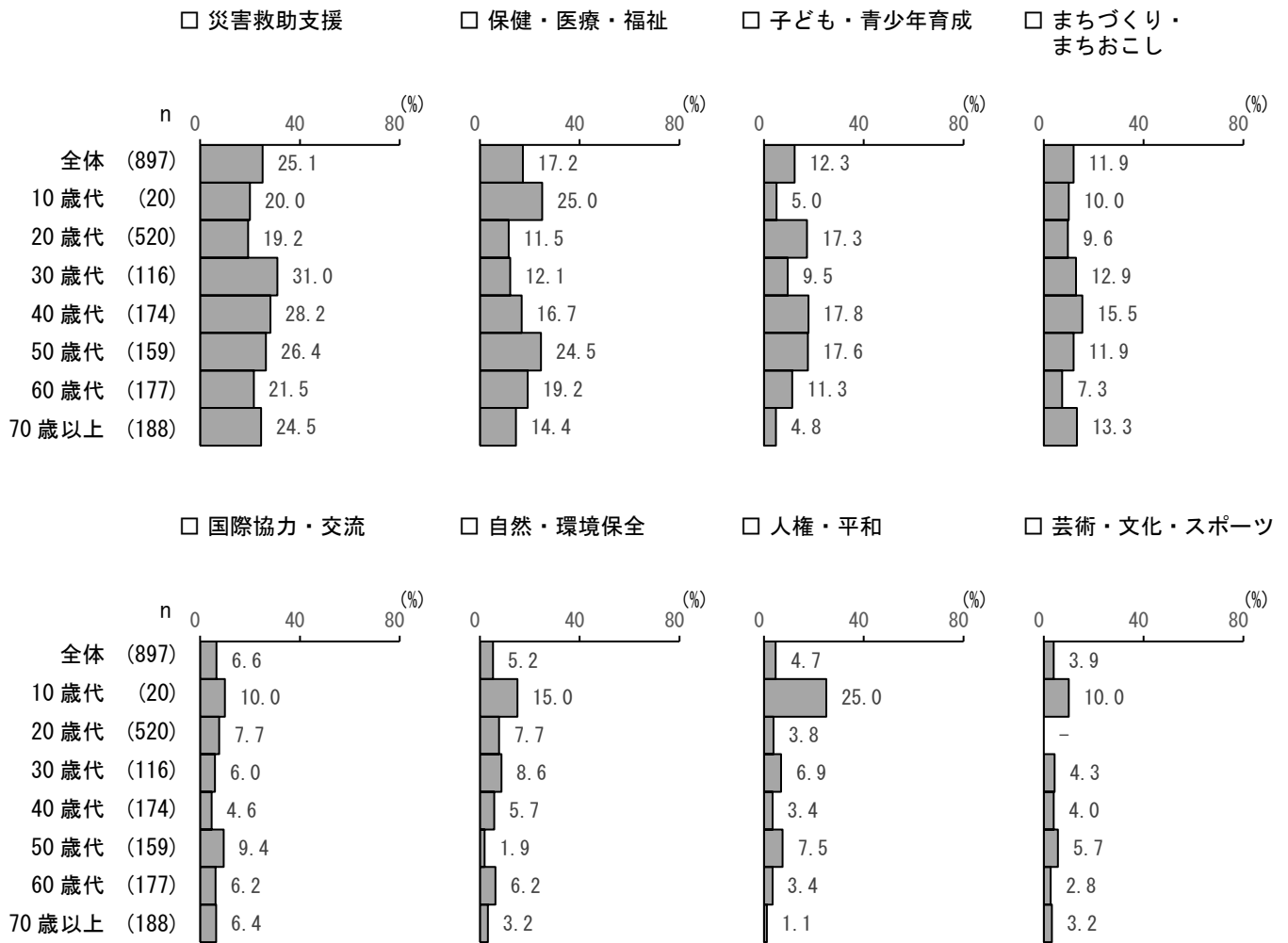
問5-5 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表83：平成28年度に寄付をした分野】



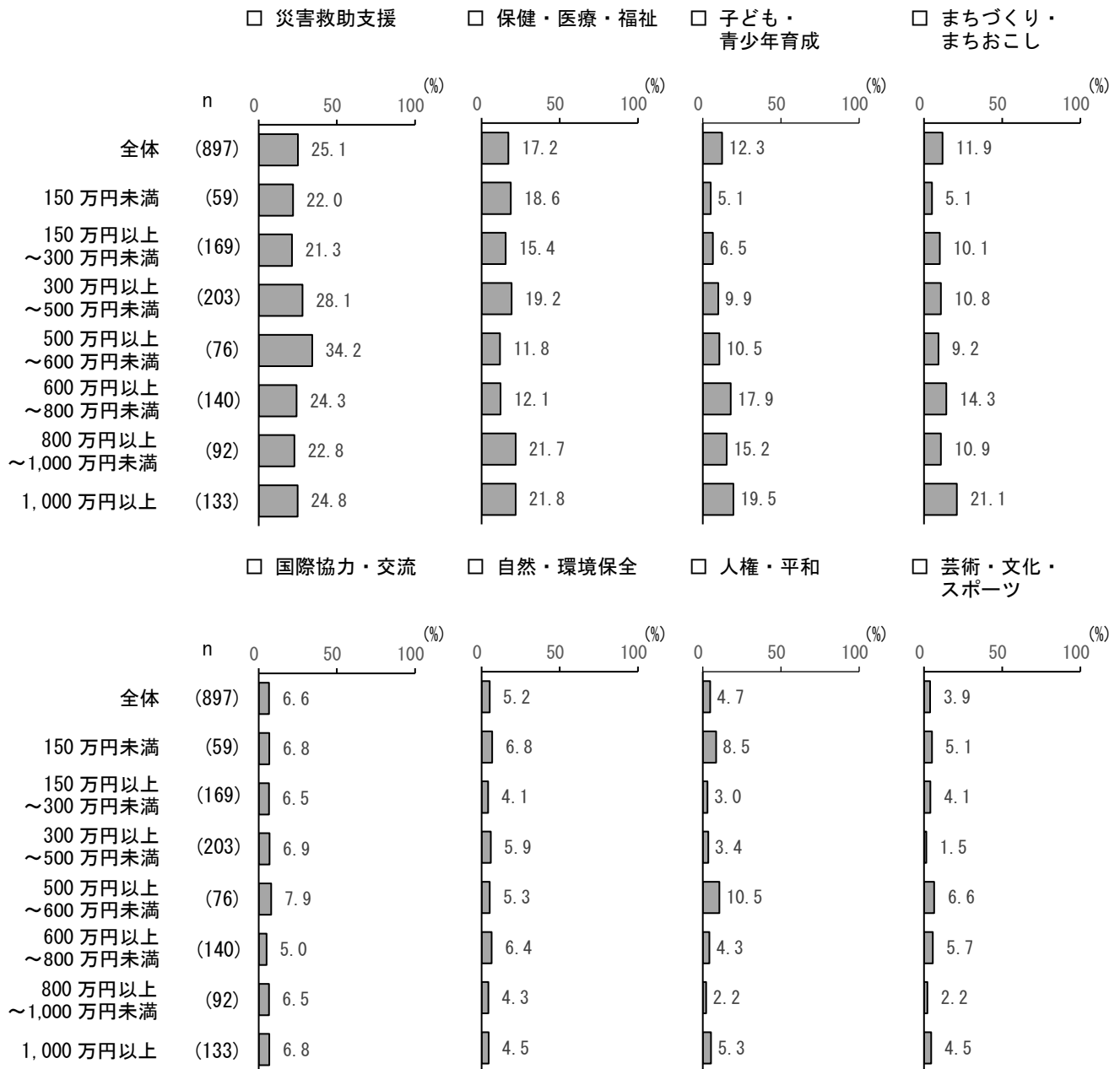
平成28年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が25.1%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(17.2%)、「子ども・青少年育成」(12.3%)、「まちづくり・まちおこし」(11.9%)の順となっている。

【図表84：年齢別／平成28年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年代別にみると、30歳代（31.0%）、40歳代（28.2%）、50歳代（26.4%）などで高くなっている。「保健・医療・福祉」については、50歳代の割合が24.5%と高く、「子ども・青少年育成」では、40歳代（17.8%）、50歳代（17.6%）、20歳代（17.3%）が他の年代より高くなっている。

【図表85：年収区分別／平成28年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年収区分別にみると、「500万円以上～600万円未満」が34.2%と最も高く、次いで、「300万円以上～500万円未満」(28.1%)、「1,000万円以上」(24.8%)、「600万円以上～800万円未満」(24.3%)、となっている。

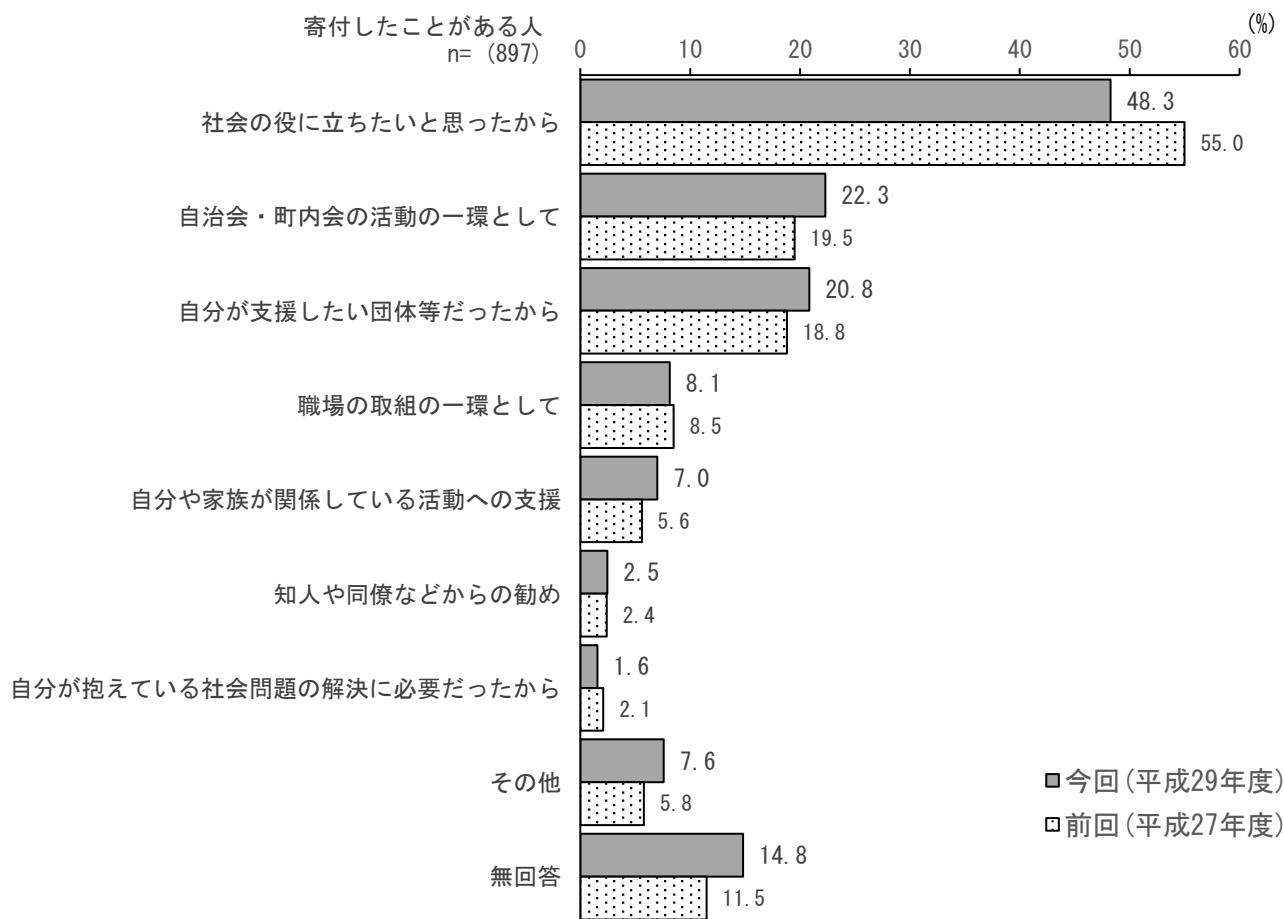
「保健・医療・福祉」では、「1,000万円以上」(21.8%)や「800万円以上～1,000万円未満」(21.7%)の割合が高くなっている。

「子ども・青少年育成」は、おおむね年収が上がるにつれ割合が高くなり、「1,000万円以上」が19.5%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

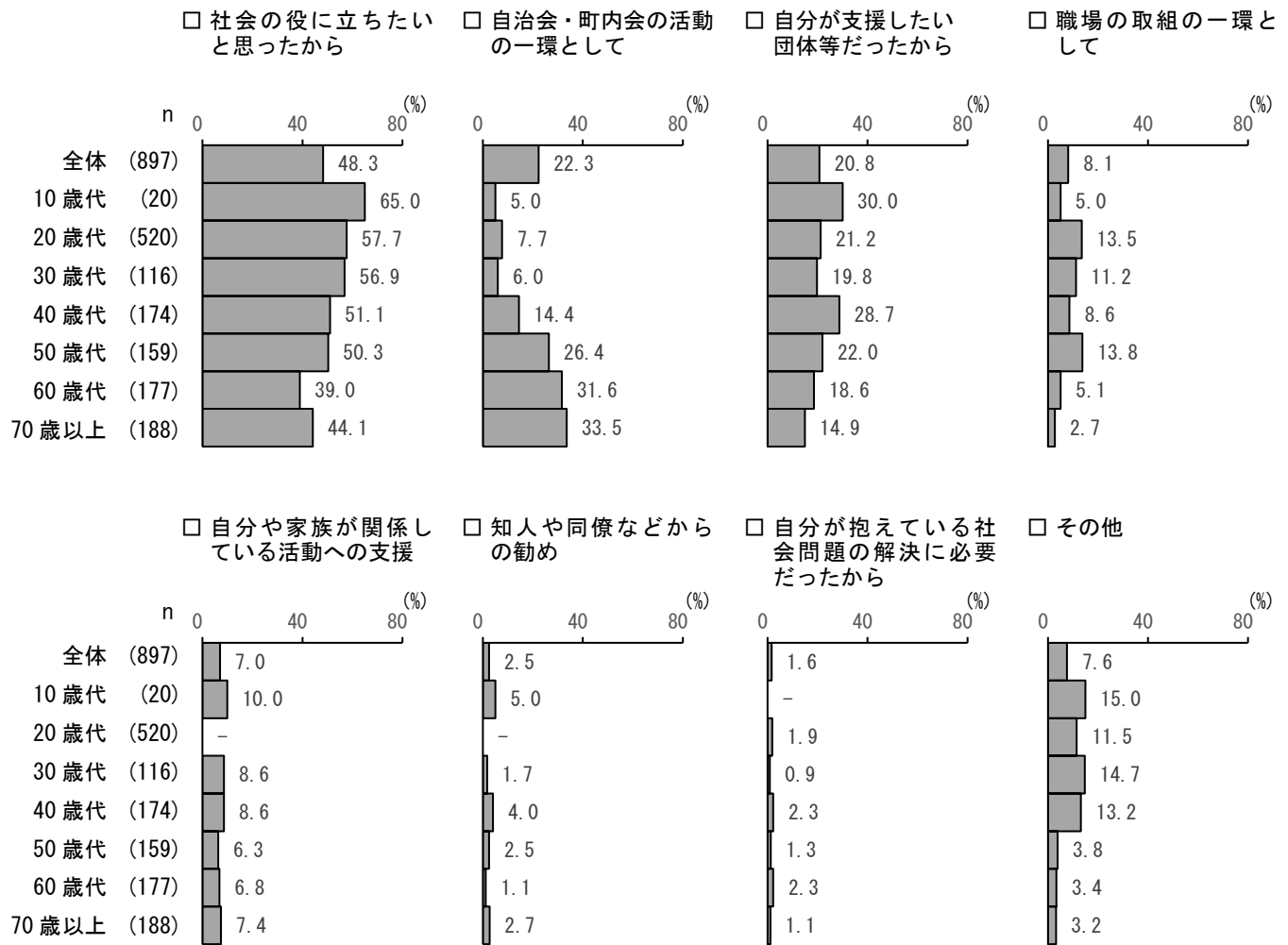
【図表86：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が48.3%と最も高くなっているが、前回調査（平成27年度）の55.0%より6.7%下がっている。

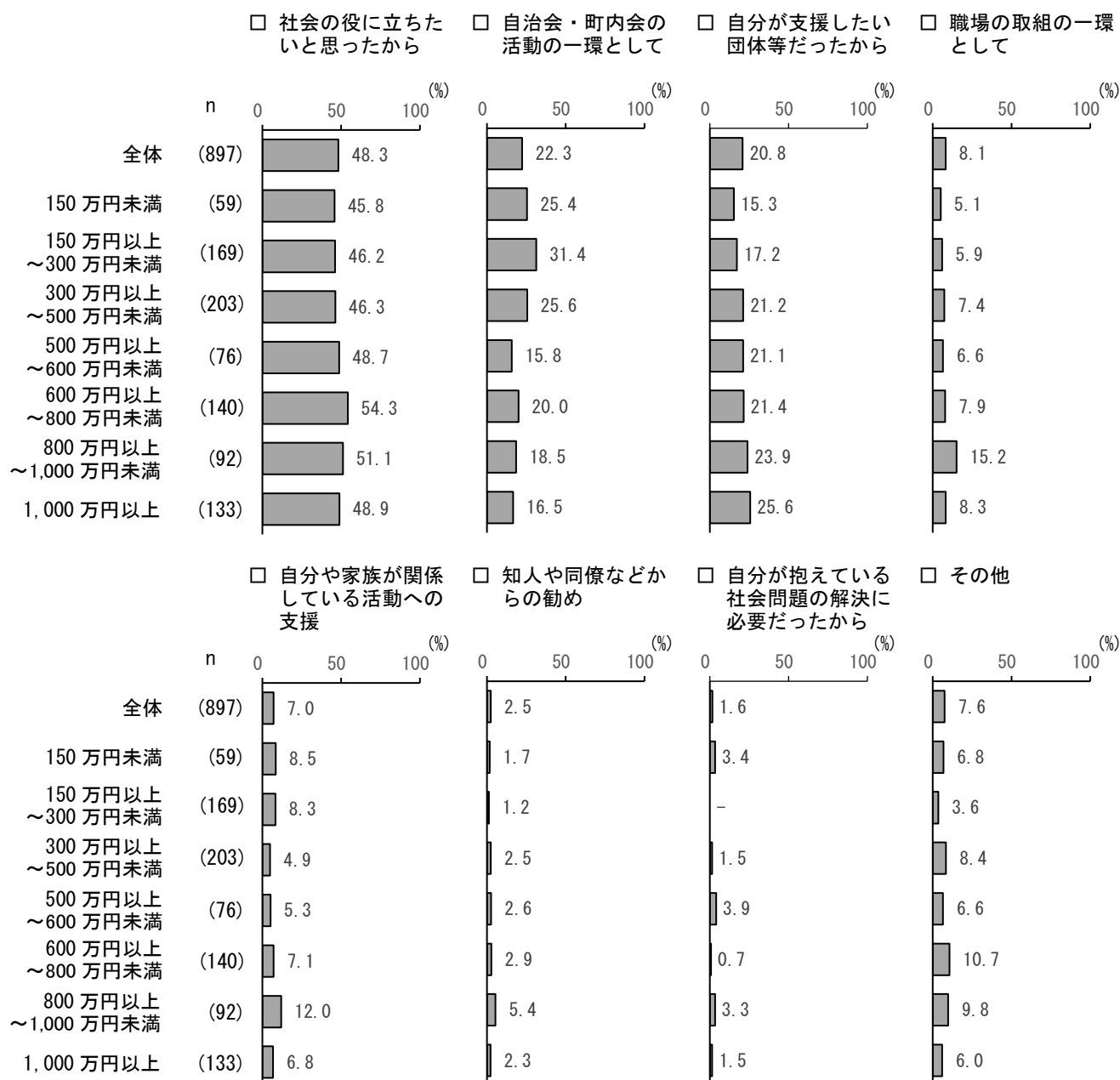
続いて割合が高いのは、「自治会・町内会の活動の一環として」（22.3%）、「自分が支援したい団体等だったから」（20.8%）の順となっている。

【図表 87 : 年齢別／寄付をした理由】



「社会的役に立ちたいと思ったから」を年代別にみると、20歳代（57.7%）、30歳代（56.9%）、40歳代（51.1%）、50歳代（50.3%）で5割以上となっている。一方、「自治会・町内会の活動の一環として」は、年代が上がるにつれて割合が高くなり、70歳以上（33.5%）や60歳代（31.6%）で3割を超えている。

【図表 8 8 : 年収区分別／寄付をした理由】



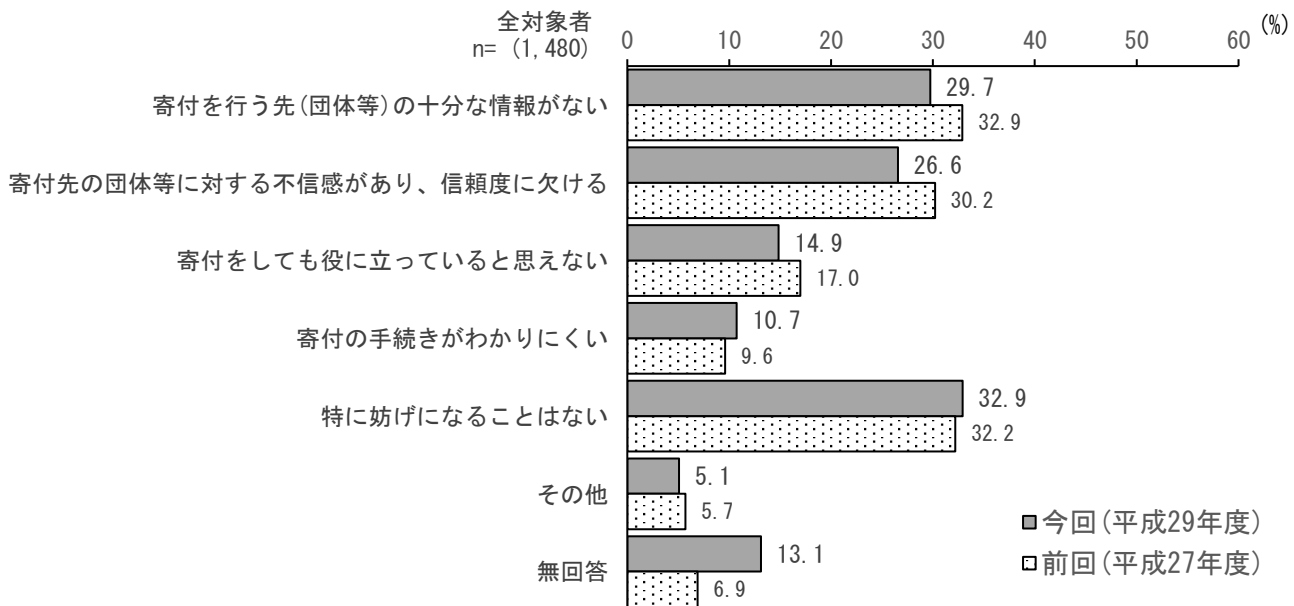
「社会的役に立ちたいと思ったから」を年収区分別にみると、「600万円以上～800万円未満」が54.3%と最も高いが、いずれの年収区分においても5割前後で大きな違いはみられない。

「自治会・町内会の活動の一環として」では、「150万円以上～300万円未満」(31.4%)や「300万円以上～500万円未満」(25.6%)、「150万円未満」(25.4%)の割合が高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

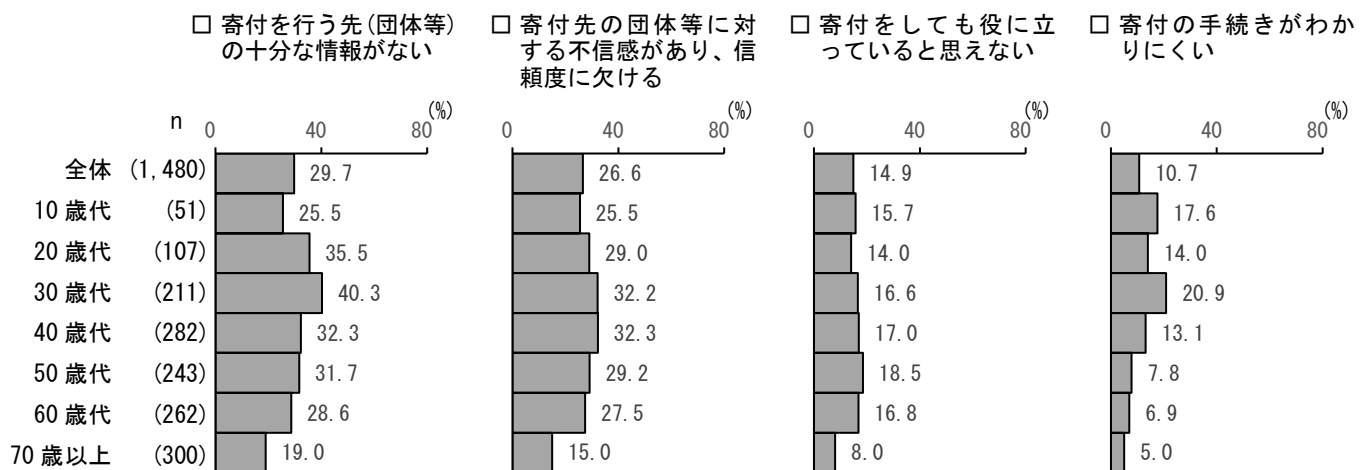
問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表89：寄付をするにあたり妨げとなること】



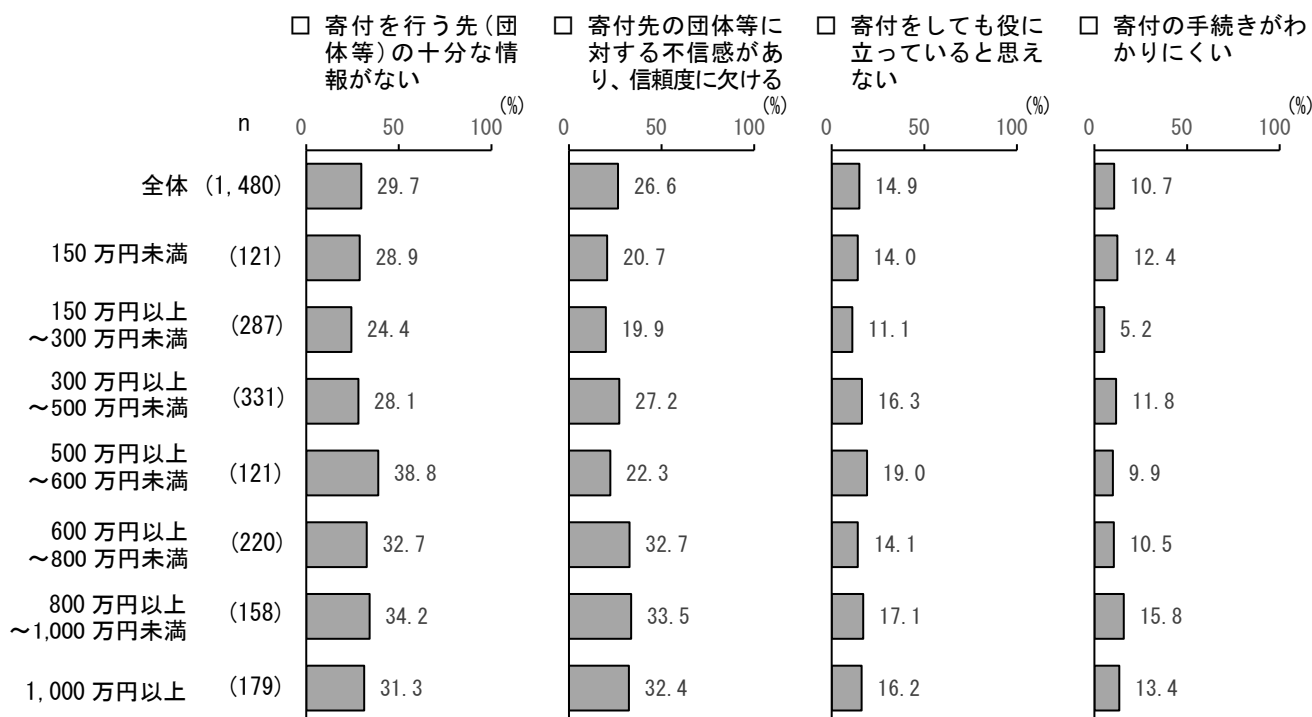
寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が29.7%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(26.6%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(14.9%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(10.7%)の順となっている。なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は32.9%となっている。

【図表90：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】



「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年代別にみると、30歳代が40.3%と最も高く、次いで、20歳代(35.5%)、40歳代(32.3%)、50歳代(31.7%)が3割を超えている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、70歳以上を除く年代で3割前後となっている。

【図表9-1：年収区分別／寄付をするにあたり妨げとなること】



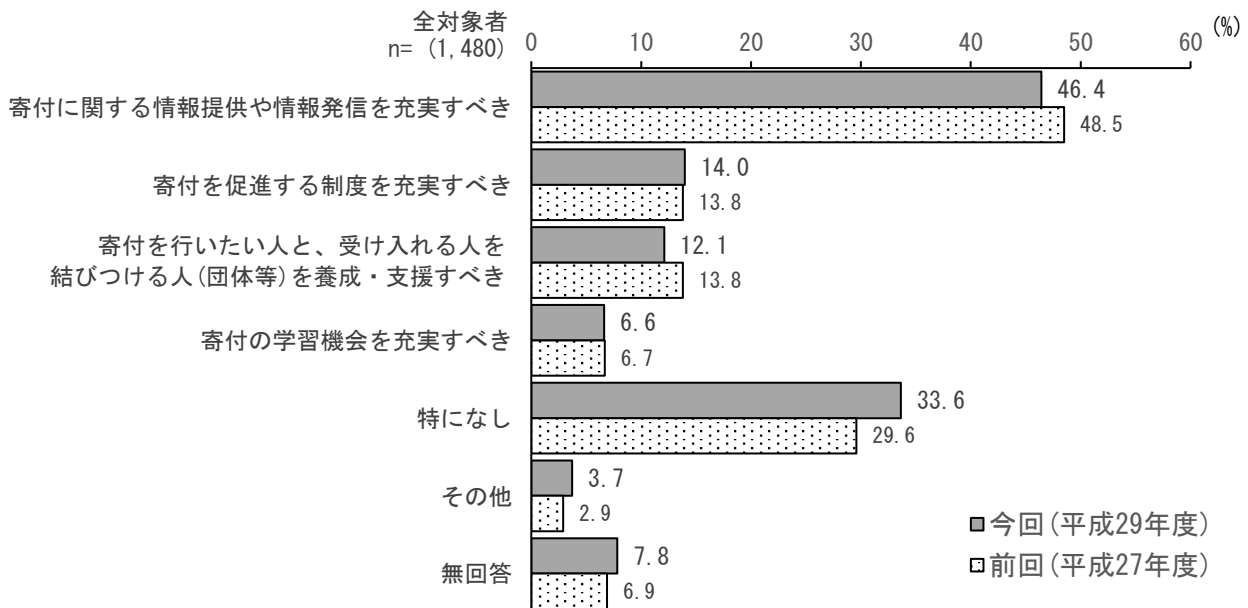
「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年収区別にみると、「500万円以上～600万円未満」が38.8%と最も高く、他の年収区分においても3割前後となっている。

「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、600万円以上のすべての年収区分において3割以上となっている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

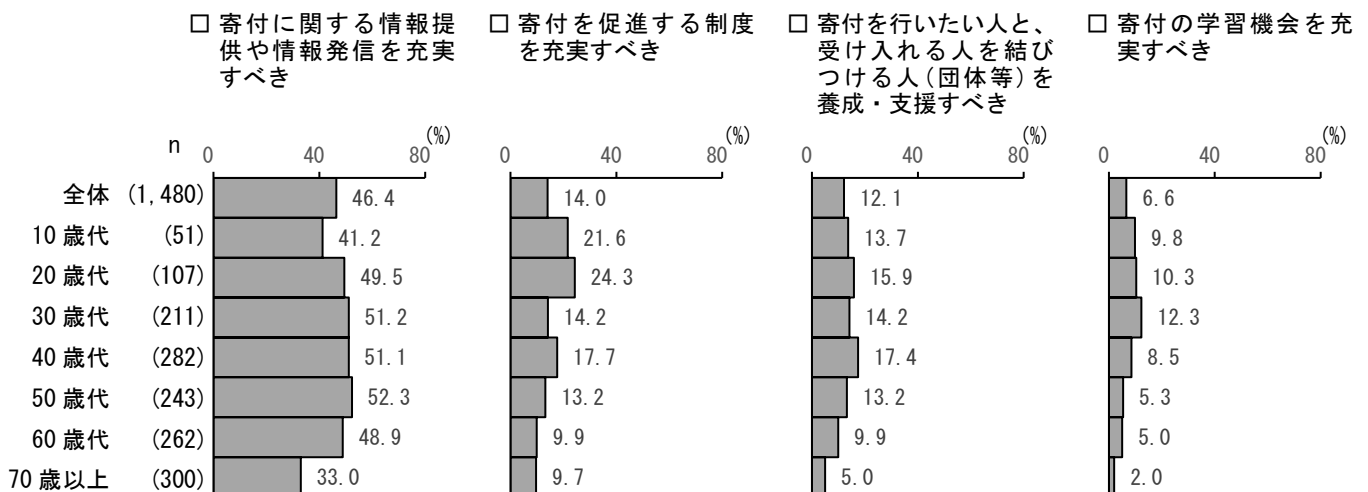
問5-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表9-2：寄付促進のために市に望むこと】



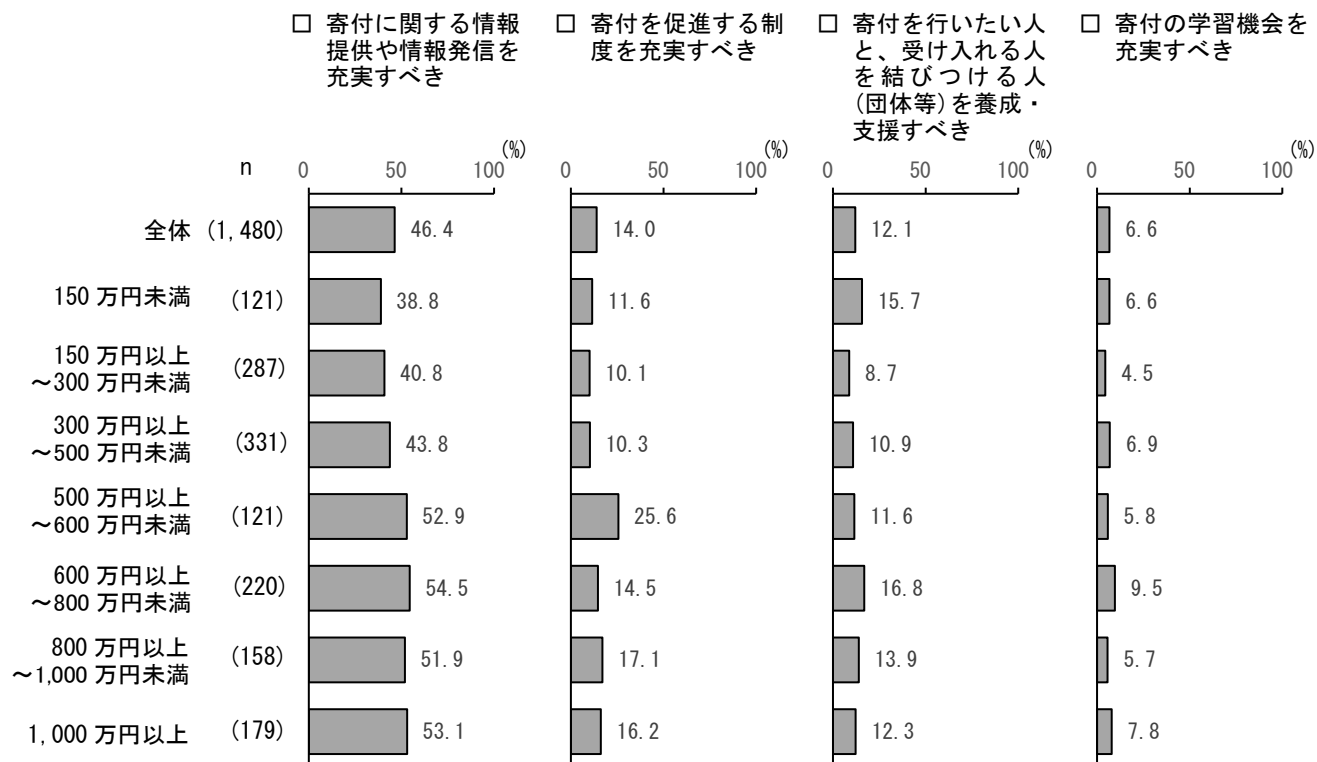
寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が46.4%と最も高く、次いで「寄付を促進する制度を充実すべき」(14.0%)、「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(12.1%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(6.6%)の順となっている。なお、「特になし」と回答した人は33.6%となっている。

【図表9-3：年齢別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年代別にみると、20～60歳代が5割前後と高くなっている。「寄付を促進する制度を充実すべき」は、20歳代(24.3%)、40歳代(17.7%)、30歳代(14.2%)、50歳代(13.2%)などとなっている。

【図表94：年収区分別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年収区別にみると、500万円以上のすべての年収区分において5割を超えている。

「寄付を促進する制度を充実すべき」は、「500万円以上～600万円未満」が25.6%と最も高く、次いで、「800万円以上～1,000万円未満」(17.1%)、「1,000万円以上」(16.2%)の順となっている。

6. その他

(1) 自由意見

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、236人からの回答があった。回答の多かった内容は、「市民活動・ボランティア活動について」「このアンケートについて」「市民活動情報の発信について」の順であった。

| 内容 | 件数 |
|--|----|
| 市民活動・ボランティア活動について (例：機会があれば参加したい、自分の生活で参加できない等) | 69 |
| このアンケートについて (例：アンケートに答えるのが難しい等) | 55 |
| 市民活動情報の発信について (例：情報提供の充実等) | 22 |
| 寄付対象団体や寄付金の流れについて (例：募金が正しく使われているか等) | 21 |
| まちづくりについて (例：道路整備、町の施設の充実等) | 20 |
| 自治会・町内会活動や地域コミュニティについて (例：活動の負担が大きい等) | 17 |
| 高齢者や障がい者施策について (例：高齢者や障がいのある方向け支援の充実等) | 12 |
| 文化・スポーツイベントの開催や文化・スポーツ施設の整備について (例：ホールの整備等) | 10 |
| 藤沢市の環境整備について (例：樹木の管理等) | 9 |
| 藤沢市の財政について (例：税金が高い等) | 8 |
| 市職員について (例：職員の地域活動等) | 7 |
| 児童施策について (例：子ども向け支援の充実等) | 7 |
| 市民のマナーの改善について (例：住民のモラルやマナー等) | 2 |
| 防災活動について (例：消防団等) | 2 |
| 防犯について (例：地域の安全安心) | 1 |
| 上記以外の市政について | 14 |
| その他 | 9 |

※ 1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

第 3 章 調査票

市民活動に関するアンケート調査

藤沢市では、市民活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、「みんなとまちが元気になる～活力あふれる市民活動のまち藤沢」をビジョンに、市民活動推進計画を策定しています。

この度、市民活動の現状及び日頃の暮らしの中で皆さまがどのように感じていらっしゃるかをお聴かせいただくために、アンケート調査を実施したいと考えております。

何かとお忙しいこととは存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2017年（平成29年）11月

藤沢市長
鈴木 恒夫

《ご記入にあたって》

1. 調査の対象者は、満15歳から80歳までの市民3,500名を無作為に抽出させていただきました。
2. 質問中の『あなた』とは、封筒の宛名のご本人を指しますので、質問にはその方自らお答えください。
3. 回答は、該当する番号を○で囲んでください。回答の数は質問によって異なりますので、ご注意ください。また、選択肢や質問によっては具体的にご記入いただくものもあります。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**12月8日（金）まで（必着）**にご返送ください。
5. お答えいただいた内容は統計的に処理を行い、本調査の目的以外に使用したり、個人の内容を公表することは一切ありません。
6. この調査についてご不明な点がありましたら、次の問い合わせ先へご連絡ください。

問い合わせ先

藤沢市役所 市民自治部市民自治推進課

電話 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407

※本アンケート調査にお答えいただく前に、以下に記載されている、地域活動、市民活動及び市民活動団体（NPOを含む）、ボランティアについてのご説明をお読みください。

1 地域活動とは

藤沢市では、市民の皆さまが地域において様々な活動を行っています。本アンケート調査においては、それらを総称して「地域活動」といたします。

主な地域活動：

- ・自治会・町内会 ・学校やPTA・子ども会等 ・老人クラブ
- ・地域団体 ・ボランティア ・市民活動団体（NPOを含む）
- ・公民館などのサークルや講座 等

2 市民活動、市民活動団体（NPOを含む）とは

本アンケート調査では、地域活動のうち、市民活動団体（NPOを含む）に関する活動を「市民活動」といたします。

「市民活動」

：市民が公益的な目的を持って自主的に活動している姿を指し、個人の活動からグループでの活動まで、様々な形があります。

「市民活動団体（NPOを含む）」

：市民活動を継続的に行っている組織を指します。市民活動団体が法人となる場合、特定非営利活動促進法に基づき、特定非営利活動法人（NPO法人）となるのが一般的ですが、最近では一般社団法人や一般財団法人として活動を始める組織も増えています。

市民活動団体の活動の種類

：介護、看護等の福祉に関する事業を行う団体やパソコン教室の運営等の情報化に関する事業を行う団体をはじめ、教育・研究、芸術・文化・スポーツ、環境保全、災害救助支援など、様々な分野の活動があります。

3 ボランティアと市民活動団体（NPOを含む）の違いとは

ボランティア

：個人の思い、個人のスタンスを表します。よりよい社会づくりのために、個人が自ら進んで行う、金銭的な見返りを求めない活動をいいます。労働の対価を求めない代わりに、活動に関わる個人の自発性に重点が置かれます。個人単独で行うこともありますが、グループで行うもの、あるいは市民活動団体（NPOを含む）や行政に関わって行うものなどがあります。

市民活動団体（NPOを含む）

：組織の社会的な役割を意識した言葉であり、組織のスタンスを表します。社会的使命の達成のために活動をする組織であり、自治体や企業とは異なった立場から社会的なサービスを提供し、社会的な課題の解決をめざすものです。

| |
|-----------------|
| 問1 あなた自身のことについて |
|-----------------|

【全員の方にお聞きします】

問1-1 あなたの性別を記入してください。(一つに○)

1. 男 2. 女

【全員の方にお聞きします】

問1-2 あなたの年齢を記入してください。

() 歳

【全員の方にお聞きします】

問1-3 あなたの独身・既婚を記入してください。(一つに○)

1. 独身 2. 既婚

【全員の方にお聞きします】

問1-4 あなたが住んでいる地区を記入してください。(一つに○)

1. 片瀬 2. 鶴沼 3. 辻堂 4. 村岡 5. 藤沢 6. 明治
7. 善行 8. 湘南大庭 9. 六会 10. 湘南台 11. 遠藤
12. 長後 13. 御所見 14. わからない

【全員の方にお聞きします】

問1-5 あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか。(一つに○)

1. 会社員 2. 自営業・家族従業者 3. 公務員 4. 団体職員
5. 派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト 6. 会社役員・団体役員
7. 主婦・主夫 8. 学生 9. 無職(7, 8を除く) 10. その他()

【全員の方にお聞きします】

問1-6 あなたの世帯全体の年間収入(税込み額)は、およそどのくらいですか。(一つに○)

1. 150万円未満
2. 150万円以上～300万円未満
3. 300万円以上～500万円未満
4. 500万円以上～600万円未満
5. 600万円以上～800万円未満
6. 800万円以上～1,000万円未満
7. 1,000万円以上～1,500万円未満
8. 1,500万円以上～2,000万円未満
9. 2,000万円以上

問2 地域活動について

【全員の方にお聞きします】

問2-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに○)

「知っていた」と回答した方は、その活動を行う団体を知っている場合、団体名をわかる範囲でお書きください。(いくつでもお書きください)

| 地域活動の種類 | ① 知っていたか | ② 団体名 |
|----------------------------|-----------------------|-------|
| 自治会・町内会 | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |
| 学校・PTA・子ども会等 | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |
| 老人クラブ | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |
| 地域団体(※1) | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |
| 市民活動団体 (NPOを含む) (※2) | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |
| 公民館などのサークルや講座 | 1. 知っていた 2. 知らなかった | |

※1 「地域団体」とは、ここでは市民センター・公民館を中心とした地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、郷土づくり推進会議、地区交通安全対策協議会、地区防犯協会、地区生活環境協議会、地区青少年育成協力会等を指します。

※2 「市民活動団体(NPOを含む)」とは、ここでは法人格の有無や種類を問わず、市民が公益的な目的を持って自主的、かつ継続的に活動している組織をいいます。

【全員の方にお聞きします】

問2-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

| 種類 | ① 参加の頻度 | ② 参加の理由 |
|----------------------|--|--|
| 自治会・ 町内会 | 1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 | 1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他 |
| 学校・P TA・子 ども会等 | 1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 | 1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他 |
| 老人クラ ブ | 1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 | 1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他 |
| 地域団体 (※1) | 1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 | 1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他 |

※1「地域団体」とは、ここでは市民センター・公民館を中心とした地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、郷土づくり推進会議、地区交通安全対策協議会、地区防犯協会、地区生活環境協議会、地区青少年育成協力会等を指します。

| | | |
|---|---|--|
| <p>市民活動 団体（N POを含 む） （※2）</p> | <p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p> | <p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p> |
| <p>公民館な どのサー クルや講 座</p> | <p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p> | <p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p> |

※2 「市民活動団体（NPOを含む）」とは、ここでは法人格の有無や種類を問わず、市民が公益的な目的を持って自主的、かつ継続的に活動している組織をいいます。

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問2-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市民センター・公民館
2. 市民の家
3. 自治会館・地区集会所
4. 保育園・幼稚園
5. 地域子供の家・児童館
6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校
7. 大学、大学院
8. 市民活動推進センター
9. 市民活動プラザむつあい
10. 地区ボランティアセンター
11. 地域の縁側
12. 福祉施設・介護施設
13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘）
14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家
15. 活動団体の借り上げた場所等
16. 教会、お寺、神社
17. 民間のホール、民間団体（会社）
18. 喫茶店、レストラン、ホテル
19. 個人の自宅など
20. その他（ ）

【問2-2、「①参加の頻度」で2~5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

問2-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市民センター・公民館
2. 市民の家
3. 自治会館・地区集会所
4. 保育園・幼稚園
5. 地域子供の家・児童館
6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校
7. 大学、大学院
8. 市民活動推進センター
9. 市民活動プラザむつあい
10. 地区ボランティアセンター
11. 地域の縁側
12. 福祉施設・介護施設
13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘）
14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家
15. 活動団体の借り上げた場所等
16. 教会、お寺、神社
17. 民間のホール、民間団体（会社）
18. 喫茶店、レストラン、ホテル
19. 個人の自宅など
20. その他（ ）

【全員の方にお聞きします】

問2-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 時間がない
2. 気恥ずかしい
3. 自分の生活で精一杯
4. 仕事が忙しい
5. 趣味や余暇活動を優先
6. 活動内容への不満
7. 活動内容がわからない
8. 身体状況から参加が難しい
9. 子育てや介護が忙しい
10. 活動の場が自宅から離れているなど不便
11. 地区外で活動している
12. 興味や関心がない
13. 参加の機会がない
14. その他（ ）

問3 市民活動について

「市民活動」とは、市民が公益的な目的を持って自主的に活動している姿を指します。ここでは、法人格の有無や種類を問わず、社会的な課題の解決のために、市民活動を継続的に行っている、「市民活動団体（NPOを含む）」に関する組織的な活動をいいます。

【全員の方にお聞きします】

問3-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。（一つに○）

1. はい
2. いいえ

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

| | |
|---------------|----------------|
| 保健・医療・福祉 | 1 |
| 教育・研究 | 2 |
| まちづくり・まちおこし | 3 |
| 芸術・文化・スポーツ | 4 |
| 自然・環境保全 | 5 |
| 災害救助支援 | 6 |
| 地域安全 | 7 |
| 人権・平和 | 8 |
| 国際協力・交流 | 9 |
| 子ども・青少年育成 | 10 |
| 雇用促進・雇用支援 | 11 |
| その他 (具体的に) | 12 (具体的に：) |

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
2. 困っている人を支援したいという気持ち
3. 職業人や住民としての責務を果たすため
4. 自分や家族が関係している活動への支援
5. 知人や同僚等からの勧め
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
7. 社会的に評価されるため
8. その他 (具体的に：)

【全員の方にお聞きします】

問3-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間がない
2. 気恥ずかしい
3. 自分の生活で精一杯
4. 仕事が忙しい
5. 趣味や余暇活動を優先
6. 活動内容への不満
7. 活動内容がわからない
8. 身体状況から参加が難しい
9. 子育てや介護が忙しい
10. 活動の場が自宅から離れているなど不便
11. 地区外で活動している
12. 興味や関心がない
13. 参加の機会がない
14. その他 ()

【全員の方にお聞きします】

問3-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに○)

1. はい 2. いいえ

【問3-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい
 2. 社会的な問題を解決してほしい 3. 地域課題を解決してほしい
 4. 個人的な問題を解決してほしい 5. 地域におけるイベントに参加してほしい
 6. 地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい
 7. その他(具体的に:)

【問3-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】

問3-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 市民活動がよくわからないから 2. 身近に市民活動団体がないから
 3. 市民活動団体の組織体制(財政基盤・事務能力等)が弱いから
 4. 市民活動団体の情報発信力・事業実行力が弱いから
 5. 市民活動団体の活動内容が気に入らないから 6. 市民活動団体に興味がないから
 7. その他(具体的に:)

【全員の方にお聞きします】

問3-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民活動を行う場所が少ない
 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない
 3. 市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない
 4. 市民活動の学習機会が少ない
 5. 市民活動のための休暇・休職制度が少ない
 6. 市民活動に対する経済的な支援が少ない
 7. 特になし
 8. その他(具体的に:)

【全員の方にお聞きします】

問3-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民活動を行う場所を充実すべき 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき
 3. 市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
 4. 市民活動の学習機会を充実すべき 5. 市民活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき
 6. 市民活動に対する経済的な支援を行うべき 7. 特になし
 8. その他(具体的に:)

問4 ボランティア活動について

「ボランティア」とは、よりよい社会づくりのために、個人が自ら進んで行う、金銭的な見返りを重視しない活動をいいます。ここでは、団体などの組織に属する一員として行う活動ではなく、個人的なスタンスで行うものをいいます。

【全員の方にお聞きします】

問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに○)

1. 関心がある
2. あまり関心がない
3. まったく関心がない
4. その他(具体的に:)

【全員の方にお聞きします】

問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

1. したことがある
2. したことがない

【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

1. 年に数回
2. 月に1～2回
3. 月に3～4回
4. 月に5回以上

【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-4 あなたは平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|--------------------------|-----------|
| 保健・医療・福祉 | 1 |
| 教育・研究 | 2 |
| まちづくり・まちおこし | 3 |
| 芸術・文化・スポーツ | 4 |
| 自然・環境保全 | 5 |
| 災害救助支援 | 6 |
| 地域安全 | 7 |
| 人権・平和 | 8 |
| 国際協力・交流 | 9 |
| 子ども・青少年育成 | 10 |
| 雇用促進・雇用支援 | 11 |
| 平成28年度はボランティア活動に参加していない。 | 12 |
| その他 （具体的に） | 13 () |

【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
2. 困っている人を支援したいという気持ち
3. 職業人や住民としての責務を果たすため
4. 自分や家族が関係している活動への支援
5. 知人や同僚等からの勧め
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
7. 社会的に評価されるため
8. その他（具体的に：)

【全員の方にお聞きします】

問4-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない
2. 活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい
3. 活動に参加しても、実際に役に立っているとは思えない
4. 活動に参加する時間がない
5. 活動に参加するために、休暇取得等を行う必要がある
6. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
7. 活動を行う際の保険が不十分
8. 特に妨げとなることはない
9. その他(具体的に: _____)

【全員の方にお聞きします】

問4-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。(あてはまるものすべてに○)

※すでに参加したことがあり、引き続き参加したい分野も含めてお答えください。

1. 保健・医療・福祉 2. 教育・研究 3. まちづくり・まちおこし
4. 芸術・文化・スポーツ 5. 自然・環境保全 6. 災害救助支援
7. 地域安全 8. 人権・平和 9. 国際協力・交流 10. 子ども・青少年育成
11. 雇用促進・雇用支援 12. ボランティア活動に参加したいと思わない
13. その他(具体的に: _____)

【全員の方にお聞きします】

問4-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
3. ボランティア活動の学習機会を充実すべき
4. ボランティア保険への加入推進等、事故への対応を整備すべき
5. ボランティア活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき
6. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する経済的な支援を行うべき
7. 特になし
8. その他(具体的に: _____)

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 街頭募金
2. 設置されている募金箱（「1. 街頭募金」を除く）
3. 銀行等での振込み・口座引き落とし
4. 直接手渡し
5. クレジットカード等の利用
6. 現物寄付（品物の郵送等）
7. 寄付付商品の購入
8. マッチングギフト（※1）
9. ネット（クリック）募金（※2）
10. ふるさと納税
11. 遺贈による寄付
12. その他（具体的に： _____)

※1「マッチングギフト」とは、企業や団体などが社会貢献のために寄付や義援金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が金額の上乗せを行い、寄付金額を増やした上で同じ寄付対象に寄付をするという取り組み。

※2「クリック募金」とは、ウェブページ内の決められた箇所をクリックすると、個人や企業がクリックされた回数に応じて環境問題や人道支援などに取り組む団体に現金を送金する仕組み。

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-4 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした団体はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自治会・町内会
2. 市内の法人格がない市民活動団体
3. 市外の法人格がない市民活動団体
4. 市内のNPO法人
5. 市外のNPO法人
6. 市内の政治団体、宗教法人
7. 市外の政治団体、宗教法人
8. 赤い羽根共同募金・日本赤十字社
9. 上記以外の非営利法人（市内）
10. 上記以外の非営利法人（市外）
11. 上記以外の法人（非営利法人）
12. 都道府県・市町村
13. どこに寄付したかわからない
14. 平成28年度は寄付をしていない

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-5 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

| | |
|-----------------|-----------|
| 保健・医療・福祉 | 1 |
| 教育・研究 | 2 |
| まちづくり・まちおこし | 3 |
| 芸術・文化・スポーツ | 4 |
| 自然・環境保全 | 5 |
| 災害救助支援 | 6 |
| 地域安全 | 7 |
| 人権・平和 | 8 |
| 国際協力・交流 | 9 |
| 子ども・青少年育成 | 10 |
| 雇用促進・雇用支援 | 11 |
| 平成28年度は寄付をしていない | 12 |
| その他 （具体的に） | 13 () |

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 社会の役に立ちたいと思ったから
2. 自治会・町内会の活動の一環として
3. 職場の取組の一環として
4. 知人や同僚などからの勧め
5. 自分や家族が関係している活動への支援
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだったから
7. 自分が支援したい団体等だったから
8. その他（具体的に：)

【全員の方にお聞きします】

問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 寄付を行う先（団体等）の十分な情報がない
2. 寄付の手続きがわかりにくい
3. 寄付をしても役に立っていないと思えない
4. 寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
5. 特に妨げになることはない
6. その他（具体的に：)

【全員の方にお聞きします】

問5-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. 寄付を促進する制度を充実すべき
3. 寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
4. 寄付の学習機会を充実すべき
5. 特になし
6. その他(具体的に: _____)

問6 その他

【全員の方にお聞きします】

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書

発行日／平成30年1月

発行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1-1

TEL 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407